

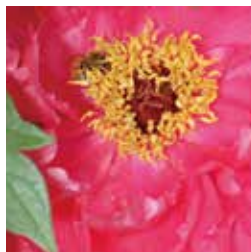
TUFS 大学概要 2018



東京外国語大学
Tokyo University of Foreign Studies

世界へ！

CONTENTS もくじ



02 学長メッセージ

03 第三期中期目標

04 学長対談

TOPIC ①

08 国際日本学部への期待

TOPIC ②

10 三大学協働教育

TOPIC ③

11 大学の世界展開力強化事業（ロシア）

12 新任教員／退任教員紹介

16 早わかり東京外大

18 世界に広がる学術交流協定校

20 研究力

教員専門分野一覧

主な研究組織

アジア・アフリカ言語文化研究所

南アジア研究センター

現代アフリカ地域研究センター

国際日本研究センター

語学研究所

海外事情研究所

総合文化研究所

国際関係研究所

34 学生支援

ワールド・ランゲージ・センター

附属図書館

総合情報コラボレーションセンター

留学支援共同利用センター

グローバル・キャリア・センター

ボランティア活動スペース

保健管理センター

学生相談室

42 社会の中の大学

TUFS オープンアカデミー

多言語・多文化教育研究センター

社会・国際貢献情報センター

大学文書館

東京外国語大学出版会

大学間連携／高大連携

28 教育力

言語文化学部

国際社会学部

大学院総合国際学研究科

留学生日本語教育センター

50 TUFS データ集

沿革略史／変遷／教職員・役職者／運営組織／教育研究組織／学生数／入学者数・入学志願者数／留学生数／留学者数／

国際学術交流協定校数／2017年度卒業・修了者数／科学研究費補助金による研究プロジェクト一覧／附属図書館蔵書数／

出版物数／TUFS オープンアカデミー／財政状況／土地・建物／スーパーグローバル大学構想 目標指標／女性の活躍の現状

Message from the President

学長メッセージ

TUFS towards Interculturality through Language and Area Studies



東京外国語大学長

立石 博高

昨今、産官学の各方面から「グローバル人材の育成」が唱えられています。21世紀に入り、国内市場と海外市場の境目がなくなり、国境を越えて人と物が大規模に移動するなど、「グローバル化」がますます進んでいます。そして、世界のあらゆる地域の経済・社会・文化がこのグローバル化に巻き込まれるという状況の中、物事への対処には、あたかも鳥が空から見おろすような、物事の全体像を地球規模で捉え、的確な判断を下す「俯瞰的視野」をもつ「グローバル人材」が必要とされています。

東京外国語大学は、江戸末期、幕府が設けた洋学の研究・教育施設で、外交文書の翻訳もおこなった本学の前身である蕃書調所以来、150年を超える歴史の中で、一貫して「グローバル人材」の育成をおこなってきました。「広い視野と優れた言語運用能力、世界の諸地域に関する深い知識を備え、異文化間の相互理解に寄与し、日本と世界を結ぶ人材、全地球的課題に取り組むことのできる人材」を広く社会に送り出していくことを本学の役割と考えています。卓越した「グローバル人材」にとって欠かさないのは、「主体性」、「積極性」、そして「チャレンジ精神」です。本学は、学生たちがさまざまな学習と課外活動などを通じてこれらのものを身につけられるように支援しています。そして、大学卒業後は、豊かな想像力と批判的思考力をもったマルチリンガルな地球市民として世界各地で活躍してもらいたいと願っています。

グローバル化が進展する現代において、異文化理解と多文化共生を学び文化的多様性を尊重するインターカルチュラリティ (interculturality) を身につけた人材を国際社会に輩出し続ける東京外国語大学にご期待ください。

第 三 期 中 期 目 標

2016年度～2021年度

世界諸地域と日本を結ぶ教育研究拠点大学 世界の言語・地域の理解を基盤とし、異文化間の対話と相互理解、 地球社会における人々の共存・共生に寄与する東京外国語大学

東京外国語大学は、1873年に建学された東京外国語学校の使命を引き継ぎ、外国の言語とそれを基底とする文化一般を研究・教授し、言語を通して外国に関する理解を深めることを目的として、日本と世界諸地域を結ぶ人材を養成してきました。やがて建学150周年を迎えるにあたり、世界諸地域の言語・文化・社会に関する高等教育の中心として、また、学際的研究拠点としての役割をさらに明確にします。すなわち、広い視野と優れた言語運用能力、世界の諸地域に関する深い知識を備え、異文化間の相互理解に寄与し、日本と世界を結ぶ人材、地球的課題に取り組むことのできる人材の養成を目指すとともに、世界の最先端の水準をもつ研究成果を発信していきます。

教育

日本のグローバル化を先導する大学として、キャンパスのグローバル化や、海外の教育機関と連携した世界の言語・文化・社会の教育研究を通じて、地球的課題に取り組み、世界諸地域の人々と協働できる多言語グローバル人

材を養成します。また、日本社会の文化的発信力を強化する教育研究の機能を高めるために、国際的視野からの日本研究を推進し、留学生教育の拠点として国内外の教育機関と連携します。

研究

グローバルな視点に基づく世界諸地域の政治・経済・社会、文化・諸言語の研究並びに日本及び日本語に関する研究を推進します。また、共同利用・共同研究拠点として、

アジア・アフリカ地域の諸問題及び諸言語に関する研究をリードし、研究蓄積を情報資源化する事業を国内外の研究機関・研究者とともに推進します。

社会貢献

自治体や民間企業、各種NGOと多面的に協働し、世界諸地域・諸言語に関する知識や研究成果と、多文化共生社会の実現をめぐる具体的課題とを結ぶ社会実装教育に取

り組みます。また、知識社会における生涯教育やリカレント教育のニーズに積極的に応え、大学が中心となって市民社会の文化的活性化を図ります。

このようにして本学は、これまで培ってきた日本を含む世界諸地域の知識・経験をもとに、多面的な大学連携を推進する「ネットワーク中核大学」として、高等教育全体のグローバル化を牽引し、地球社会における人々の共存・共生に寄与します。



東京外国語大学
Tokyo University of Foreign Studies

対

学長対談

医療と人文知を

結びつける

新しい学問領域を

創造したい

立石博高

東京外国語大学
学長

吉澤靖之氏

東京医科歯科大学
学長

国の財政状況の悪化のなか、
国立大学を取り巻く環境が厳しさを増し、
各大学は独自の魅力を活かし、
研究や教育の質を高めていかなければならない。
吉澤靖之学長に、大学が直面する
課題と未来像について話を伺った。

よしざわ やすゆき

1969年東京医科歯科大学医学部卒業。医学博士（筑波大学）。専門は呼吸器内科学。米ウィスコンシン医科大学客員教授、東京医科歯科大学医学部附属病院教授、同大学大学院医歯学総合研究科教授、同大学副学長などを経て2014年4月から現職。



立石博高学長(以下、立石) 現在、大学を取り巻く環境は大変厳しくなっております。今後、大学が生き残るためには、特色のある“尖った”大学同士が連携を深めることがますます重要となるでしょう。こうした観点から、今日は吉澤先生にいろいろお話を伺いたいと思います。

吉澤靖之学長(以下、吉澤) 私は2014年に、東京医科歯科大学の学長に就任しました。就任後、最初に着手したのが入試改革です。有望な学生を幅広く集めるため、Web出願をスタートさせると同時に、東京外大の先生にも入試面接に加わっていただきました。医学系の研究者は視野が狭くなりがちで、面接で人物を評価するのが不得手なんですね。こうした経緯から、両大学間で入試面接員の交流が始まったわけです。

教養がなければ全人的医療は実践できない

立石 人材育成に関して、吉澤先生は過去にこんなことを書かれていますね。理系の人間は論理的思考を得意とし、文系の人間は全体を理解する感性や構想力を具えている。そのどちらが欠けていても、「全人的医療」を実現することはできない、と。この文章を読んで、大変感銘を受けました。

吉澤 医者は最適な治療を行うため、必要な知識と技術を学ばなければなりません。しかし、十分な治療効果を上げるためには、患者さんのバックグラウンドを理解することも必要です。

ある患者さんは、他家に養子入り

したことで喘息が悪化し、帰宅するたびに発作を起こすようになりました。病気は心の状態と深く結びついているので、患者さんが置かれた家庭的・社会的な環境を理解しないと、治療が難しい面がある。それを理解した上で、患者さんの体と心を総体的に癒やすことが重要です。

立石 それが、先生のおっしゃる「全人的医療」ですね。

吉澤 そうです。患者さんの状態を総体的に診なければ、体のどこに問題があるのか、病気の原因は何かを理解することはできない。昔の医者には、それを見極める力がありました。学部で2年間教養を学んだり、学生運動に熱中したりと、医学以外のことを学ぶ機会がふんだんにあったからです。

ところが、今の医学生は医学の勉強しかしない。しかも、最近は診察室で、コンピューターの画面を見ながら患者さんと会話するようになった。患者さんの顔をほとんど見ないままに診療を終える医者もいます。これでは、患者さんの状態を総体的に診ることは難しいと言

わざるを得ません。

立石 学生運動といえば、吉澤先生も若かりし頃は、かなりご活躍されたようですね。

吉澤 私が先頭に立って旗振り役を務めたわけではありませんが、教養部のある市川市で原潜寄港反対デモの委員長を務めたこともあります。あの頃は、学生運動を通じて感受性を磨いていくようなところがあった。「この現状を変えなくては」「そのためには何をすべきか」と、皆が真剣に考え、夜を徹して議論を戦わせたものです。

ところが、今、医者を目指す若い人々には、そういう感受性が欠けている。私自身も、今でこそ学長をやっていますが、過去には失敗ばかりしてきた人間です。失敗を経験すると、「なぜ失敗したのか」と考えますよね。その繰り返して人間は成長していく。前向きな失敗は人を育てるのです。

本学には、中高一貫校でトップクラスの成績を取ってきたような学生が多い。しかし、勉強だけをして医者になったような人間は、ろくな医者になりません。今後はもっ



と多様な人材が集められるよう、入試の方法も変えていきたいと思っています。

立石 多様性がないと、学内に活力が生まれませんからね。ところが、今の子どもたちはかわいそうなことに、失敗を経験できるだけのゆとりもない。

実を言えば、私は東京外大に7年間在学したのです。1年間は語学留学で、後の2年間は休学してマドリード(スペイン)の日本大使館で働いていました。滞欧中に「勉強したい」という思いが募り、帰国して大学院に進学。今の子どもたちとは対極にある生き方ですね。昭和30、40年代に青春を過ごした世代は、今で言う“ゆとり世代”に近いように感じています。当時のような大学生活を再現することは不可能ですから、大学側は十分な資質を持ち、自分の大学の特色に合った学生を入学させ、責任を持って育てていかなければならない。そういう体制づくりが大学人には求められている、ということです。

吉澤 その通りです。本学の基本理念は、「知と癒しの匠を創造し、人々の幸福に貢献する」というものです。医者には知識や技術・技能も必要ですが、それだけで「知」に到達することはできない。自己アイデンティティーを求めて試行錯誤することが大変重要です。一方、「癒し」の力を磨くためには、教養や感性、多様性を受け入れるコミュニケーション力が必要です。コンピューター画面を見ながら、自分の意見を患者さんに一方的に押しつけるような診療では駄

勉強だけを
していても
ろくな医者
になりません



目なんですね。患者さんの話をまず受け止めて、自分なりに理解し、専門的な立場から助言をする。それが我々医者の仕事ですから。

大学間交流を通じて新しい学問領域を創生

立石 その意味でも、私どもが貴学の入試のお役に立てたことはうれしいですね。本学でも、「暮らしと健康」という科目で、医科歯科大の先生たちに授業をしていただいております。

吉澤 こうした大学間交流を通じて、新しい学問領域を生み出せないか、と考えています。キーワードは「言語、文化、宗教から見た世

界」。死生観や病に対する考え方は国によって違う。東京外大との交流を通じて、医療と言語・文化・宗教を結びつける新しい学問分野を創造したい、というのが私の夢なのです。

立石 私もそれを期待しております。本学の学生が新たな見方や考え方を学ぶために、今後とも協力いただきたいと思います。

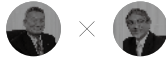
吉澤 本学でも、教養部で人文系の学問を学ぶ機会を一層充実させることによって、「知と癒し」を兼ね具えた医者を育てていきたいですね。

「全人的医療」を実現するためには、知識を十分に咀嚼し、「知」のレベルにまで引き上げることが重要です。そのために必要なのは、教養でありヒューマニティーです。優れた医者になるためには、絵を見て素晴らしいと感じ、その素晴らしさを表現できるような感性や直観力が必要なのです。

立石 ヒューマニティーとは「人文知」を意味する語ですが、本来ヒューマニティーとは、芸術から科学までを包含する博物学的な知の体系でした。このようなユニバーサル・ナレッジが求められていたからこそ、ルネサンス期にはレオナルド・ダ・ヴィンチのような万能の超人が大いに活躍したわけですね。ところが、社会が複雑化し、地球規模でさまざまな問題が噴出している現代においては、1人の超人がすべての知を包括することは難しい。さまざまな学問分野の研究者が協働することが、ますます必要になるわけですね。

吉澤 異分野の研究者による協

President Talk



働がもたらすメリットは2つあります。1つは「新しい学問分野の創生」、もう1つは「研究費申請の効率化」です。重箱の隅をつつくようなやり方で研究費を申請しても、予算を確保するのは難しい。まずは全体構想をつくり、連携先を探しながら、研究費を共同申請するのが効果的です。

例えば、日本企業の海外拠点で働く人々は、医療や健康に関心が高く、現地の状況や文化を知りたいという意欲も高い。こうした企業と協力しながら、研究を進めることは十分に可能です。本学のように病院機能を持つ大学は、予算規模が大きい半面、人件費もかさむ。それを解決する方法の一つが、産業界との連携だと考えています。

特色ある大学が連携して付加価値の高い人材を育成

立石 ところで、貴学は本学と同様、スーパーグローバル大学創成支援校(以下、スーパーグローバル大学)に指定されていますね。スーパーグローバル大学に求められる国際化対応や貧困国・地域への貢献について、どのような活動をされていますか。

吉澤 医療の国際貢献には現地の実情に応じた人材育成が重要と考えています。本学の海外拠点は、ガーナ大学とタイのチュラロンコーン大学、チリ大学にあります。このうち、チュラロンコーン大学とチリ大学との間では、2つの大学が共同で博士号を授与するジョイント・ディグリー・プログラムを設置しています。また、ガーナ大学とも同プログラムを実施するた

め、協議を進めているところです。

立石 東京外大では「留学200%」というスローガンを掲げ、留学を奨励しています。1・2年次にショートビジットを行い、3・4年次に1年間の交換留学をするという仕組みです。また、本学は海外の地域研究の拠点であると同時に、「日本を世界に発信する」という目標も持っています。海外での日本研究や日本語教育を促進するため、グローバル・ジャパン・オフィスを世界15の協定校に設置しております。



“
尖った”
大学同士が
連携すること
に
意味がある

吉澤 国際貢献という点では、チリ保健省からの要請により、大腸がん早期診断プロジェクトに協力しています。それから、感染症研究で有名なタイのマヒドン大学と連携して、フィールドワークを行うことも計画しています。フィールドワークを実施するとなると、現地の宗教や文化、言語などの知識は必須ですから、貴学との協力が大きな強みになると期待しています。

立石 それは素晴らしいですね。本学の卒業生で、ペルシア語を専攻して現地の医療問題に関心を持ち、貴学で博士号を取得して、国際保健医療事業開発学の講師をしている女性があります。これからは、語学に堪能で、地域の事情に精通し、医療政策に関わる人材がますます求められるでしょうね。

吉澤 大学同士で連携しながら、そうした人材をシステムチックに育成する、新しい学問分野やプログラムをつくっていききたいですね。

立石 今後、特色ある大学として生き残るためにも、貴学のような“尖った”大学と連携しながら、本学に欠けた部分を補完していきたい。また、産業界とも連携を深めながら、社会の持続的発展のベースとなるイノベーションを考えていく必要がありますね。

吉澤 おっしゃる通りです。人材育成、新しい学問領域の創生、グローバルイノベーション、産学官連携——課題は山積みですが、大学間で協調しながら、着実に取り組みを進めていくことが大切だと思います。

国際日本学部への期待

日本を取り巻く世界の環境の変化、日本のプレゼンスの相対的な低下、
日本社会の多言語・多文化化など、
現代日本の抱える課題の問題解決に寄与する人材を育成するため、
東京外国語大学は、3つ目の学部として、
2019年度に「国際日本学部」の新設を
構想・設置申請(2018年5月1日現在)しています。



養成する人材像

国際的な視野から日本を総合的に学び、世界に向けて日本を発信する力や、多文化化する日本の問題解決に資する知識や協働力を備えた人材

学びの3つの特色

Point

1

日本そのものをフィールドとして、 分野を超えた多角的な視点で日本を捉え直す

日本そのものをフィールドとして分野を超え、多角的な視点で日本を捉え直します。私たちが暮らす日本という国を、世界の中に位置付けて学ぶのが国際日本学

部です。具体的には、日本の政治・経済・社会・歴史、日本の文学・文化、日本語を学びます。また、世界で日本語を教えるための知識も身に付けることができます。

Point

2

日本人学生と留学生と一緒に学び、 英語と日本語をコミュニケーションツールとして用いる

日本語と英語をコミュニケーションツールとして用い、日本人学生と留学生が一緒に学びます。本学部は、英語でも日本語でも、きちんとしたコミュニケーション

ンがとれるようになることを目標としています。授業の多くの英語で行われますが、日本語の書く、読む、話す力を高めるプログラムも用意されています。

Point

3

自律性を養い、多様な人々と協働する 課題解決型のアクティブ・ラーニング

自律性を涵養し、多様な人々との協働による課題解決型のアクティブ・ラーニングに取り組みます。1年次の「多文化コラボレーション」科目をはじめ、多くの授業で、問

題を発見し、解決の方策を話し合い、そして解決のために行動する活動を行います。学内はもとより、地域社会、さらには海外にでかけて行うフィールドワークもあります。

interview

1

国際日本学研究院の早津恵美子研究院長に 国際日本学部の魅力をインタビュー

——「国際日本学」とはどのような学問ですか

日本以外のさまざまな国・地域の人々が日本をどう見ているか、どう思っているかを知る学問です。海外の人たちに日本に対する理解を深めていただくには、国際的な視野を理解した上で、「日本」というものを捉え、発信していく必要があります。そのことにより、同時に、私たち日本人自身の日本理解も深まっていきます。ひとことで言うと、そのような学問です。

——具体的にどんなことを学んでいきますか

例えば日本の歴史を学ぶのに、日本の大学の日本史学科で学ぶのと違って、海外諸地域で日本の歴史がどのように捉えられているかにも目配りをしつつ学ぶことを大切にしていきます。日本の文化、社会、あるいは日本語はどんな性質なのかといったことを、客観的に捉え、伝える力を育てたいと思っています。本学は、ご存知の通り語学に強い大学ですので、この国際日本学にアプローチする手段としての言語は大事にしていきたいと思っています。特に英語はしっかりと身につけてほしいと考えています。

——どのような教師陣を用意していますか

社会学系、文学系、言語学系、国際系など、日本を多角的に捉えるためにさまざまな分野の教員がいます。日本語を母語としない人への日本語教育を専門とする教員もいます。また、例えば、日本文学



早津 恵美子
HAYATSU Emiko

大学院国際日本学研究院 教授
専門分野：言語学、日本語学

を専門にしているインド人の先生、日本映画を専門としているドイツの先生、現代日本史を専門にしている英国人の先生など外国人の教員も多くいます。

——教育の特長を教えてください

国際日本学部の入試では、日本人45名に対して留学生30名を募集する予定です。留学生の割合がかなり高くなります。1年次から「多文化協働科目」といったいわゆる課題解決型学習に、これらの留学生とともに取り組みます。留学生の中には、まだ日本語がそれほどできない人もいます。日本人学生にも英語でのコミュニケーションに自信のない学生もいるでしょう。そのため最初は語学力にばらつきがありますし、様々な文化背景をもつ留学生が仲間となるため、多文化な学生が一つの課題に取り組むことに



なります。その中でお互いが小さな異文化体験を積み重ねていきます。

——どんな人材を育てていきたいですか

国際的な視野から日本を総合的に理解し、世界に向けて日本を発信する力や、多文化化する日本の問題解決に資する知識や協働力を備えた人材を育てていきたいと考えています。これらの力は、卒業後、企業、ジャーナリズム、あるいは国際機関、自治体の国際部署などで幅広く活かすことができると考えています。また近年、日本の公立学校でも外国籍や帰国子女など日本語能力が十分でない子どもが入学するケースが増えていきます。国際日本学部で身につけた多文化理解力は、そうした子どもたちを対象とした教育でも発揮するのではないかと思います。

TOPIC 2

三大学協働教育



東京外国語大学は、2016年度に、東京農工大学、電気通信大学と連携・協力の推進に関する基本協定および三大学事業に係る単位互換に関する覚書を締結し、さまざまな連携を図ってきました。

2019年度には、連携をさらに発展させ、三大学共同の複合新領域「共同サステナビリティ研究専攻」の新設を構想・設置申請しています。文理各分野における卓越・ユニークな単科大学の協働により、国内外で活躍する強い人材を養成します。

三大学協働教育概要

設置の背景

- 国際社会における日本の取り組みの不足
(SDGsの達成状況、国際機関における人的貢献など)
- 国際社会が抱えるさまざまな問題
(環境・エネルギー、生産・消費、労働、飢餓、貧困)
- 企業から求められる教育・人材
(理論に加えて、実社会とのつながりを意識した教育、チームを組んで特定の課題に取り組む経験、分野横断型の発想で様々な課題を解決できる人材)

期待・要望

東京外国語大学の強み

世界の言語とそれを基盤とする文化一般を、理論と実践により研究教育し、現代世界が抱える様々な課題をグローバルな視点から解決する能力を備えた国際職業人を育成

▶▶▶ 言語、リベラルアーツ、地域研究

東京農工大学の強み

農学、工学及びその融合領域において、高度な研究能力を備えながら、国際社会で指導的な役割を担うことのできる対話力・対応力を有する国際理系イノベーション人材を育成

▶▶▶ 食料、資源・エネルギー、ライフサイエンス

電気通信大学の強み

情報学分野、情報通信分野、ロボット制御分野、光工学分野において、グローバルな視野とイノベティブな高度専門技術者を育成

▶▶▶ ビッグデータ、ICT、人工知能、光工学、情報通信、ロボット制御

協働による人材養成を展開

共同サステナビリティ研究専攻

(2019年度設置申請中)

特色

- これまでの三大学による様々な連携事業の実績を基に人材養成を展開
- 文理各分野における卓越・ユニークな単科大学の協働により、国内外で活躍する強い人材を養成
- 西東京エリアの近接地における実質的・効果的な教育の展開
- 複合新領域の研究の推進

人材像

自身の専門性に軸足を置き、その専門的な観点からSDGsの課題を捉えつつ、他分野の研究成果を取り入れることによってイノベーションを生み出すことができる学際的、越境的な実務人材の育成

具体的な能力・学識

- 普遍的かつ実践的の学識を基盤とする国際感覚と倫理観（国際的センス）
- 国際社会の現場で広範に適用できる実践的な基礎理論と技法（スキル）
- 政治・経済、食料・生命、エネルギー・資源・環境、ICT・人工知能、医療・福祉・健康等の領域における高度で専門的な知見と研究力
- 異文化・異分野の背景や価値観を理解し、多様な見解を調整できる適用力と調整できる合意形成力
- 国際通用性のある論理的思考力と構造的伝達能力（コミュニケーション力）

入学定員

- 東京外国語大学（総合国際学研究科） 3名
- 東京農工大学（工学府） 4名
- 電気通信大学（情報理工学研究科） 4名

学位

Doctor of Philosophy 博士（学術）

TOPIC 3

大学の世界展開力強化事業(ロシア)

国際的に活躍できるグローバル人材の育成と大学教育のグローバル展開力の強化を目指し、大学の世界展開力事業とは、日本人学生の海外留学と外国人学生の戦略的受入を行うことを目的として、文部科学省の支援を受けて実施する事業です。

東京外国語大学は、この大学の世界展開力強化事業において、2015年度に中南米諸国との事業、2016年度にASEAN地域との事業、そして2017年度にロシアとの事業が採択され、推進しています。2017年度に新規に採用されたロシアとの事業について紹介します。

日露人的交流の飛躍的拡大に貢献する TUFS 日露ビジネス人材育成プログラム

東京外国語大学とロシアの6つの協定校が、日露ビジネス人材の育成のために共同で行う取組です。本プログラムは、1)短期留学プログラム、2)長期留学プログラム、3)インターンシップ・プログラムからなり、各大学が行う「ロシア関係教育」「日本関係教育」「実学的な経済関係教育」をそれぞれ強化・高度化し、言語力、ロシア及び日本に関する教養・知識、経済についての知見、交渉力・調整力を併せ持ち、両国間の経済・文化交流を現場で支える高度な「日露ビジネス人材」を育成します。

海外連携大学

- | | |
|----------------|-------------------|
| ▶ モスクワ国立大学 | ▶ 国立研究大学高等経済学院 |
| ▶ モスクワ国立国際関係大学 | ▶ サンクト・ペテルブルグ国立大学 |
| ▶ ロシア国立人文大学 | ▶ 極東連邦大学 |



モスクワでのインターンシップの様子

interview 2

事業推進責任者の沼野恭子教授にインタビュー

本事業の骨子は、日本(東京外国語大学)とロシアの6協定大学双方の学生に、短期留学・長期留学とインターンシップを組み合わせたく専門教育と就労の機会を提供することです。そのために本学の同窓会組織「東京外語会」と日露ビジネスで活躍する本学出身者の組織「TUFS 日露ビジネス・ネットワーク」の

協力を得て、さまざまな業種のインターンシップ先を確保しました。めざすは、高い言語能力とたしかな教養としなやかな知性を備え、〈他者〉を尊重する想像力、自由と平和を愛する心、さまざまな課題を解決するための交渉力と調整力を併せ持ち、日露ビジネスの重要な担い手となる人材を育てることです。本事業



業を通じ、本学とロシアの大学間の連携を強化し、双方で、社会の多様な分野で活躍できる学生の育成に努めてまいります。

interview 3

プログラム・コーディネーターの新井滋特任教授にインタビュー

本学のOB・OGの立場から支援していただくため、「TUFS 日露ビジネスネットワーク」を組織し、卒業生のうちロシアビジネスに関わっている、あるいは経験のある方々に参加していただいています。本学の在校生・留学生からのキャ

リア相談に乗り、彼らにロシアビジネスについて語り、所属企業・団体の後輩たちにインターンシップの機会を与える、あるいは与えるための橋渡しをする等々の支援が期待されています。こうした活動を通じ、本プログラムに参加した

日露双方の学生が在学中に社会性を身につけ、将来日露ビジネスのさまざまな分野・ジャンルで活躍できるようになることを目指しています。

新任教員紹介

東京外大のメンバーに
なった方々からコメントをいただきました

2017年10月1日着任

周 育佳

ZHOU Yujia

世界言語社会教育センター
特任講師
外国語評価



私の専門分野は英語教育学で、主にスピーキング能力の評価の効果的な在り方について研究しています。慣れない外国語で自分の考えを表現するのは、大変難しいことです。しかし、自分が完璧ではない！という恐怖と闘いながら、自分との折り合いをつけることによって、きっと新しい自分を発見できると信じています。みなさんと一緒に、英語でたくさん発信し、新しい自分を発見していきたいと思っています。

2018年4月1日着任

フィリップ シートン

SEATON, Philip

大学院国際日本学研究院
教授
現代日本研究



英国、ロンドン出身ですが、20年以上日本に住んでいます。日本の近現代史について様々な分野で研究を行っています。戦争記憶、メディア分析、北海道史、そして最近ではコンテンツツーリズム(観光学)を研究し、人間にとって「物語」の重要性に関して興味を持っています。日本学(地域研究)の魅力は、多くの学問分野をまたがる研究を行い、予想できなかったところでつながりを発見することだと思います。

高橋 均

TAKAHASHI Hitoshi

大学院総合国際学研究院
特任教授
ラテンアメリカ地域研究



ラテンアメリカの歴史を専門に研究してきましたが、現代の政治経済についてもある程度は指導できます。主に扱ってきたのはメキシコ・ペルー・キューバなどですが、スペイン語圏を広く研究しています。最近では国際移民のことを調べていて、とくにメキシコから米国への移住に関心があります。地域に根ざしつつ地域を超えた広い視野をもって皆さんとともに学んでいきたいと思っています。

荒原 邦博

ARAHARA Kunihiro

大学院総合国際学研究院
准教授
フランス文化研究



フランス文学・文化史の研究をしています。ブルーストをはじめとする19世紀から20世紀にかけての文学と絵画や写真をめぐる美術批評との関連性の分析、およびヴェルヌに代表される大衆文学と純文学との関係性の考察と、未邦訳のヴェルヌ作品の翻訳・紹介を通して現代作家としてヴェルヌを甦らせる仕事をしています。フランス語を通して面白い世界をみなさんと一緒に日々発見していきたいと思っていますので、どうぞよろしくお願い致します。

熊倉 和歌子

KUMAKURA Wakako

アジア・アフリカ言語文化研究所
助教
西アジア史・地域研究



ある自然条件のなかで人間がいかにそれを利用してきたかという問題について歴史的に理解することを目指しています。研究対象は中近世エジプトのナイル流域です。自分の専門は歴史学ですが、古文書を読み込むだけではエジプトの自然環境の単純さとダイナミズムの双方を理解することはできない！ということで、フィールドに出ては地形や景観を観察し、古地図をあさっては現代の地図と重ね合わせて変化を眺め…と様々なアプローチを試みています。これからAA研で人・研究・今まで考えもしなかったアイデアと出会うのを楽しみにしています。

倉部 慶太

KURABE Keita

アジア・アフリカ言語文化研究所
助教
言語学、
チベット・ビルマ諸語



シナ・チベット語族チベット・ビルマ語派に属する少数言語のうち、特にミャンマー北部に分布する言語を対象にフィールドワークに基づく調査と研究を行っています。これらの言語に見られる言語特徴が多様性と普遍性の観点から世界や東南アジア地域の言語の中でどのように位置づけられるかに関心を持っています。また、近年はこれら失われつつある言語と文化を記録・保存・再活性化する目的で、蒐集した一次資料のデジタルアーカイブでの公開を進めています。

相木 裕史

AIKI Hiroshi

世界言語社会教育センター
特任講師

20 世紀アメリカ文学・文化

私はアメリカ文学・文化について、とくに20 世紀の小説を中心に研究しています。とりわけ、文学作品を読む・書くという行為が、視覚的経験といかなる関係にあるのかに関心があります。絵画や写真、映画といった視覚芸術の登場と普及によって、「文学」なるものがどのように変質してきたのかという問題意識のもとに、モダニズムを新たな視点から捉え直すことが近年の研究における主な課題です。



イリス ハウカンブ

HAUKAMP, Iris

世界言語社会教育センター
特任講師

日本文化研究

日本の映画史、特に貫戦期の日本映画と社会の相互作用を専門に研究しています。人々がいかにあの時代を経験したのか、映画を通じて知ることができます。授業では、日本の映画史、映画と社会の関係性、映画の分析、日本文化などを教えています。東京外大は幸運なことに、映画のまちとして知られる調布市の近くに位置します。新しい環境で、先生方や学生や地域の方々と交流できることを楽しみにしています。



上原 こずえ

UEHARA Kozue

世界言語社会教育センター
特任講師

社会学

社会学を軸に、軍事や開発をめぐる社会運動の研究を行ってきました。研究の原点は沖縄やハワイといった島々における経験です。太平洋の島嶼を行き来する人びとの経験が国家や資本、戦争とどのように絡まり合っているのかを探究し、個々人の具体的経験(ライフヒストリー)と島/群島の経験(歴史)の接点を捉える面白さを授業では伝えていければと思っています。



小野寺 拓也

ONODERA Takuya

世界言語社会教育センター
特任講師

中央ヨーロッパの現代社会研究

ドイツ近現代史、とくにナチズムが専門です。独裁体制であるにもかかわらず、なぜ多くの「ふつうの人びと」が支持したのかを明らかにするため、兵士たちが家族に書き送った手紙を分析してきました。現在は、歴史において感情が果たす役割について研究を進めています。自分が興味を持ったことについて、真面目に真摯に向かい合い、徹底的に掘り下げようとする皆さんとの出会いを、楽しみにしています。



木村 正美

KIMURA Masami

世界言語社会教育センター
特任講師
国際関係論

米国の外交史と日本研究の流れをくみ、戦後初期における日米関係の再構築を、「近代化」という歴史的文脈において再分析しています。日米の近代化言説を比較分析すると、そのトランスナショナル性や歴史的連続性を再発見でき、冷戦構造の知的枠組みからはなれ、戦後日米関係形成の文化的要因が見えてくることに面白さを感じます。文化面での国際関係への興味は、日米の二国だけではなく、東アジア地域へも広がっています。



三代川 寛子

MIYOKAWA Hiroko

世界言語社会教育センター
特任講師
アラブ言語文化研究

エジプトの近代史を専門としています。特に、コプトと呼ばれるエジプトのキリスト教徒の文化ナショナリズムに関心を抱いて研究を続けてきました。学部と大学院ではエジプトに留学し、その後イギリスでも研鑽を積みしました。東京外大では、アラビア語の授業と、文化とナショナリズムに関する授業を担当しています。アラブ世界の言語的、文化的、宗教的多様性を紹介していきたいと思っています。



幸松 英恵

YUKIMATSU Hanae

世界言語社会教育センター
特任講師
日本語教育

専門は日本語文法で、特に文末の助動詞(助辞)を研究対象としています。推論を表すモダリティ形式がどのような体系性をなしているのかについて研究してきましたが、現在では通時的な研究にも興味を持ち、資料を集めて分析しています。日本語教育の分野では、IJ 共学・協働によるプロジェクト型授業の運営をしてきましたので、この大学でも学生のみなさんと色々な試みができればと思っています。



Check!

さらに詳しい情報は、
東京外国語大学の研究者一覧の
ホームページもご参照ください。

[http://www.tufts.ac.jp/research/
researcher/people/](http://www.tufts.ac.jp/research/researcher/people/)



外国語教員紹介

2018年4月1日より着任された、
特定外国語教員の紹介です。

ブルーナ
ゲブハルトヴァー,
マルケータ

BRUNA GEBHARTOVÁ,
Markéta

世界言語社会教育センター
特任講師 チェコ語



近藤 ペレス,
クララ 美樹

KONDO PÉREZ, Clara Miki

世界言語社会教育センター
特任教授 スペイン語



梁 菲

LIANG, Fei

世界言語社会教育センター
特任教授 中国語



鄭基仁

CHONG, Ki-In

世界言語社会教育センター
特任准教授 朝鮮語



ファリダ
モハメッド

Faridah Mohamed

世界言語社会教育センター
特任准教授
マレーシア語



ラッタナー
トーサクン

TOSAKUL, Ratana

世界言語社会教育センター
特任教授 タイ語



ブイ ブイ
ズオン

BUI DUUY DUONG

世界言語社会教育センター
特任講師 ベトナム語



ハーン アーミル
アリー

KHAN, Amir Ali

世界言語社会教育センター
特任准教授
ウルドゥー語



マンダル
シュジット クマル

MANDAL, Sujit Kumar

世界言語社会教育センター
特任准教授
ベンガル語



クルチ エンギン

KILIC, Engin

世界言語社会教育センター
特任教授 トルコ語



ビリック エヴァ

BILIK, Eva

世界言語社会教育センター
特任講師 ドイツ語



プヨ バティスト

PUYO Baptiste

世界言語社会教育センター
特任講師 フランス語



プリエト
ベアトリス

PRIETO Beatriz

世界言語社会教育センター
特任講師 スペイン語

退職された 先生方からの手紙

お世話になりました。

金井 光太郎

KANAI Kotaro

大学院総合国際学研究院
教授
アメリカ政治史



外大生活20年で退職しました。言語教育専門ではないため始めは居づらさを感じましたが、在職の間に認識を新たにしました。人間の多様さを理解しその間でいかに上手にコミュニケーションをとってゆけるか、その研究教育の場です。授業だけでなく研究会、講演会、イベント、ボランティアなどを通じて活発な実践もあり参加してきました。大学は「役に立つ知識」の訓練よりも人間性を豊かにする魅力的な学びの場であることが重要です。今後もできるだけ関わってゆきたいと願っています。

お勧めの1冊

Book recommend

『11の国のアメリカ史——分断と相克の400年』 上下
コリン・ウダーダ著、肥後本芳男他訳（岩波書店、2017）

合衆国は統一国家というよりEU並の多様な文化的背景を持つ11の国の連合が本質であり、分離（エグジット）も十分あり得ることが理解できる本。

芝野 耕司

SHIBANO Koji

アジア・アフリカ言語文化研究所
教授
マルチメディア・データベース、
多言語処理論



大学での勉強や研究の基本は、正しく読むことにある。入門書から始め、専門書、展望論文、そして、原著論文へと先行研究を読み進めるだけではなく、論文に書かれていることを完全に理解し、再現できるまでになることが基本となる。言語教育の世界標準であるCEFR(The Common European Framework of Reference for language learning, teaching and assessment) は、一種の国際規格であり、この規格に合致するということはこの規格で規定するCan-do教育を行うことである。

お勧めの1冊

Book recommend

『増補改訂 JIS 漢字字典』
芝野耕司編著（日本規格協会、2002）

日本の最大規模の人名データベース及び地名データベースより抽出した日本における漢字の読みと用例を収録。

相馬 保夫

SOMA Yasuo

大学院総合国際学研究院
教授
ドイツ・中欧近現代史、
ドイツ・ヨーロッパ地域研究



思いもよらず褒めてもらったことがきっかけで、ここ一年ほど府中キャンパスの自然を写真に撮るようになりました。すると、これまで日常的に見ていた風景がファインダーを通して輝いて見えます。新しい発見にワクワク胸をおどらせた少年の日を思い出します。春の桜と新緑、夏の雲や秋の紅葉、冬の雪景色、やって来るカルガモ、アメンボ、シダーローズにムクドリの赤ちゃんまで。その一部はTUFStagramに載り、はからずも退職の年にインスタ・デビューすることになった次第です。

お勧めの1冊

Book recommend

『ロバート・キャバ写真集』
（岩波文庫、2017）

報道写真家キャバの優しい眼差しが心を打ちます。自伝『ちょっとピンボケ』（文春文庫、1979）も合わせ読むといいと思います。

金子 比呂子

KANEKO Hiroko

大学院国際日本学研究院
准教授
日本語教育学



他の多様な意見の持ち主と互いに忌憚なく話し合った結果、何らかの合意点に達し、より深く互いを理解することが可能になる…そのような「対話」力の養成を目指す日本語の教育に携わりたいと思っていた私が、留学生日本語教育センターという場を得て、日本を含め50近くの国・地域の学生との「対話」から自身の「対話」力も鍛えられると同時に、同僚や院生に挑まれ、応えることで得た知見を教育現場に生かすという理想的な形で教え続けてこられたことを幸せに思います。挑まれるより労わられる局面も多くなった昨今、まだまだ挑まれる存在でありたいと、新たな段階に向けて充電中です。

お勧めの1冊

Book recommend

『わたしを離さないで』
カズオ・イシグロ著、土屋政雄訳（早川書房、2008）

日本語教師としては、原題“Never Let Me Go”と邦題の比較などから垣間見える日本語と英語の違いも気になります。

01 大学の歴史

2023年に建学
150
周年を迎えます

起源	江戸時代の蕃書調所 (1857)
建学	東京外国語学校 (1873)
創立	高等商業学校 附属外国語学校 (1897)
独立	東京外国語学校 (1899)
新制大学発足	東京外国語大学 (1949)

02 主な組織

学部	言語文化学部、国際社会学部
大学院	大学院総合国際学研究科
研究所	アジア・アフリカ言語文化研究所
その他	留学生日本語教育センター 附属図書館など

03 蔵書数

約 **86** 万冊

和漢書	約 30 万冊
洋書	約 47 万冊
製本雑誌等	約 9 万冊

世界各地域から
280
を超える言語資料

早 わ か り

04 在籍学生数 (正規生)

学部	3,907 名
言語文化学部	1,933 名
国際社会学部	1,964 名
外国語学部 (学部改変により募集終了)	10 名
大学院	529 名
博士前期	326 名
博士後期	203 名
在学生数 計	4,436 名

05 学部留学者数 (2017 年度実績)

目指せ！留学
200
%

短期留学 (3 ヶ月未満)	692 名
長期留学 (3 ヶ月以上)	855 名
交換留学	362 名
その他	493 名
計	1,547 名

06 学べる言語数

計 **74** 言語

主専攻語 **28** 言語

英語、ドイツ語、ポーランド語、チェコ語、フランス語、イタリア語、スペイン語、ポルトガル語、ロシア語、ウズベク語、モンゴル語、日本語、中国語、朝鮮語、インドネシア語、マレーシア語、フィリピン語、タイ語、ラオス語、ベトナム語、カンボジア語、ビルマ語、ウルドゥー語、ヒンディー語、ベンガル語、アラビア語、ペルシア語、トルコ語

主専攻語以外 **46** 言語

教職員数

役員等	8 名
教員	261 名 (うち外国人教員 43 名)
事務局	110 名
その他	26 名
計	405 名

女性比率

女性役員等	2 名 / 8 名中 (25.0%)
女性部局長	5 名 / 8 名中 (62.5%)
女性教員	95 名 / 261 名中 (36.3%)
女性職員	51 名 / 136 名中 (37.5%)
学部生	2,596 名 / 3,907 名中 (66.4%)
大学院生	326 名 / 529 名中 (61.6%)

TUFS に関する 10 のこと

東京外大

海外協定校

72 カ国・地域 203 機関

アジア	18 カ国・地域	65 機関
オセアニア	2 カ国・地域	5 機関
中東	6 カ国・地域	13 機関
アフリカ	10 カ国・地域	13 機関
ヨーロッパ	27 カ国・地域	84 機関
北米	2 カ国・地域	13 機関
中南米	7 カ国・地域	10 機関

留学生数

学部正規生	180 名
大学院正規生	221 名
研究生	111 名
交換留学生	182 名
その他	43 名
計	737 名

84
カ国から

72カ国・地域 203機関

■ ヨーロッパ 27カ国 84機関

● Austria

- Österreichische Akademie der Wissenschaften
- Universität Wien

● Belgium

- University of Liege

● Bulgaria

- Sofia University "St. Kliment Ohridski"

● Czech Republic

- Charles University
- Masaryk University
- Palacký University Olomouc

● Finland

- University of Oulu

● France

- Université de la Sorbonne Nouvelle Paris III
- Langues et cultures de l'aire tibétaine
- Institut d'Etudes Politiques de Paris Fondation Nationale des Sciences Politiques
- Institut National des Langues et Civilisations Orientales
- École Supérieure d'Interprètes et de Traducteurs
- Sciences Po Bordeaux
- L'Université Sciences Humaines et Sociales - Lille 3
- Université Paris Diderot
- Stendhal - Grenoble 3 University
- Aix-Marseille Université

● Germany

- Georg-August-Universität Göttingen
- Friedrich-Alexander-Universität Erlangen-Nürnberg
- Universität Bielefeld
- Justus Liebig-Universität Giessen
- Philipps-Universität Marburg
- Institute for African Studies, University of Cologne
- Max Planck Institute for Evolutionary Anthropology
- Asien-Afrika Institut, University of Hamburg
- Ludwig-Maximilians-Universität München
- The University of Education Schwäbisch Gmünd
- Freie Universität Berlin

● Hungary

- Central European University, Department of History

● Ireland

- University College Cork

● Italy

- Università degli Studi di Napoli "L'Orientale"
- Università Ca' Foscari Venezia
- Università degli Studi di Torino
- Università degli Studi di Roma "La Sapienza"
- University of Trento
- University of Bologna
- The University for Foreigners of Perugia

● Kazakhstan

- Al-Farabi Kazakh National University

● Lithuania

- ◆ Vytautas Magnus University

● Netherlands

- ◆ Leiden University
- Royal Netherlands Institute of Southeast Asian and Caribbean Studies

● Norway

- UiT The Arctic University of Norway

● Poland

- International Cultural Centre
- Jagiellonian University
- University of Silesia in Katowice
- Nicolaus Copernicus University in Toruń

● Portugal

- Universidade de Coimbra
- Universidade de Lisboa
- Camoes, Instituto da Cooperacao e da Lingua
- The University of Porto

● Romania

- Romanian Cultural Institute
- Babeş-Bolyai University

● Serbia

- ◆ University of Belgrade

● Slovenia

- University of Ljubljana

● Russia

- Russian State University for the Humanities
- M. V. Lomonosov Moscow State University
- The Faculty of Philology and Arts, St. Petersburg State University
- Moscow State Institute of International Relations (University)
- Far Eastern Federal University
- ◆ National Research University Higher School of Economics
- Buryat State University

● Spain

- Universidad de Sevilla
- Universitat Pompeu Fabra
- Universidad Autónoma de Madrid
- ◆ The University of Salamanca
- Institut Ramon Llull
- Instituto Cervantes
- University of Alcalá
- Universitat Autònoma de Barcelona
- The Etxepare Basque Institute
- University of the Basque Country
- Universitat de Lleida
- The University of Málaga

● Tajikistan

- The Tajik State Institute of Languages
- Named after Sotim Ulugzoda

● Turkmenistan

- ◆ International University for the Humanities and Development of Turkmenistan

● Switzerland

- L'Université de Genève
- Universität Zürich

● Ukraine

- ◆ Ivan Franko National University of Lviv

● U.K.

- ◆ School of Oriental and African Studies, University of London
- University of Leeds
- The University of Manchester
- University of Essex

● Uzbekistan

- Tashkent State Institute of Oriental Studies

■ アフリカ 10カ国 13機関

● Cameroon

- Délégation Générale à la Recherche Scientifique et Technique
- University of Dschang

● Egypt

- ◆ Cairo University
- Ain Shams University

● Ghana

- University of Ghana

● Mali

- L'Institut des Sciences Humaines

● Morocco

- University Mohammed V-Agdal

● Mozambique

- Lurio University
- Eduardo Mondlane University

● Rwanda

- Protestant Institute of Arts and Social Sciences

● South Africa

- University of Pretoria

● Zambia

- University of Zambia

● Zimbabwe

- University of Zimbabwe

世界に広がる

18カ国・地域 65機関

● Laos

- National University of Laos

● Malaysia

- Institute of Language and Literature Malaysia
- The Institute for Development Studies, Sabah
- Universiti Kebangsaan Malaysia

● Mongolia

- National University of Mongolia
- Khovd University

● Myanmar

- ◆ University of Yangon

● Pakistan

- The University of Azad Jammu & Kashmir
- Quaid-i-Azam University
- Oriental College, University of the Punjab

● Philippines

- University of the Philippines
- De La Salle University-Manila
- Ateneo de Manila University

● Republic of Korea

- Yonsei University
- Seoul National University
- ◆ Hankuk University of Foreign Studies
- Sookmyung Women's University
- Hanshin University
- Sungkonghoe University
- Cyber Hankuk University of Foreign Studies
- Jeju National University
- Kyung Hee University
- Busan University of Foreign Studies
- Ehwa Womans University

■ 中東

6カ国 13機関

● Iran

- Allameh Tabataba'i University
- Islamic Azad University, Shiraz Branch
- University of Isfahan

● Jordan

- Ali Baba International Center

● Lebanon

- Orient Institute of the German Oriental Society-Beirut
- Faculty of Human Sciences, Branch 1, Lebanese University
- American University of Beirut

● Syria

- Damascus University

● Turkey

- Ankara University
- Bogaziçi University
- Yunus Emre Institute
- Marmara University

● Palestian Authority

- Birzeit University

■ オセアニア

2カ国 5機関

● Australia

- Australian National University
- The University of Melbourne
- Deakin University

● New Zealand

- The University of Auckland
- Victoria University of Wellington

● Singapore

- The Faculty of Arts & Social Sciences, National University of Singapore

● Thailand

- Srinakharinwirot University
- Thammasat University
- Chulalongkorn University
- Chiang Mai University

● Vietnam

- VNU University of Social Sciences and Humanities, Hanoi
- University of Social Sciences and Humanities, Vietnam National University-Ho Chi Minh City
- University of Language and International Studies - VNU

● Taiwan

- National Chengchi University
- National Taiwan University
- ◆ Tamkang University
- National Taiwan Normal University
- Kaipian University
- National Tsing Hua University

■ 北アメリカ

2カ国 13機関

● Canada

- The University of British Columbia
- University of Regina

● U.S.A.

- Cornell University
- University of California, San Diego
- University at Albany, State University of New York
- Columbia University
- San Diego State University
- Stony Brook University, The State University of New York
- University of Nebraska at Kearney
- University of Hawai'i at Mānoa
- The University of Texas at Austin
- University of Delaware
- George Mason University

■ 中南米

7カ国 10機関

● Argentina

- National University of La Plata

● Brazil

- ◆ Universidade do Estado do Rio de Janeiro
- Universidade Federal do Paraná
- Universidade Estadual de Campinas

● Colombia

- Universidad EAFIT

● Costa Rica

- University for Peace

● Cuba

- The University of Havana

● Mexico

- Universidad Nacional Autónoma de México
- ◆ Universidad de Guanajuato

● Uruguay

- University of the Republic, Uruguay



学術交流協定

研究力

教員専門分野一覧

主な研究組織

アジア・アフリカ言語文化研究所

南アジア研究センター

現代アフリカ地域研究センター

国際日本研究センター

語学研究所

海外事情研究所

総合文化研究所

国際関係研究所



教員 専門分野一覧

2018年5月1日現在

総合国際学研究院 世界言語社会教育センター総合国際学研究系 現代アフリカ地域研究センター

■ 言語研究・言語応用研究

秋廣 尚恵	フランス語学
五十嵐 孔一	朝鮮語学
市川 雅教	統計学
上田 広美	カンボジア語学
浦田 和幸	英語学
大谷 直輝	認知言語学
岡野 賢二	ビルマ語学
風間 伸次郎	アルタイ諸言語
加藤 晴子	中国語学
金指 久美子	スラブ語学
川上 茂信	スペイン語学
川口 裕司	フランス語学
黒澤 直俊	ポルトガル語学
斎藤 弘子	英語音声学
佐野 洋	情報工学
菅原 睦	チュルク語
鈴木 玲子	ラオス語学
高島 英幸	英語教育学
趙 義成	朝鮮語学
鶴田 知佳子	通訳・翻訳学
投野 由紀夫	コーパス言語学
内藤 稔	コミュニティ通訳研究
中川 裕	音声学・音韻論
長屋 尚典	オーストロネシア諸語
南 潤珍	朝鮮語学
成田 節	ドイツ語学
温品 廉三	モンゴル語学
根岸 雅史	英語教育学
野元 裕樹	マレー語学
匹田 剛	ロシア語学
藤縄 康弘	ドイツ語学
降幡 正志	インドネシア語学
ボルロンガン, A. M.	社会言語学
益子 幸江	音声学
萬宮(小牧) 健策	ウルドゥー語
箕浦 信勝	言語学、手話諸言語
三宅 登之	現代中国語
三代川 寛子	アラブ言語文化研究
望月 圭子	対照言語学
望月 源	自然言語処理
森田 耕司	スラヴ言語学
山本 真司	イタリア語学
吉枝 聡子	イラン諸語研究
吉富 朝子	第二言語習得

■ 文化研究

青山 亨	東南アジア宗教史
荒原 邦博	フランス文化研究
粟屋 利江	南アジア近代史
岩崎 務	西洋古典文学
岡田 和行	モンゴル近代文学
岡田 知子	カンボジア文学
加藤 雄二	アメリカ文学・文化
川島 郁夫	中国近世文学
久野 量一	ラテンアメリカ文学
コースフィット, T. T.	タイ文化・文学
小久保 真理江	芸術文化
逆井 聡人	比較文学
佐々木 あや乃	ベルシア古典文学
島田 志津夫	中央アジア地域研究
鈴木 聡	アングロ・アイリッシュ文学

武田 千香	ブラジル文学
田島 充士	教育心理学
西岡 あかね	ドイツ文学
丹羽 京子	ベンガル文学
沼野 恭子	ロシア文学
野平 宗弘	ベトナム文学
萩田 博	ウルドゥー語学・文学
橋本 雄一	中国近現代文学
林 和宏	イタリア古典文学
林 佳世子	西アジア史
藤井 守男	ベルシア文学・思想
前田 和泉	現代ロシア文学
真鍋 求	神経生理学
丸山 空大	宗教学
水野 善文	インド思想
八木 久美子	イスラム思想
山口 裕之	ドイツ文化・思想
吉本 秀之	科学技術史

■ 地域研究・国際研究

青木 雅浩	モンゴル近現代史
青木 弘之	現代東アラブ政治
伊勢崎 賢治	平和構築
伊東 剛史	イギリス近代史
今井 昭夫	ベトナム近現代史
今福 龍太	メディア批評
岩崎 稔	哲学・政治思想
上原 こずえ	社会学
内山 直子	ラテンアメリカ地域研究
大石 高典	アフリカ地域研究
大川 正彦	現代政治理論
小笠原 欣幸	台湾政治
岡田 昭人	比較・国際教育学
小川 英文	東南アジア考古学
小田原 琳	イタリア史
小野寺 拓也	中央ヨーロッパの現代社会研究
加藤 美帆	教育社会学
蒲生 慶一	国際経済学
菊池 陽子	ラオス近現代史
木村 暁	中央アジア史
金 富子	ジェンダー論
日下部 尚徳	バングラデシュ現代社会論
久米 順子	西洋美術史
倉田 明子	中国近代史
栗田 博之	オセアニア研究
小松 久男	中央アジア近現代史
坂井 真紀子	アフリカ開発社会学
佐々木 孝弘	アメリカ社会史
澤田 ゆかり	現代中国研究
篠田 英朗	平和構築
篠原 琢	中東欧近代史
鈴木 茂	ブラジル史
鈴木 美弥子	民法
鈴木 義一	現代ロシア研究
芹生 尚子	フランス社会史
左右田 直規	マレーシア政治社会史
高橋 均	ラテンアメリカ地域研究
武内 進一	アフリカ研究
田島 陽一	国際経済学
巽 由樹子	ロシア近現代史
千葉 敏之	ヨーロッパ中世史
出町 一恵	国際経済論
土佐 桂子	東南アジア人類学
中山 智香子	経済思想・社会思想
中山 裕美	国際関係論
丹羽 泉	朝鮮宗教学

福嶋 千穂	近世ポーランド史
藤井 毅	インド近現代史
真島 一郎	文化人類学
松隈 潤	国際法
松永 泰行	政治学・国際関係論
宮田 敏之	タイ経済研究
山内 由理子	オセアニア地域研究
吉田 ゆり子	日本近世史
米谷 匡史	日本思想史
李 孝徳	比較文学
若松 邦弘	比較政治
渡辺 周	経営学
渡邊 啓貴	ヨーロッパ国際関係論

国際日本学研究院 世界言語社会教育センター国際日本学研究系

阿部 新	社会言語学
荒川 洋平	認知言語学
石澤 徹	日本語教育学
伊集院 郁子	日本語教育学
伊東 克洋	応用言語学
伊東 祐郎	日本語教育学
海野 多枝	言語教育学
大津 友美	日本語教育学
川村 大	日本語学
木村 正美	国際関係論
楠本 徹也	日本語学
工藤 嘉名子	日本語教育学
小松 由美	異文化間コミュニケーション
坂本 恵	日本語学
シートン, フィリップ	現代日本研究
柴田 勝二	日本近代文学
菅長 理恵	日本語・日本文学
鈴木 智美	日本語教育学
鈴木 美加	日本語教育学
セン, ラージ・ラキ	日本近現代文学
伊達 宏子	日本語教育学
谷口 龍子	社会言語学
友常 勉	日本思想史
中井 陽子	日本語教育学
中村 彰	日英統語論
ハウカンブ, イリス	日本文化研究
花園 悟	日本語学
早津 恵美子	日本語学
春名 展生	日本史・日本政治
藤村 知子	日本語教育学
藤森 弘子	日本語教育学
ポーター, ジョン	日本史
宮城 徹	異文化間コミュニケーション
村尾 誠一	日本古典文学
甕 隆博	数学
幸松 英恵	日本語教育
林 俊成	言語教育工学

世界言語社会教育センター教育支援系

相木 裕史	20 世紀アメリカ文学・文化
内海 陽子	日本語教育
柏崎 正憲	連携教育支援
金子 麻子	英語教育
河内 彩香	日本語教育
渋谷 博子	日本語教育
周 育佳	外国語評価

布川 あゆみ	比較教育学
古川 高子	留学生教育支援

アジア・アフリカ言語文化研究所

■ 言語学

荒川 慎太郎	西夏語学
伊藤 智ゆき	中期朝鮮語
小田 淳一	計量文献学
倉部 慶太	チベット・ビルマ諸語
呉人 徳司	チュクチ語
児倉 徳和	シベ語
澤田 英夫	ビルマ系少数民族言語
塩原 朝子	インドネシア諸言語
品川 大輔	バントゥ諸語
中山 俊秀	言語ドキュメンテーション研究
星 泉	チベット文化圏の言語学
峰岸 真琴	オーストラアジア諸語
山越 康裕	モンゴル諸語
渡辺 己	セイリッシュ語

■ 地域研究・歴史学

飯塚 正人	中東地域研究
石川 博樹	アフリカの歴史
太田 信宏	インドの歴史
小倉 智史	南アジア地域研究
苅谷 康太	西アフリカ地域研究
熊倉 和歌子	西アジア史・地域研究
栗原 浩英	ベトナム現代史
黒木 英充	中東地域研究
近藤 信彰	イラン近代史
高松 洋一	オスマン朝史
錦田 愛子	中東地域研究
野田 仁	中央アジア史

■ 文化人類学

河合 香史	東アフリカ牧畜民研究
佐久間 寛	アフリカ地域研究
権野 若菜	東アフリカ民族誌
高島 淳	インド宗教史
外川 昌彦	南アジアの人類学
床呂 郁哉	東南アジア島嶼部の人類学
西井 凉子	東南アジア大陸部の人類学
深澤 秀夫	社会人類学
吉田 ゆか子	文化人類学

Check!



さらに詳しい情報は、東京外国語大学の研究者一覧のホームページもご参照ください。

<http://www.tufs.ac.jp/research/researcher/people/>



アジア・アフリカ言語文化研究所

本研究所(通称：AA 研)は、共同利用・共同研究拠点としてアジア・アフリカの言語文化に関する総合的研究を行い、アジア・アフリカ世界に関する新たな認識枠組み提供のための基盤形成に寄与すべく、次の3つを使命としています。

- 1 臨地研究（フィールドサイエンス）に基づく国際的研究拠点としての共同利用・共同研究課題の実施
- 2 アジア・アフリカ諸地域の言語・文化等に関する研究資源の収集・分析・編纂および研究成果の発信
- 3 研究活動および研修・出版・セミナー等を通じた次世代研究者の養成

研究組織として、拠点認定された言語学・地域研究・歴史学、文化人類学の3分野の研究ユニットから成るプロジェクト研究部を設置しています。これらの研究ユニットがそれぞれ国内外の研究機関や現地コミュニティと連携して実施する国際共同研究を「基幹研究」として設定し、強力かつ集中的に共同研究を推進しています。また、共同研究を支援推進するため、2つのセンターを設置しています。国内外の研究情報資源の蓄積・加工・公開と、それを生かした共同研究手法の開発を行う

「情報資源利用研究センター」、臨地研究を主体とするフィールドサイエンスの視点から研究手法の開発と研究企画を行う「フィールドサイエンス研究企画センター」です。さらに、全国の関連研究者から公募した「共同利用・共同研究課題」(共同研究プロジェクト)も実施しています。「共同利用・共同研究課題」の担い手である共同研究員は、国内外の最先端の研究を行っている423名の専門研究者であり、本研究所の所員との共同研究を活発に展開しています。

■ 基幹研究

多言語・多文化共生に向けた循環型の言語研究体制の構築

本基幹研究は、アジア・アフリカ地域を主な対象に、言語資源をもとにした共同研究を行うとともに、言語記録活動に従事する次世代の研究者・現地コミュニティ人材の育成活動を行っています。

ます。また、これらの活動を通じて、諸研究機関のさらなる研究の進展を促す循環型の言語研究体制を構築し、そのモデルの普及と成果発信を行います。

中東・イスラーム圏における分極化とその政治・社会・文化的背景

本基幹研究は、中東からアフリカ、中央アジア、東南アジアまでを含めたイスラーム圏において、現在最大の問題となっている「分極化」の問題を多角的かつ統合的に分析し、その背景を明らかにすることを目標としています。本研究所のペイルート・コタキナバル両海外研究拠点と連携しながら、国際的規模で共同研究を推進します。

かにすることを目標としています。本研究所のペイルート・コタキナバル両海外研究拠点と連携しながら、国際的規模で共同研究を推進します。

アジア・アフリカにおけるハザードに対する「在来知」の可能性の探究

本基幹研究では、アジア・アフリカ各地域に根付いたやり方＝「在来知」を理論的・方法論的地平から捉え直し、「在来知」の個別を越えた多様な状況への適応可能性に道を拓き、リスク・ハ

ザードに対処する人類の知を統一的に構想することを目的として、共同研究を進めています。

アジア・アフリカ言語文化研究所棟
☎ 042-330-5600
✉ ilcaa@aa.tufs.ac.jp
設置：1964年
HP：http://www.aa.tufs.ac.jp/



共同利用・共同研究課題 2018 年度に進行中の課題

課題名	研究代表者
言語系	
アフリカ諸語における声調・アクセントの総合的研究	梶茂樹 (京都産業大学)
南西カラハリ・コエ語派の語彙の民族言語学的ドキュメンテーション	中川裕 (東京外国語大学)
バントゥ諸語のマイクロ・バリエーションの類型的研究 (フェーズ1)	阿部優子 (東京女子大学)
アジア文字研究基盤の構築1: 文字学に関する用語・概念の研究	荒川慎太郎 (AA 研)
青海チベット牧畜民の伝統文化とその変容〜ドキュメンタリー言語学の手法に基づいて〜	星泉 (AA 研)
マレー語方言の変異の研究	内海敦子 (明星大学)
チュルク諸語における膠着性の諸相 ―音韻・形態統語・意味の統合的研究―	佐藤久美子 (国立国語研究所)
文法の動的体系性を探る (1): 文法の多重性と分散性	中山俊秀 (AA 研)
モンゴル諸語における言語変容―外的要因と内的要因―	山越康裕 (AA 研)
スワヒリ語諸変種にみられる多様性とダイナミズムへのアプローチ	品川大輔 (AA 研)
アイヌ語現地調査資料のアーカイブズ構築にかんする学際的研究	奥田統己 (札幌学院大学)
人類学系	
東・東南アジアの越境する子どもたち ―トランスナショナル家族の子どもをめぐる文化・アイデンティティとローカル社会―	石井香世子 (立教大学)
「わざ」の人類学的研究―技術、身体、環境〔「もの」の人類学的研究 (3)〕	床呂郁哉 (AA 研)
ダイナミズムとしての生―情動・思考・アートの方法論的接合	西井凉子 (AA 研)
東南アジアのイスラームと文化多様性に関する学際的研究 (第三期) ―紛争と共存のダイナミクス (コタキナバル拠点)―	富沢寿勇 (静岡県立大学)
社会性の起原: ホミニゼーションをめぐる	河合香吏 (AA 研)
『プレザンス・アフリケヌ』研究 (2) テキスト・思想・運動	中村隆之 (早稲田大学)
南アジアにおけるムスリム社会の民族誌的研究	外川昌彦 (AA 研)
歴史学・地域研究系	
アフリカ農業・農村社会史の再構築: 在来農業革命の視点から	鶴田格 (近畿大学)
ジャワ語テキストにみるジャワの宗教変容 (2) ジャワのイスラーム化再考	菅原由美 (大阪大学)
イスラームに基づく経済活動・行為 (第二期)	福島康博 (AA 研)
近世南アジアの文化と社会: 文学・宗教テキストの通言語的比較分析	太田信宏 (AA 研)
中東社会における宗教宗派的・政治社会的少数派に関する研究 (バイルート拠点)	近藤洋平 (AA 研)
エチオピア・ジンマ王国伝来イスラーム祈祷集研究	石川博樹 (AA 研)
簡牘学から日本東洋学の復活の道を探る―中国古代簡牘の横断領域的研究 (3)―	陶安あんど (明治大学)
オスマン文書史料の基礎的研究	高松洋一 (AA 研)
イスラーム聖者廟の財産管理に関する史料学的研究: イラン・サファヴィー朝祖廟を事例として	渡部良子 (東京大学)

南アジア研究センター

研究講義棟 7 階 700 室
☎ 042-330-5222
✉ findas_office@tufs.ac.jp
設置：2010 年
HP: <http://www.tufs.ac.jp/ts/society/findas/>



本センターは、現代南アジアの構造変動に関する理解を、重層化・多元化・輻輳化する社会運動の歴史・政治・社会学的分析、およびジェンダー視角を軸として深めることを目的とします。さらに、国内外の南アジア研究者のネットワークのハブとして共同研究を促進させるとともに、若手研究者の育成および本学が所蔵する文献・史資料群を充実させることを目指します。



現代アフリカ地域研究センター

研究講義棟 4 階 401E2
☎ 042-330-5540
✉ africanstudies-center@tufs.ac.jp
設置：2017 年
HP: <http://www.tufs.ac.jp/asc/>



現代アフリカに関わる研究や教育の拠点としての機能に加え、アフリカ研究者の招聘や国内外のアフリカ研究機関との連携を通じて現代アフリカ研究のネットワークを構築し、そのハブとして機能することを目指します。研究・教育やネットワーク構築の成果は、現代アフリカの諸問題に対応できる人材の育成や関心を共有する諸機関への幅広い情報提供によって社会還元するとともに、ウェブサイトを通じて積極的に発信していきます。



国際日本研究センター

アゴラ・グローバル 2 階
☎ 042-330-5794
✉ info-icjs@tufs.ac.jp
設置：2009 年
HP: <http://www.tufs.ac.jp/icjs/>



本センターは、日本語・日本語教育、日本文化・社会に関する研究分野について、個別的、総合的かつ複合的視点から調査研究し、その成果を国内外に発信するとともに、教育面にも反映・還元していくことを目指しています。日本語・日本研究をともに志す世界の研究者、とりわけ若手研究者のネットワークを構築し、国内外の諸機関と密接に連携して、双方向による多角的視野をもった国際共同研究を行います。



語学研究所



研究講義棟 4 階 419 室
☎ 042-330-5407
✉ ilr419@tufs.ac.jp
設置：1956 年 構成員：言語系教員約 70 名
HP：http://www.tufs.ac.jp/common/fs/ilr/



本研究所は、言語研究の全学的拠点として、日本をはじめ世界諸地域の言語・言語教育・言語科学一般についての先端的な研究・調査を行っています。研究成果は、大学教育への応用はもとより、公開講座等を通して広く社会に還元しています。刊行物には『言語研究所論集』などがあります。

海外事情研究所



研究講義棟 4 階 427 室
☎ 042-330-5405
✉ ifa@tufs.ac.jp
設置：1954 年 構成員：地域研究・歴史研究系教員約 50 名
HP：http://www.tufs.ac.jp/common/fs/ifa/



本研究所は、世界の様々な言語を駆使して専門領域の政治・経済・文化の研究調査を行い、学際的共同研究へと発展させます。シンポジウムの開催や刊行物を通じた研究成果の社会への還元、世界各地域に生起する諸問題に関する正確な理解の普及、社会における「知」の共有促進等を積極的に進めていきます。

総合文化研究所



研究講義棟 4 階 422 室
☎ 042-330-5409
✉ tufs422ics@tufs.ac.jp
設置：1996 年 構成員：文学・文化系教員約 40 名
HP：http://www.tufs.ac.jp/common/fs/ics/



本研究所は、ひろく文学・文化に関わる事象を扱いながら、文献学や翻訳学、批評理論はもちろん、美学・美術史、思想史や人類学とよばれる領域にまたがり研究を行っています。世界の個別言語や個別地域の特殊性をもたらし諸条件の総体を複合的かつ統合的に研究し蓄積することを目的としています。

国際関係研究所



研究講義棟 4 階 401-3 室
☎ 042-330-5480
✉ iir@tufs.ac.jp
設置：2011 年 構成員：国際関係系教員約 20 名
HP：http://www.tufs.ac.jp/common/fs/iir/



本研究所は、現代の国際社会の出来事を社会科学的分析、すなわち法律・政治・社会学・教育学などの分野からのアプローチを通して考察分析していくことを研究の中心に据えています。シンポジウムや連続講演会などの開催、運営にも取り組んでいます。刊行物には『現代世界の諸相』『国際関係論叢』などがあります。

教育力

言語文化学部
国際社会学部
大学院総合国際学研究科
留学生日本語教育センター



言語文化学部 / 国際社会学部

言語文化学部

世界諸地域の言語と文化に通じ、
国際社会の舞台で活躍できる国際教養人を養成

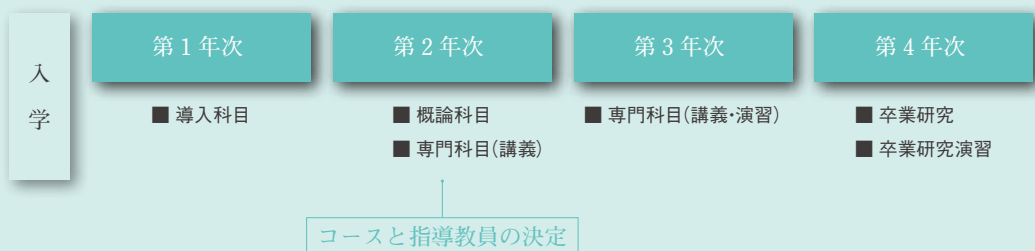
世界の言語・文化を学びたい



世界教養プログラム

本学の学生として高い知性を養うために用意された学部共通プログラム。1年次から4年次までに言語、地域および学術分野を履修するように組み立てられています。どちらの学部に入學しても、1・2年次はこのカリキュラムを中心に履修します。

世界の地域・社会を学びたい



国際社会学部

世界諸地域の歴史や社会のしくみに通じ、
国際ビジネスで活躍できる国際職業人を養成

School of Language and Culture Studies

言語文化学部

言語文化学部に入学者は、1・2年次で学部共通の世界教養プログラムを履修し、3年次では次の3つのコースに入って、専門性の高い学修を行います。

◎言語・情報コース ◎グローバルコミュニケーションコース ◎総合文化コース

学びの特長

多様な言語と文化を深く学び、異なる価値観に対応できる能力を身につける

- ① 世界のさまざまな地域の言語や文化を重点的に学修
- ② 入学時に選択した言語だけでなく、英語、その他の外国語を多様に組み合わせて、4年間を通じて高いレベルで習得
- ③ 専門教育により、言語や文化を中心とする人間の営みを読み解く力を育成

養成する人材像

世界の様々な地域の言語と文化に精通し、言語や文化の壁を越えたコミュニケーション能力とコーディネーション能力を備え、国内外において言語間・文化間の架け橋となり、新たな価値観の創成に寄与する人材

【想定される進路】出版、広告、観光、文化事業の企画、マスメディア、国際的に展開する企業（金融、商社、メーカーなど）、通訳、翻訳、外国語教育、日本語教育、大学院進学など

世界は、グローバル化による画一化・均質化が進む一方で、ローカルな言語や文化を大切にすることが活発化し、世界各地で文化摩擦や宗教対立など言語や文化をめぐるさまざまな課題が生じています。また複数の言語や文化が併存する多言語・多文化社会が広がっています。現代にあつては、多様

な関係性を読み解くことのできる洞察力、理解力、既成の概念に囚われない柔軟な発想が求められています。言語文化学部は、こうした力を備え、新しい発想のできる国際教養人の養成を目指します。

卒業までに
身につく
5つの力

- point ① 高度な言語運用能力
- point ② 世界諸地域についての知識・教養
- point ③ 現代社会を生きる力

- point ④ 専門的な知識
- point ⑤ 主体的に考え、行動し、発信する力

国際社会学部に入学者は、1・2年次で学部共通の世界教養プログラムを履修し、次の3つのコースに進学して、専門教育を学んでいきます。

◎地域社会研究コース ◎現代世界論コース ◎国際関係コース

学びの特長

グローバルな視点で問題を考え、解決できる実践的な能力を備える

- ① 英語をはじめとする地域言語の運用能力を身につける
- ② 世界諸地域の政治・経済・社会の現状とその歴史的背景を学ぶ
- ③ 紛争・災害・貧困・難民等、現代世界が直面する諸問題を社会科学的手法で分析する方法を学ぶ

養成する人材像

世界諸地域の複雑な仕組みを把握し、分析するリサーチ能力と、グローバルな視点から問題を解決する実践的な能力を備え、国内外において、社会・政治・経済等の領域で活躍できる人材

【想定される進路】外交官、国家・地方公務員、国際的に展開する企業（金融、商社、メーカーなど）、国際機関やNGO、マスメディア、社会科・地理歴史科の教員、大学院進学など

グローバル化の進展により経済格差や環境問題等、地球規模での課題が深刻化する一方で、世界各地で市民を巻き込んだテロや戦闘の危機が身近な問題となっています。こうした世界の現状を正しく把握・分析し、問題の所在をつかみ、日本

をはじめとする国際社会がどのように問題解決に関わり、異なる宗教・民族・文化への寛容さを取り戻してゆくか、国際社会学部では具体的な地域の問題を取り上げ、国際的な視座から考える方法を学んでいきます。

School of International and Area Studies

国際社会学部

大学院総合国際学研究所

日本や世界諸地域の言語・文化・社会をめぐる
個別的かつ総合的な研究と教育

大学院総合国際学研究所は、世界諸地域の言語・文化・社会をめぐる個別的かつ総合的な研究を主体とする我が国でも有数の教育機関であり、これらの分野における国際的拠点としての使命を担っています。
従来から我が国と交流関係の深かったアジア地域、ヨーロッパ地域、アメリカ地域の言語・文化・社会に関する研究と教育では、百年を超す伝統を誇っています。その後、本学が研究・教育対象とする地域は拡大し、現在では、東南アジア、中東、東欧諸地域の言語・文化・社会の研究と教育も行う

など世界的な拠点となっています。また、日本研究および日本語教育の国際的拠点でもあります。
グローバル化の進行する現代社会で真に貢献できる人材には、専門分野でのより深い知識や高度な技術が求められています。本学大学院は、研究力に加え、総合力、実践力、そして世界で活躍するうえで必要な日本力を身につけ、世界や日本でグローバルに活躍する研究者・高度職業人の養成を目指しています。

世界を学ぶ、日本を学ぶ 博士前期課程

世界言語社会専攻と国際日本専攻
の2つの専攻からなっています。

人文社会科学諸分野を究める 博士後期課程

世界言語社会専攻と国際日本専攻
の2つの専攻からなっています。

世界言語社会専攻
(定員 102 名)
言語文化コース
国際社会コース
Peace and Conflict Studies コース

国際日本専攻
(定員 46 名)
国際日本コース
日本語教育リカレントコース

世界言語社会
専攻
(定員 30 名)

国際日本専攻
(定員 10 名)

留学生日本語教育センター

日本語教育研究の 世界的な拠点を目標として

留学生日本語教育センターは、1970年に設立された国内最大級の日本語教育機関で、本学のグランドデザインにある「日本語教育研究の世界的な拠点」を目指して活動しています。

日本語教育プログラムでは、初級から始め1年間で上級レベルに達する国費学部留学生に対する入学前予備教育のほか、本学の留学生に対する「全学日本語プログラム（JLPTUFS）」を実施し、研究留学生、教員研修留学生、日本語・日本文化研修留学生、交換留学生、研究生等約80か国300名近い留学生に初級から上級までの8段階の日本語授業を提供しています。7月と1月にはショートステイプログラム

を実施し、100名以上の留学生に異文化理解を目指した体験型授業と日本語授業を提供しています。

そのほか、日本語教育研究にかかわるプロジェクトを実施し、その成果は、センターの教育実践で応用されるだけでなく、国内外の教育機関でも用いられています。

2012年には文部科学大臣より教育関係共同利用拠点に認定され、日本語教育連携・教材開発・実践教育研修の事業を展開しています。これにより、国内の大学がセンターの有する人的・物的資源を有効利用できるようになりました。

センターは日本国内、そして、世界の日本語教育に貢献しています。



センターの教育プログラム

- ① 国費学部留学生予備教育プログラム（1年コース）
- ② 国費研究留学生予備教育プログラム
- ③ 国費教員研修留学生プログラム
- ④ 国費日本語・日本文化研修留学生プログラム
- ⑤ 本学留学生のための「全学日本語プログラム」
- ⑥ ショートステイ（SS）プログラム

センターの教育研究開発プロジェクト

- ① 「JLPTUFS アカデミック日本語 Can-do リスト」の作成及び Web 公開
- ② 初級教材『大学の日本語 ともだち』刊行
- ③ 中級教材『出会い』刊行
- ④ 『留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ聴解 [中級 / 中上級 / 上級]』刊行
- ⑤ e ラーニング教材 JPLANG 開発



さらに詳しい情報は、
ホームページもご参照ください。



<http://www.tufs.ac.jp/common/jlc/index-j.htm>

学生支援

ワールド・ランゲージ・センター
附属図書館
総合情報コラボレーションセンター
留学支援共同利用センター
グローバル・キャリア・センター
ボランティア活動スペース
保健管理センター
学生相談室



ワールド・ランゲージ・センター

言語学習を支援するため、ワールド・ランゲージ・センター、通称 LINGUA（リングア）と呼ばれるセンターを設置しています。

現在は、英語学習支援センターと CEFR-J 推進室を設け、それぞれ英語の自立学習支援、言語達成度の可視化の取り組みを行っています。

英語学習支援センター

いつでも自由に
英語に浸ることができる場

研究講義棟 3 階 304 室
☎ 042-330-5416
✉ tufs-elc@tufs.ac.jp

英語学習支援センター（ELC）は、英語の自立学習を支援するため、スピーキング・セッション、多聴・多読プログラム、オンライン学習プログラム等の多様な学習の機会を提供しています。毎年、英語学習の記録と英語力を記した「TUFS 言語パスポート」を学生に発行しています。

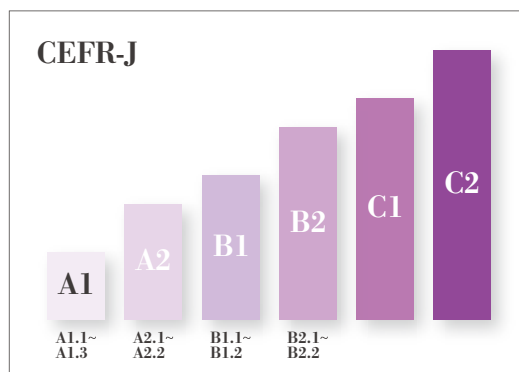


CEFR-J 推進室

言語の達成度を
可視化

研究講義棟 4 階 401-2 室
☎ 042-330-5541
✉ cejr-j@tufs.ac.jp

ヨーロッパ言語共通参照枠CEFRに準拠したCEFR-J基準により、本学で教育する27の専攻言語の達成度を可視化するプロジェクトを推進しています。達成度を可視化することで、学生各自の言語能力の向上に資することを目標としています。



関連施設紹介

English ラウンジ 多言語ラウンジ

研究講義棟の4階にイングリッシュ・ラウンジ（English Lounge）と多言語ラウンジを開室し、だれでも気軽に立ち寄り留学生を交えた多言語の会話を楽しめるスペースとして活用しています。ラウンジでは英語などの学習相談も受け付けています。



附属図書館



世界各地から
280 を超える言語の資料を収集



附属図書館

☎ 042-330-5195 (利用に関する問い合わせ)

✉ www-lib@tufs.ac.jp

HP : <http://www.tufs.ac.jp/common/library/>

附属図書館は、世界各地から収集した図書を保管し利用に供しています。これらの蔵書は、多言語OPAC（オンライン蔵書目録）により、原綴り文字でもローマン・アルファベットへの翻字でも検索ができるようになっています。また、基本文献ガイド「TUFS-ビブリオ」では、専門の教員が薦める各分野の基本文献のリストを公開し、地域言語・専攻語の辞書案内や、地域研究の基本文献を紹介しています。オンラインジャーナル、e-Bookコレクションも充実しており、世界の学術雑誌や各種のデータベースが利用できます。本学の学習・研究活動を支える「情報基地」として、充実したICT環境のもと、多様な学習空間と学習支援サービスを提供しています。

TUFS-ラーニングcommons

附属図書館4階に、主体的な学習のための共有スペースとして、「TUFS-ラーニングcommons」を開室しています。学生同士がグループで議論したり、プレゼンテーションの練習をする場として利用できる空間です。また、学生の学習の悩みや相談に答える

学習相談デスクを設置し、大学院生が「多言語コンシェルジュ」としてレポートやプレゼンテーション、卒論などの悩みにアドバイスします。

総合情報コラボレーションセンター



安全なネットワーク環境
の提供



✉ icc-service@tufs.ac.jp

HP : <http://www.tufs.ac.jp/common/icc/>

現代社会では、専用のコンピュータネットワークを備え、常時インターネットへの参加をする情報基盤がなければ、国際的な大学として存続できません。本学では、総合情報コラボレーションセンター（ICC）がこの情報基盤事業を担当しています。ICCでは、キャンパス内全域に有線・無線のコンピュータネットワークを張り巡らし、学生・教職員全員の安全なネットワーク参加を実現しています。そのほかに、メールサービスやユーザデータ保存領域の提供など、各種サービスの提供やユーザ向けのポータル機能を備えたWebサービスとして「情報基盤サービスシステム(IISS)」を提供しています。また、本学が日本の正式な学術機関であることを示すtufs.ac.jpというドメイン名を用いたインターネット参加に必要なすべての事業を担っています。なお、2018年9月には、システムの全面改修を予定しています。

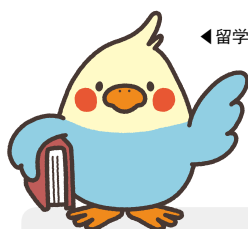
留学支援共同利用センター

留学が決まった学生や留学を考えている学生に
適切な情報提供を行うことが留学支援共同利用センターの目的です。

有意義な留学の実現をサポート！
対面での留学相談も実施

本部管理棟 1 階
☎ 042-330-5113
✉ ryugakushien@tufs.ac.jp

留学支援共同利用センターは、本学が2014年度文部科学省スーパーグローバル大学創成支援(タイプB:グローバル牽引型)に選定されたことに伴い、大学のグローバル化を支援するために設置されました。留学(派遣・受入)における支援機能を担っています。日本人学生に対しては、留学に関する情報提供、留学プログラムの作成、相手先大学との交渉、学生への留学前・後教育のコーディネート等、留学促進を目的とした支援を行い、日本で学ぶ各国・各地域出身の留学生に対しては、母語によるコミュニケーション・サポートを提供します。本センターは、他大学生も支援の対象としています。



◀留学のキャラクター、トビタくん

Column

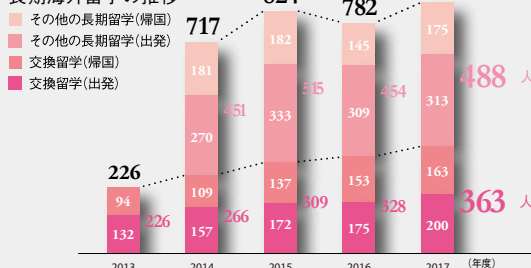
世界に広がる学びの舞台—東京外大から世界へ—実体験に勝るものなし

世界72カ国・地域の203の大学等研究機関と国際学術交流協定を結んでいます。そのうちの151の大学・機関とは学生交流・派遣に関する協定を結び、学生の往来を保証しています。151の大学・機関は、いずれも各国のトップ大学です。
本学では、4学期制における1学期以上の期間の留学を「長期海外留学」と

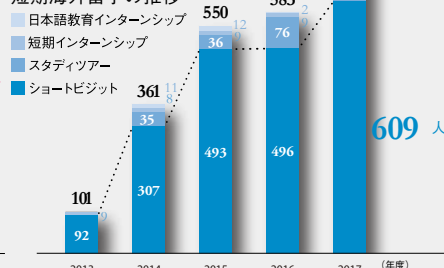
して定義しています(交換留学/休学留学/長期インターンシップなど)。夏学期・冬学期に行う留学や、学期中に大学が行うプログラムによる留学を「短期海外留学」と定義しています(ショートビジット/スタディツアー/短期インターンシップ/日本語教育インターンシップなど)。

2017年度には、長期留学経験者は851人、短期留学経験者は695人。その合計は1546人で、学生数3851人の40%にあたります。
本学は、在学中に1人2回以上留学する「留学200%」を目指しています。
※経験者は、2017年度に帰国した人、2017年度に出発した人の両方を指します。

長期海外留学の推移



短期海外留学の推移



グローバル・キャリア・センター

自らの人生を設計し主体的な進路や職業の選択を行うことを支援するため、グローバル・キャリア・センターを設置しています。



キャリア・アドバイザーによる きめ細やかなカウンセリング

研究講義棟 2 階
☎ 042-330-5832
✉ cs@tufs.ac.jp

グローバル・キャリア・センターでは、一人ひとりの学生が、自立した社会人・職業人として生きがいと働きがいに満ちた人生を送ることができるよう、自らの人生を設計し、主体的な進路選択、職業選択を行うことを支援しています。本格的に就職活動を開始する 3 年生や就職活動中の 4 年生だけでなく、1 年生・2 年生も利用が可能です。

グローバル・キャリア・センターの主なサービス

キャリア・アドバイザー面談

専任のキャリア・アドバイザーと 1 対 1 の個別面談(事前予約制)を受けることができます。就職活動に関する様々な悩みにアドバイザーがアドバイスをいたします。

OB・OG 情報及び企業ごとの本学出身者名簿の開示

求人情報・インターンシップ情報・公務員試験情報などの資料の閲覧

SPI や面接対策、業界研究など就活関係図書の実し出し

各種ガイダンスやセミナーの開催

グローバル・キャリア・センターでは年間を通して就職に関する様々なガイダンスやセミナーを開催しています。

Column

1・2 年生からの就業体験で社会とつながり職業意識を育む 「就業体験」科目

就業体験（インターンシップ）といえば、就職活動の前哨戦として 3 年次の学生が行うことが一般化していますが、一方で、1・2 年次から実社会を体験し、職業への意識を育む必要性も叫ばれています。本学では、1・2 年生を対象とした

「就業体験」科目を設けています。事前学習・インターンシップ・事後学習を踏まえ、単位として認定されます。2017 年度には、経済同友会と連携した「企業インターンシップ」、日本貿易振興機構（JETRO）と連携した「JETRO インターンシップ」

などの科目が開講されました。より多くの学生がこのような貴重な経験を積むことができるよう今後も様々な企業等に働きかけ、積極的に受入先の開拓を行う予定です。

経済同友会連携「企業インターンシップ」(2017 年度実績)

経済同友会の会員企業での就業体験。各企業とも非常に質の高いプログラムを提供。
※経済同友会：経団連、商工会議所と並ぶ経済 3 団体のひとつで、企業のトップが個人の資格で加入。経済政策や社会制度について様々な提言を行っています。

■夏学期
花王 (2 名)
デュボン (1 名)
日本航空 (1 名)
パナソニックグループ (2 名)
三井住友銀行 (1 名)
三菱ケミカル (1 名)
■冬学期
全日本空輸 (2 名)

日本貿易振興機構連携「JETRO インターンシップ」(2017 年度実績)

日本貿易振興機構 (JETRO) の国内オフィスにおいて実習。(3 名)



ボランティア活動スペース

ボランティア活動を学生の重要な学びの機会、教育活動の一環ととらえ、ボランティア活動スペース（VOLAS）を設置し、学生のボランティア活動を支援しています。



(左)学内ボランティアサークル「PeeK A Boo」定例会の様子 (右上)国際協力ボランティアに参加した学生の説明
(右下)国際協力ボランティア説明会の様子

ボランティアのきっかけ作りや 情報・学びの場の 提供などのサポート

研究講義棟 2 階 206 室
✉ volas@tufs.ac.jp
HP : http://www.tufs.ac.jp/blog/ts/g/cemmer_volas/



本学は、ボランティア活動を学生の重要な学びの機会と考え、教育活動の一環としてとらえています。そして、ボランティア活動を通じて、以下の資質・能力を養うことを方針として、大学として活動を支援します。

1. 主体性の涵養：ボランティア活動は学生の自発的で主体的な活動です。みずから問題を発見し、それに対処し、解決への道筋を見出す能力を養います。
2. 市民社会の一員としての自覚：ボランティア活動を通じて、市民社会の一員としての自覚を育みます。
3. 多様な視点から実践的な知を育む：ボランティア活動は、ニーズに応え、何が必要かを考え、行動することを通じて、学術的知に加えて、実践的知を育みます。
4. 世界の諸問題を自分の社会の問題として考える力：ボランティア活動は、地球(日本の国内・国外)のすべての地域とのつながりを感じることで、地球市民としての自覚を育みます。

以上の理念に基づいて、東京外国語大学はボランティア活動スペース（VOLAS）を設置し、全学的に学生ボランティア活動を支援します。

保健管理センター



学生・職員の健康状態の 保持・増進を支援

保健管理センター
☎ 042-330-5435
✉ hoken-center@tufs.ac.jp



保健管理センターは、学生・職員の健康状態の保持・増進を支援するために設置されています。心身両面の健康を良好な状態に置くことは、充実した学生生活を支える最も重要な基盤を築くことにつながります。これを推進するために、主に次の機能を担っています。

- プライマリケア：診察、健康に関する相談（医師と看護師による援助）
 - ヘルスプロモーション：「疾患の早期発見と早期治療」を目的として各種健康診断を実施
 - メンタルヘルスケア：医師・看護師による精神保健相談など
 - 健康情報発信：医師・看護師による講義、健康情報の提供、『ほけせん便り』の発行など
- 本学に在籍する外国人留学生の多様な文化的・保健的背景に合わせた健康支援にも心がけています。

学生相談室



学生の様々な疑問や悩みを解決し、 充実した学生生活を送れるよう支援

研究講義棟 1 階 北口付近
☎ 042-330-5560



学生がさまざまな疑問や悩みを解決し、充実した学生生活を送ることができるよう援助・助言するための学生相談窓口が設置されています。授業の履修方法など修学上の問題から、進路、心の健康、自分の性格や行動、対人関係、日常生活の問題まで、ありとあらゆる相談を受け付けています。また、各種ワークショップを開催し、学生間の交流を促進する活動もしています。持ち込まれた相談内容については、カウンセラーが、その内容、程度を問わず、親身になって相談に当たります。相談者のプライバシーを守り、安心して相談ができる体制が整っています。相談の内容はさまざまです。将来や生き方について不安を感じる／友人ができない／対人、異性関係で悩んでいる／何もやる気がしない／サークル活動やアルバイトで悩んでいる／先輩や教員とトラブルがある など多くの相談が寄せられます。

社会の中の大学

TUFS オープンアカデミー
社会・国際貢献情報センター
多言語・多文化教育研究センター
大学文書館
東京外国語大学出版会
大学間連携
高大連携



TUFS オープンアカデミー

東京外国語大学では、開かれた学術的な生涯学習などの場として、アカデミー講座（公開講座）と一般聴講生制度を開設しています。

アカデミー講座

TUFS オープンアカデミーは市民に開かれた学術的な生涯学習の場として開設されています。東京外国語大学の教育理念である「21 世紀地球社会と対話し行動する」をモットーに、グローバル時代に必要な知と教養の獲得をサポートします。アカデミー講座は一般の方を対象に開講する公開講座です。 ※正規の授業とは異なります。

2018 年度春学期開講講座

語学講座

34 言語
116 講座

アムハラ語
アラビア語
イタリア語
イディッシュ語
ウクライナ語
ウルドゥー語
英語
エスペラント
オランダ語

広東語
カンボジア語
スロヴェニア語
スウェーデン語
スペイン語
スワヒリ語
タイ語
チベット語
中国語

朝鮮語
ドイツ語
ネパール語
ハンガリー語
東アルメニア語
ヒンディー語
フランス語
ブルガリア語
ベトナム語

ベンガル語
ポーランド語
ポルトガル語
マルタ語
リトアニア語
ルーマニア語
ロシア語

教養講座

10 講座

音声学
古教会スラブ語とその周辺
音声学に基づいた発音教育
ヨーロッパを知る歴史散歩
メロディー・
映像から垣間見るロシア人・
スラブ人の文化と言語

ロシアー世界遺産都市モスクワを訪ねて
ポーランド映画の傑作を読む
世界言語紀行
あなたも外交官
一国際交流・異文化理解のための基礎知識
ベンガル詩人タゴールの歌を通して見る世界

特別講座 3 講座

にほんご指導者養成プログラム（入門、専門、専門演習）



<https://tufsoa.jp/>

さらに詳しい情報は、東京外国語大学オープンアカデミーのホームページもご参照ください。



一般聴講生制度

本学で正規学生に開講されている授業科目の一部を、聴講*できる制度です。学生と一緒に勉強することで、キャンパスライフを経験できる制度です。

※「聴講」とは：本来、本学の正規学生を対象として開講している授業を、広く一般の方々に開放し、聴講していただくものです。「聴講」の中には、授業内または試験期間中に実施される試験を受けたり課題をこなしたりすることは含まれません。



さらに詳しい情報は、東京外国語大学一般聴講生のホームページもご参照ください。

<https://tufsoa.jp/system/index.html>



多言語・多文化教育研究センター

研究講義棟 3 階 319 室
☎ 042-330-5441 (代表)
✉ tc@tufs.ac.jp
HP : <http://www.tufs.ac.jp/blog/ts/g/cemmer/>



グローバル化にともなって地球規模での人の移動がますます活発になる中、日本においても多くの外国人が暮らすようになり、多言語・多文化化が進んでいます。本センターは、多言語・多文化社会の抱える課題解決に寄与することを目標とし、異なる言語、習慣、文化を持つ人びとが安心して暮らすことのできる、差別や偏見、排除のない多言語・多文化社会の実現に向けて、積極的に活動しています。



社会・国際貢献情報センター

研究講義棟 3 階 319 室
☎ 042-330-5823
✉ icsic@tufs.ac.jp
HP : <http://www.tufs.ac.jp/icsic/>



社会・国際貢献情報センター (ICSIC) は、「世界知」を社会に活かす！をモットーに設置されました。本センターは、本学が教育研究活動を通じて得た世界諸地域の「世界知」の集積と整理を行い、発信機能を通じて「世界知」活用のハブとして、日本のグローバル化の大きな力となることを目指しています。ウェブサイトを通じた情報発信のほか、定期的に地域講演会などを開催しています。



Column

TUFS Cinemaについて

☎ 042-330-5150
✉ soumu-koho@tufs.ac.jp
HP : <https://tufscinema.jp/>



「TUFS Cinema」とは、世界の諸言語による映画、演劇上映および講演会等を実施するプロジェクトです。映画の上映会やトークセッションを通して、世界諸地域の社会・歴史・文化などの理解を深めることを目的として2015年度に開始されました。



大学文書館

大学の教育・研究活動に関わる資料を継続的に収集・整理・保存し、
学内外の方が資料を利用できる環境を整備します。



1. 附属図書館1階ギャラリーにて所蔵資料を用いた展示を実施しています。本学の過去から現在までの歴史の変遷や過去の出来事を紹介しています。
2. 大学文書館作業室兼閲覧室。
3. 大学文書館HPにて所蔵資料の一部を紹介しています。

過去の歴史的資料とともに、
現在の大学の活動を伝える

作業室兼閲覧室：研究講義棟 6階 600号室
展示スペース：附属図書館1階
☎ 042-330-5842
✉ tufsarchives@tufs.ac.jp

東京外国語大学の歴史資料保存のために、2012年4月に設置しました。大学文書館の主な役割は大学の教育・研究活動に関わる資料を継続的に収集・整理・保存し、学内外の方が資料を利用できる環境を整備することです。現在、大学文書館には大学史編纂事業の際に収集された資料群や、部活動団体等から寄贈された資料群が保管され、整理作業が進められています。また今後、将来にわたり大学の歴史を伝え遺してゆくべく、過去の歴史的資料とともに、現在の大学の活動を未来に伝える資料の収集・保存活動を実施してゆきます。また大学文書館では収集した資料群の紹介を兼ね、毎年所蔵資料群を中心とした企画展を年4回程度開催しております。附属図書館1階の展示場にはタッチパネルを用いたデジタル展示「Digital Archives」も整備され、過去に開催された企画展の内容も含め紹介しています。

東京外国語大学出版会

情報を蓄積し、伝達するだけではなく、それを形ある“書物”として丁寧に作りあげ、知性に対する敬愛とともに次世代にしっかりと受け渡していきます。

留学生日本語教育センター 編著
『大学の日本語 初級
ともだち Vol.2』

【2017年7月31日発売】
B5判・並製 304頁
定価：本体2500円＋税
ISBN 978-4-904575-63-5 C3881

本書は、大学等の日本語教育機関で学ぶ初級レベルの学生のための日本語教科書です。大学での生活に密着した多様なタスク、異文化理解タスクを実践することにより、中級・上級日本語につながるための初級文型・語彙を学習しながら、「自己を発信する力」「他者と伝え合う力」を総合的に身につけます。初級はVol.1とVol.2の2冊からなり、Vol.1は初級前半、Vol.2は初級後半のレベルとなっています。非漢字圏の学習者にもおすすめです。



初級レベルの
学生のための
日本語教科書

フィリピンの
文化と社会を
理解する

山下美知子
リース・カセル 高野邦夫 著
『大学のフィリピン語』

【2018年2月7日発売】
B5判・並製 338頁
定価：本体3800円＋税
ISBN 978-4-904575-65-9 C3087

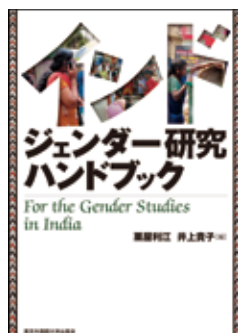


本書は、1億の人口を有するフィリピンの国語であるフィリピン語の習得を目的としていますが、同時にフィリピンの文化と社会を理解する助けになることをめざしています。現在海外に住み、働いているフィリピン人は1000万人余り、このことは、フィリピン以外の世界のどこかでフィリピン人と知り合ったり、同僚になったりする機会があるということです。フィリピン人は英語ができる人が多いため、英語を話せばコミュニケーションできます。けれど英語に加え、フィリピン語を知っていると、相手との距離が近くなります。本書の会話に出てくる日本人留学生のように、フィリピン語を習得することで、フィリピン語の世界に入り、フィリピン人の素顔に触れましょう。

栗屋利江 井上貴子 編
『インド ジェンダー研究ハンドブック』

【2018年3月26日発売】
A5判・並製 336頁
定価：本体2200円＋税
ISBN 978-4-904575-67-3 C0036

激動するインド社会を理解するのにジェンダーの視角は必須です。カースト、宗教、階層、エスニシティ、言語、都市と農村、歴史的变化。さまざまな位相とジェンダーの規範とが複雑に絡み合い、多層的なインド社会を形成しています。インドの女性をめぐる流布されてきた画一的なイメージから思考を解放し、ジェンダー研究の新たな地平を切り拓く画期的な入門書です。



ファム・コン・ティエン 著 野平宗弘 訳
『深淵の沈黙』

【2018年2月28日発売】
四六変型・並製 368頁
定価：本体3200円＋税
ISBN 978-4-904575-66-6 C0098

ベトナム戦争の混迷が続く1967年、26歳の若き詩人が放った思想闘争の書です。ハイデッガー思想との対話／対決を通じ、ベトナム戦争の窮極的原因を西洋形而上学と見定めた著者が、祖国の底に流れる東洋の叡智をもって、西洋近代が忘却してきた〈存在〉の覚醒を訴え、一切の思弁を破壊して、洋の東西を越えた人類共通の故郷たる〈深淵の沈黙〉への路を提示する——時代の閉塞に挑んだ、孤高の思想を初邦訳です。



本学の学術活動の成果を
幅広い企画の出版活動で社会に発信

アゴラ・グローバル2階
☎ 042-330-5559
✉ tufspub@tufs.ac.jp
HP:
<http://www.tufs.ac.jp/blog/tufspub/>



東京外国語大学出版会では、歴史・言語・文化・地域研究などのジャンルの学術的な著作から、教養書、人文・文芸書などの翻訳、また語学をはじめとする教科書に至るまで、幅広い企画の出版活動に取り組んでいます。世界諸地域の言語・文化・社会に関する教育と研究を通じて本学の歴史の中で蓄積された成果を、広く社会に発信し、さらなる教育・研究活動の振興と、地球社会との協働を促進していくための知識の普及を目指しています。

大学間連携

本学では、教育研究交流・学生交流、単位互換などを目的に、個性ある様々な大学と教育研究連携を締結しています。

■ 四大学連合

東京医科歯科大学、東京工業大学、一橋大学、本学の4大学で結成している連合です。それぞれ独立を保ちつつ連携を図ることで、これまでの高等教育で達成できなかった新しい人材の育成と、学際領域・複合領域の研究教育のさらなる推進を図ることを目的としています。

■ 全国外大連合

全国の7つの外国語大学(関西外国語大学、神田外語大学、京都外国語大学、神戸市外国語大学、名古屋外国語大学、長崎外国語大学、本学)で結成している連合です。21世紀グローバル社会にふさわしい人材の育成のために連携を図ることを目的としています。

■ 西東京三大学連携

電気通信大学、東京農工大学、本学の西東京地区3大学で、文理協働型のグローバル人材育成プログラムを行います。人文社会科学・理工学・農学のそれぞれの専門性と同時に分野横断の協働の視点を持つ実践型グローバル人材を育成します。

■ 多摩アカデミックコンソーシアム (TAC)

多摩地区6大学(国立音楽大学、国際基督教大学、津田塾大学、東京経済大学、武蔵野美術大学、本学)で結成しているコンソーシアムです。それぞれの特色ある専門分野を生かした相互協力、単位互換制度や図書館の相互利用、学生・教職員の交流などを行っています。

■ 多摩地区5大学単位互換制度

多摩地区5国立大学(東京学芸大学、東京農工大学、電気通信大学、一橋大学、本学)間の相互の交流と教育課程の充実を図ることを目的としています。本制度により、受け入れ大学で授業科目を履修し、授与された単位は、本学において修得単位として認定しています。

■ 教育研究交流

本学は、19大学および5機関と包括協定を締結しています。(2018年5月1日現在)

東洋大学
青山学院大学
国立青少年教育振興機構
創価大学
日本貿易振興機構
国際医療福祉大学

国際交流基金
清泉女子大学
人間文化研究機構
長岡技術科学大学
日本体育大学
電気通信大学

神田外語大学
東京農工大学
津田塾大学
国際基督教大学
日本貿易振興機構アジア経済研究所
名古屋外国語大学

神戸市外国語大学
東京藝術大学
お茶の水女子大学
東京女子大学
首都大学東京
中央大学

高大連携

本学と連携協定を締結している学校との間では、本学の授業体験、留学生と高大連携校等の生徒の交流などを行っています。

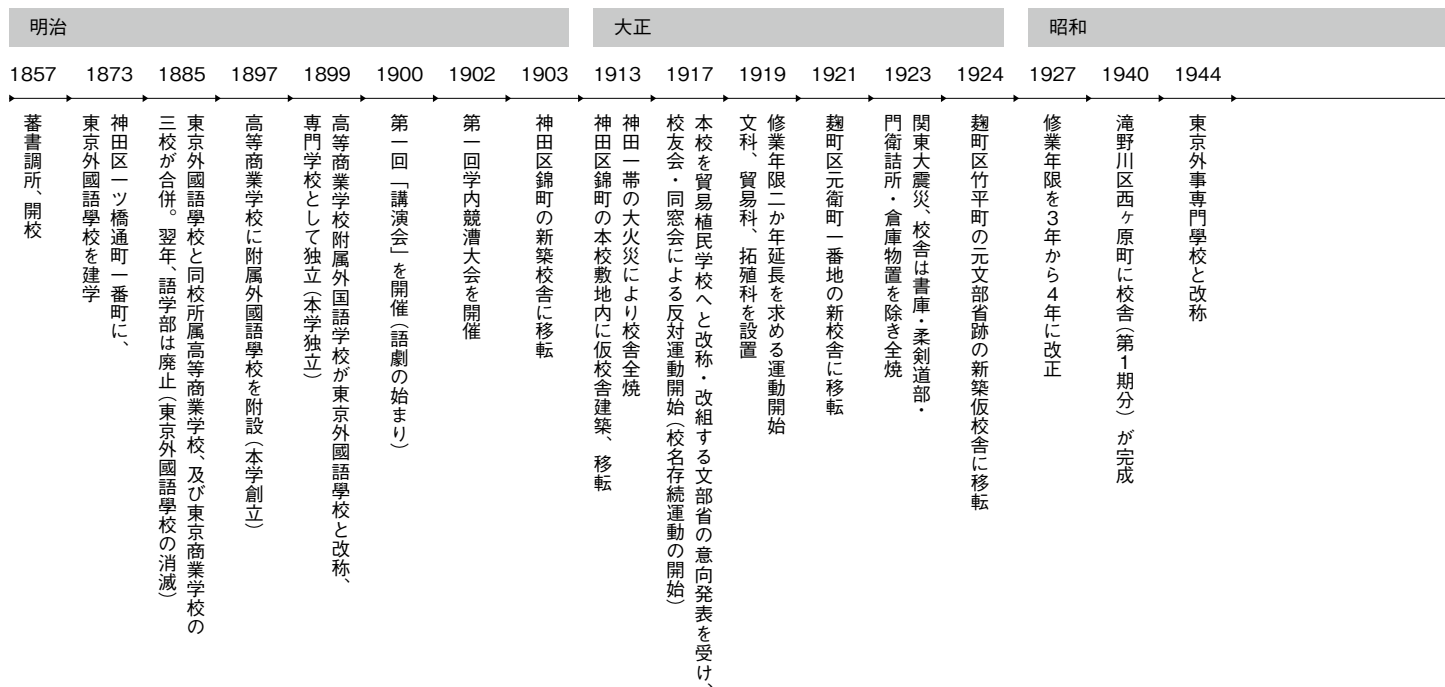
■ 高大連携

高大連携校等のうち、2014 年度より開始した文部科学省スーパーグローバルハイスクール(SGH)事業の指定を受けた学校については、連携を通じて、同事業の支援を行っています。
2018 年5月1 日現在、高大連携校等は以下のとおりです。

高大連携校等名	締結年月	SGH スーパーグローバルハイスクール
埼玉県立浦和第一女子高等学校	2017 年 11 月	○
吉祥女子中学・高等学校	2017 年 4 月	
東京都立南多摩中等教育学校	2017 年 3 月	
長野県上田高等学校	2016 年 12 月	○
千葉県立船橋高等学校	2015 年 7 月	
石川県立金沢泉丘高等学校	2015 年 6 月	○
晃華学園中学校高等学校	2015 年 3 月	
東京学芸大学附属国際中等教育学校	2015 年 3 月	○
東京都立青山高等学校	2015 年 3 月	
東京都立立川高等学校	2015 年 3 月	
東京都立西高等学校	2015 年 3 月	
東京都立国立高等学校	2015 年 3 月	
国際基督教大学高等学校	2015 年 3 月	○
東京都立戸山高等学校	2015 年 3 月	
学校法人渋谷教育学園	2013 年 7 月	○
千葉県立東葛飾高等学校	2013 年 6 月	
東京都立立川国際中等教育学校	2013 年 6 月	
東京都立国分寺高等学校	2013 年 6 月	
東京都立八王子東高等学校	2010 年 5 月	
神奈川県立横浜国際高等学校	2010 年 3 月	○

TUFS データ集

150余年の長きにわたる 外国学の教育と研究



大学歌について

大学歌の制定：1957（昭和32）年、大学創立60周年の記念行事の一環として、旧東京外国語学校校歌に代わる大学歌制定の提案がなされ、学生公募の上、ロシア語学科の柴原徳光さん（1962（昭和37）年卒）の作品が選ばれた。これを本学教授でもあり詩人としても著名であった安藤一郎氏（1928（昭和3）年英米科卒）が加筆し正式な歌詞となった。作曲は作曲家の清瀬保二氏に委嘱し、大学歌が完成した。

1. 天地のひらく あけぼのに プロメテウスの 炬（ひ）のごとく
いざや掲げむ 燃ゆる理想を 大いなる視野 ひらけゆく
ああ 東京外語大 われらの行手 永久（とわ）に輝く
2. 若き精神（こころ）を 相結び 言葉の園（その）に わけ入りて
探り賞（め）でなむ 真理の花を 世界の同胞（はらから）一（いつ）にして
ああ 東京外語大 われらの歩み 平和に満つる
3. 長き歴史をいしずえに 日々新たなる 力もて
承けつぎ築く 文化の堂宇 東亜の声を 伝えつつ
ああ 東京外語大 われらの誇 さらに加えむ

本学の歴史はたいへん古く、その起源は江戸幕府により1857年に開校された蕃書調所まで遡ることができます。日本における外国研究の歴史は本学の祖となる官営学校によって始まったといっても過言ではありません。しかしながら、近代的な教育機関としての本学の創立年をはっきりしめすことは容易ではありません。なぜなら、本学は、日本の近代教育の黎明期につくられ、紆余曲折をへて、現在、東京大学・一橋大学などになっていった明治時代の諸教育機関と共通の根をもつものだからです。

明治2年に作られた英語・仏語の2学科の「開成学校」(現、東京大学)をへて、明治6年(1873年)に発足した東京外国語学校は、近代的な学校組織としては本学の「祖」となるものです(英、独、仏、ロシア、中国語の5語学科)。しかしながら、この学校は1887年に、他の学校と合併して東京商業学校(のちの高等商業学校。現、一橋大学)となり、外国語教育の独立した教育機関はいったんわが国から姿をけしました。

しかし、明治30年(1897年)に、高等商業学校に附属する機関として、外国語学校が再興されました。このため、本学としては、自分たちの創設を1897年と考えています。つづく、明治32年(1899年)、高等商業学校附属外国語学校は、東京外国語学校と改称され、高等商業学校から分離されました。以後、東京外国

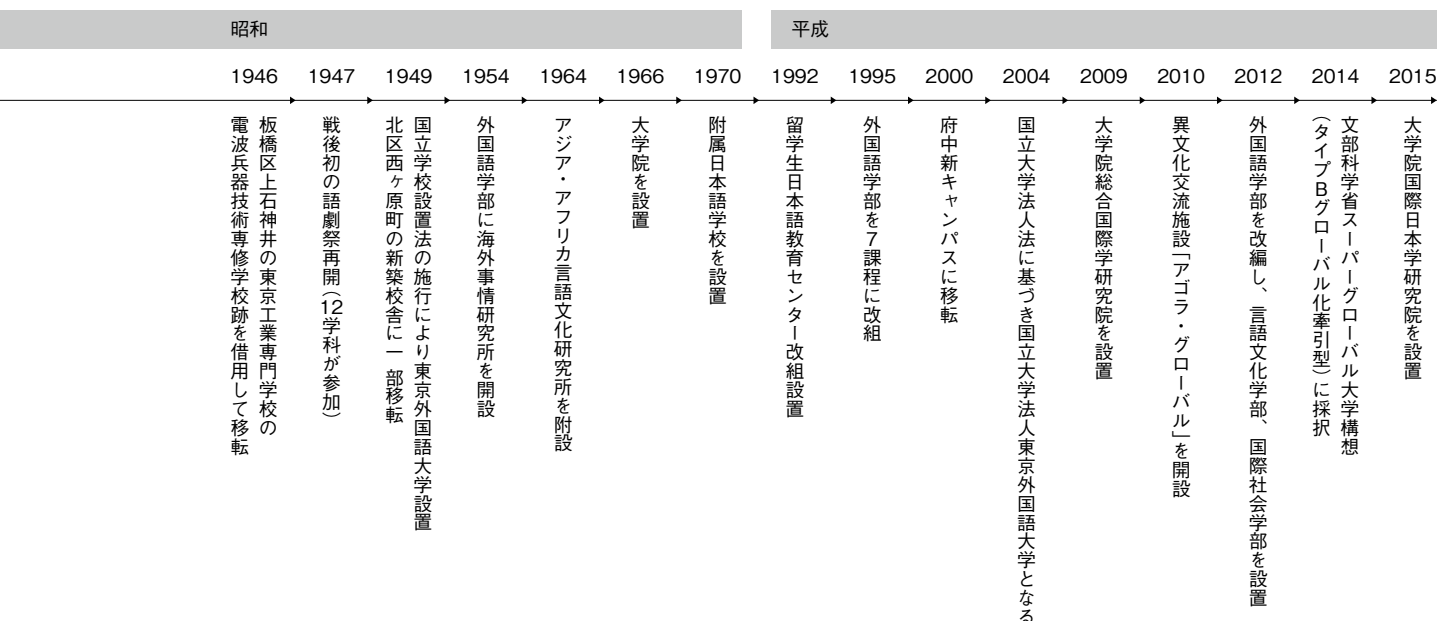
語学校は、名前を変えながらも、独立した国立の教育機関としての現在までつづく歴史を歩んでいます。

以上の歴史を踏まえ、本学は、1873年を建学の年、1897年を創立の年、1899年を独立の年、と呼んでいます。

本学は第二次世界大戦後の1949年、新制大学として発足しました。新制大学発足当初は12学科からなる外国語学部のみでしたが、じょじょに学科や部局の数をふやし、学部のほかに、博士課程を持つ大学院地域文化研究科、全国共同利用研究所であるアジア・アフリカ言語文化研究所、教育関係共同利用拠点である留学生日本語教育センターからなる大学へと発展しました。また、2012年には学部改組が行われ、言語文化学部と国際社会学部という2つの学部が誕生しました。

キャンパスは、当初は、東京の神田錦町に位置していました。火災や地震、戦災により何度も移転を余儀なくされましたが、1940年以後は、主に、東京北西部、北区西ヶ原の校舎を利用してきました。2000年、本学は東京西部に位置する府中市の現キャンパスに移転し、近代的な設備と高度な情報環境のもとでの、教育・研究を実現しました。

こうした100年を超える歴史をふまえ、東京外国語大学は21世紀の日本における国際的な学問研究、学術交流の拠点のひとつとして重要な役割を果たし続けています。



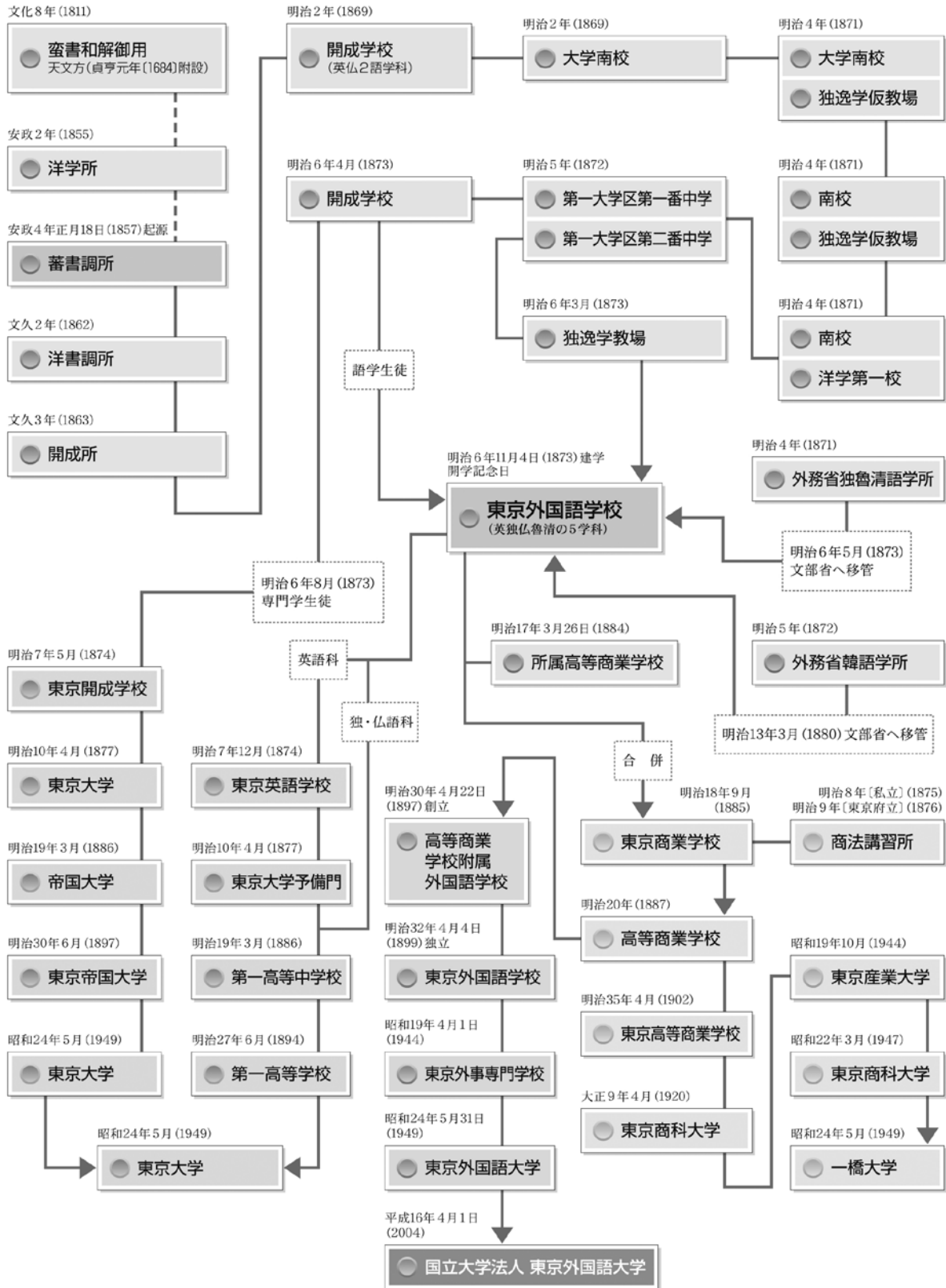
校章について

由来:1897(明治30)年に東京高等商業学校附属外国語学校として創立された本学が、1899(明治32)年、東京外国語学校として独立する際に、神田乃武校長をはじめ各教官協議の結果、この徽章を制定した。炬火(たいまつ)は、「光は世を照らす」ことを意味し、Lはラテン語のLinguaの頭文字をとった。左右の羽翼については、独立当初に教授した8語学科を意味しているといわれている。



東京外国語大学
Tokyo University of Foreign Studies

沿革略史



明治

- 6(1873)・11・4 ▶ 東京外国語学校(官立、第一大学区東京第四大区二小区一ツ橋通町一番地に開設。5学科(英・仏・独・露・清語)を設置
7(1874)・12・24 ▶ 英語学科が東京英語学校設置に伴い同校に移行、よって4学科(仏・独・露・清語)となる
13(1880)・3 ▶ 朝鮮語学科設置
17(1884)・3・26 ▶ 東京外国語学校に所属高等商業学校を設置
18(1885)・8・14 ▶ 仏・独語学科が東京大学予備門に移行、よって3学科(露・清・朝鮮語)となる
9・22 ▶ 東京外国語学校及び同校所属高等商業学校と東京商業学校が東京商業学校として合併
29(1896)・1 ▶ 第九帝国議会において衆議院及び貴族院の両院が外国語学校の開設を建議
30(1897)・4・22 ▶ 高等商業学校に附属外国語学校附設7学科(英・仏・独・露・西・清・韓語)を設置。修業年限3年
32(1899)・4・4 ▶ 高等商業学校附属外国語学校が東京外国語学校(神田錦町3丁目14番地)と改称されるとともに、文部省直轄3官立専門学校の一つとして独立
伊語学科を設置し、8学科となる
44(1911)・1 ▶ 新たに5学科(蒙古語、暹羅語、馬來語、ヒンドスタン語、タミル語)を設置し13学科となる
韓語学科を朝鮮語学科に改称

大正

- 2(1913)・2・20 ▶ 神田大火により校舎全焼
2・24 ▶ 文部省修文館のほか東京高等商業学校分教場の一部を借用し、授業開始
9・5 ▶ 本校敷地内に仮校舎を新築
清語学科を支那語学科に改称
5(1916)・1・17 ▶ 葡語学科を設置し、14学科となる
8(1919)・9・4 ▶ 各学科の名称を部に改正、各部を文科、貿易科、拓殖科に分ける
10(1921)・4・10 ▶ 麹町区元圃町一番地の新校舎に移転
12(1923)・9・1 ▶ 関東大震災により附属建物を除き全焼
11・1 ▶ 牛込区市ヶ谷の陸軍士官学校の一部を借用し授業開始
13(1924)・3・3 ▶ 麹町区竹平町一番地の元文部省跡の新築仮校舎に移転

昭和

- 2(1927)・3・28 ▶ 朝鮮語部廃止により13語部となる。修業年限4年に改正
15(1940)・7・24 ▶ 滝野川区西ヶ原町の元海軍爆薬部跡に本造校舎を新築
16(1941)・5・21 ▶ 暹羅語部を泰語部に改称、暹羅語を泰語に改称
19(1944)・4・26 ▶ 東京外事専門学校と改称。修業年限3年に改正
第一部(支那、蒙古、タイ、マライ、インド、ビルマ、フィリピン、イスパニヤ、ポルトガルの9科)及び第二部(ドイツ、フランス、ロシア、イタリア、英米の5科)を設置
別科として専修科(修業年限2年)及び速成科(修業年限1年)を設置
5・31 ▶ 麹町区竹平町一番地から書庫を除き滝野川区西ヶ原町の新築校舎に移転
20(1945)・4・13 ▶ 戦災により校舎等全焼
5 ▶ 戦災により校舎等全焼のため下谷区上野公園東京美術学校、図書館講習所、美術研究所内に移転。7月から授業開始
21(1946)・6・1 ▶ 板橋区上石神井1丁目216番地の習山中学校校舎の一部借用
7・22 ▶ 支那科を中国科に、タイ科をシャム科に改正し、支那語を中国語に、タイ語をシャム語に改称
8・1 ▶ 板橋区上石神井1丁目79番地の東京工業専門学校の電波兵器技術専修学校跡を借用して移転し、9月から授業開始
8・16 ▶ マライ科をインドネシア科に、フィリピン科をフィリピン科に改称
24(1949)・3・23 ▶ 北区西ヶ原町の校地に戦災復旧本造校舎を新築
5・31 ▶ 国立学校設置法の施行により東京外国語大学設置(東京外事専門学校を包括して設置)。修業年限4年
6・1 ▶ 12学科(英米、フランス、ドイツ、ロシア、イタリア、イスパニヤ、ポルトガル、中国、蒙古、インド、インドネシア、シャム)を設置
8・30 ▶ 元ブラジル駐留特命全權大使澤田節藏、初代学長に就任
26(1951)・3・31 ▶ 東京外事専門学校を廃止
29(1954)・7・5 ▶ 外国語学部を海外事情研究所を開設
9 ▶ 留学生別科を設置。修業年限1年
30(1955)・12・16 ▶ 初めての選挙により教授岩崎民平が第二代学長に就任
31(1956)・3・31 ▶ 専攻科の設置。修業年限1年
専攻課程「英語、フランス語、イタリア語、ドイツ語、ロシア語、イスパニヤ語、ポルトガル語、中国語、蒙古語、ウルドゥー語、ヒンディー語、インドネシア語、シャム語」の13専攻
34(1959)・7・1 ▶ 外国語学部言語研究所を開設
35(1960)・3 ▶ 留学生別科を廃止
4・1 ▶ 留学生課程を設置。修業年限3年
36(1961)・4・1 ▶ 学科を科に改称。イスパニヤ学科、ポルトガル学科、蒙古学科、インド学科、シャム学科をそれぞれスペイン科、ポルトガル・ブラジル科、モンゴル科、インド・パキスタン科、タイ科に改称。アラビア科を設置
39(1964)・4・1 ▶ 科を語学科に改称
タイ科をインドシナ語学科に改称
アジア・アフリカ言語文化研究所を設置
41(1966)・4・1 ▶ 大学院外国語学研究所を開設
43(1968)・4・1 ▶ 特設日本語学科を設置
45(1970)・4・1 ▶ 北区西ヶ原に附属日本語学校を設置
46(1971)・3 ▶ 府中市住吉町5丁目10番地1号の新校舎に附属日本語学校移転
46(1971)・4・1 ▶ 田沢湖高原研修施設を開設
47(1972)・3 ▶ 留学生課程を廃止
50(1975)・4・1 ▶ 大学院外国語学研究所修士課程に日本語学専攻を設置
52(1977)・4・1 ▶ 朝鮮語学科を設置
大学院地域文化研究科修士課程を設置

平成

- 55(1980)・4・1 ▶ ベルシア語学科を設置
59(1984)・4・1 ▶ インドネシア語学科をインドネシア・マレーシア語学科に改称
60(1985)・4・1 ▶ 特設日本語学科を日本語学科に改組
国際交流会館開設
61(1986)・4・1 ▶ 附属日本語学校に留学生教育教材開発センターを設置
3(1991)・4・1 ▶ ロシア語学科をロシア・東欧語学科に改組
4(1992)・4・1 ▶ 大学院地域文化研究科博士課程(前期・後期)を設置、外国語学研究所修士課程及び地域文化研究科修士課程を地域文化研究科に統合
インドネシア・マレーシア語学科とインドシナ語学科を東南アジア語学科に改組
4・10 ▶ 附属日本語学校と留学生教育教材開発センターを留学生日本語教育センターに改組
5(1993)・4・1 ▶ アラビア語学科とベルシア語学科を中東語学科に改組
7(1995)・4・1 ▶ 外国語学部を7課程(欧米第一、欧米第二、ロシア・東欧、東アジア、東南アジア、南・西アジア、日本)3大講座(言語・情報、総合文化、地域・国際)に改組
8(1996)・4・1 ▶ 大学院地域文化研究科に「国際文化講座」(博士講座)を設置
外国語学部を総合文化研究所を開設
9(1997)・4・1 ▶ アジア・アフリカ言語文化研究所に情報資源利用研究センターを設置
4・22 ▶ 創立百周年(建学百二十四年)記念式典挙行
10・22 ▶ 情報処理センターを設置
10(1998)・10・1 ▶ ISEPTUFS(東京外国語大学国際教育プログラム)開設
11(1999)・4・1 ▶ 大学院地域文化研究科に「国際協力講座」(博士講座)を設置
11・4 ▶ 独立百周年(建学百二十六年)記念式典挙行、『東京外国語大学史』刊行。Donald・キーン氏(コロンビア大学名誉教授)に最初の名誉博士学位を授与
12(2000)・4・1 ▶ 副学長(2人)、外国語学部長が設置される
大学院地域文化研究科に最初の連携講座(連携先・日本銀行金融研究所)を設置
8・11 ▶ 府中新キャンパスに移転(10月2日より新キャンパスにて授業開始)
13(2001)・3・15 ▶ 東京医科歯科大学、東京外国語大学、東京工業大学、一橋大学間において「四大学連合憲章」調印
4・1 ▶ 大学院地域文化研究科に連携講座(連携先・国際協力事業団)を設置
5・10 ▶ 東京外国語大学本郷サテライト開設
14(2002)・2・1 ▶ アジア・アフリカ言語文化研究所が府中キャンパスに移転
4・1 ▶ 大学院地域文化研究科に「対照言語情報講座」(博士講座)を設置
外国語学部附属施設の海外事情研究所、語学研究所、総合文化研究所を廃止し、新たに学内附属施設として海外事情研究所、語学研究所、総合文化研究所を開設
15(2003)・4・1 ▶ 大学院地域文化研究科に連携講座(連携先・日本貿易振興会アジア経済研究所)を設置
16(2004)・2・23 ▶ 留学生日本語教育センターが府中キャンパスに移転
4・1 ▶ 国立大学法人法に基づき国立大学法人東京外国語大学設立
大学院地域文化研究科に「平和構築・紛争予防講座」(博士講座)を設置
16(2004)・10・1 ▶ 学内附属施設として国際環境法研究センターを設置
17(2005)・4・1 ▶ 大学院地域文化研究科に「言語教育学講座」(博士講座)を設置
9・1 ▶ 国際学術戦略本部を設置
18(2006)・4・1 ▶ 大学院地域文化研究科博士前期課程の全専攻を、言語文化専攻、言語応用専攻、地域・国際専攻、国際協力専攻に改組
情報処理センターを廃止し、総合情報コラボレーションセンターを設置
学内附属施設として多言語・多文化教育研究センターを設置
19(2007)・3・7 ▶ アジア・アフリカ研究・教育コンソーシアム設立
4・1 ▶ 学内附属施設として地球社会先端教育センターを設置
20(2008)・10・1 ▶ 東京外国語大学出版会設立
21(2009)・4・1 ▶ 総合国際学研究院を設置
総合国際学研究院を設置し、博士後期課程の地域文化専攻を言語文化専攻と国際社会専攻に改組
国際日本研究センターを設置
世界言語社会教育センターを設置
22(2010)・4・1 ▶ 異文化交流施設「アゴラ・グローバル」を開設
▶ アジア・アフリカ言語文化研究所が共同利用・共同研究拠点に認定
23(2011)・4・1 ▶ 学内附属施設として国際関係研究所を開設
学術情報基盤を設置
▶ グローバル・キャリア・センター設置
24(2012)・4・1 ▶ 外国語学部を改編し、言語文化学部、国際社会学部を設置
▶ 大学図書館を設置
7・31 ▶ 留学生日本語教育センターが教育関係共同利用拠点に認定
25(2013)・4・1 ▶ 高等教育支援基盤、総合研究推進基盤、社会・国際貢献基盤、学生支援基盤を設置
▶ 学内附属施設として大学連携センター、教育情報(支援)センターを設置
▶ 国際交流会館3号館を開設
10・1 ▶ 社会・国際貢献情報センターを設置
▶ 経営戦略情報本部を設置
11・1 ▶ 多摩アカデミックコンソーシアム(TAC)に加盟
26(2014)・9・26 ▶ 文部科学省スーパーグローバル大学構想(タイプB:グローバル化牽引型)に本学構想が採択
27(2015)・4・1 ▶ 国際日本学研究院を設置
▶ 留学支援共同利用センター、現代インド研究センター(2016.4.1 南アジア研究センターに改名)を設置
28(2016)・4・1 ▶ 大学図書館が国立公文書館等指定機関に認定
博士前期課程を世界言語社会専攻と国際日本専攻に改組
29(2017)・4・1 ▶ 現代アフリカ地域研究センターを設置
30(2018)・4・1 ▶ 博士後期課程を世界言語社会専攻と国際日本専攻に改組

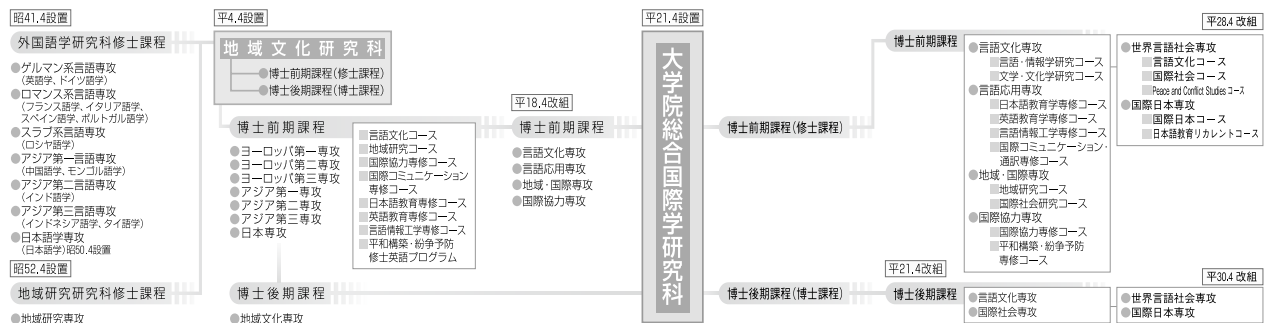
学部



平24.4改組

言語文化学部	言語文化学科	英語	イタリア語	日本語	フィリピン語	ビルマ語	ペルシア語
		ドイツ語	スペイン語	中国語	タイ語	ウルドゥー語	トルコ語
		ポーランド語	ポルトガル語	朝鮮語	ラオス語	ヒンディー語	
		チェコ語	ロシア語	インドネシア語	ベトナム語	ベンガル語	
国際社会学部	国際社会学科	フランス語	モンゴル語	マレーシア語	カンボジア語	アラビア語	
		北西ヨーロッパ地域	北アメリカ地域	中央アジア地域	アフリカ地域		
		中央ヨーロッパ地域	ラテンアメリカ地域	東南アジア地域	オセアニア地域		
		西南ヨーロッパ地域	日本地域	南アジア地域			
			ロシア地域	東アジア地域	西南アジア・北アフリカ地域		

大学院



アジア・アフリカ言語文化研究所



留学生日本語教育センター



歴代の校長・学長

校 長

【東京外国語学校】

神田 乃武	1899年 4月
上田 万年(校長事務取扱)	1900年 4月
高楠順次郎	1900年 11月
村上直次郎	1908年 7月
茨木清次郎	1918年 9月
長屋 順耳	1919年 4月
戸沢 正保	1932年 8月
石井 忠純	1938年 12月
大畑 文七	1943年 9月

【東京外事専門学校】

大畑 文七	1944年 4月
井出 義行	1945年 7月

学 長

【東京外国語大学】

井出 義行(学長事務取扱)	1949年 5月
澤田 節蔵	1949年 8月
岩崎 民平	1955年 12月
小川 芳男	1961年 12月
鐘ヶ江信光(学長事務取扱)	1969年 4月
鐘ヶ江信光	1971年 4月
坂本 是忠	1975年 4月
鈴木 幸壽(学長事務取扱)	1981年 9月
鈴木 幸壽	1981年 12月
長 幸男	1985年 12月
原 卓也	1989年 9月
中嶋 嶺雄	1995年 9月
池端 雪浦	2001年 9月
亀山 郁夫	2007年 9月
立石 博高	2013年 4月

役職員

(2018年5月1日現在)

▶ 役員会

学 長	立石 博高
理事・副学長(総括、教育、広報等担当)	林 佳世子
理事・副学長(人事、研究、機関連携等担当)	岩崎 稔
理事(財務、施設、IR、情報マネジメント等担当)・事務局長	匂坂 克久

▶ 副学長(理事兼務者除く)

副学長(国際交流等担当)	伊東 祐郎
副学長(学生支援、アラムナイ、社会貢献等担当)	武田 千香

▶ 監 事

監事(非常勤)	寺前 隆
監事(非常勤)	桑原 道夫

▶ 学長補佐

学長特別補佐(点検評価、IR等担当)	蒲生 慶一
学長特別補佐(市民講座、アラムナイ、基金等担当)	佐野 洋
学長特別補佐(高大連携、IR等担当)	藤縄 康弘
学長特別補佐(留学生支援、男女共同参画、新学部準備等担当)	伊集院郁子
学長特命補佐(基金、アラムナイ担当)	浦田 和幸
学長特命補佐(基金、アラムナイ担当)	斎藤 弘子
学長特命補佐(就職支援担当)	今井 昭夫

▶ 特命事項担当室

国際交流担当	萩尾 生
就職支援担当	山田文比古
IR担当	高橋 将宜

▶ 経営協議会

凸版印刷株式会社印刷博物館館長	樺山 紘一
文化財建造物保存技術協会顧問	川村 恒明
NHK解説委員	加藤 青延
株式会社ブリヂストン相談役	荒川 詔四
昭和女子大学理事長	坂東眞理子
首都大学東京大学院社会科学部研究科教授	松田千恵子
公益財団法人海外日系人協会理事長	田中 克之
杏林大学国際交流センター長	Paul Snowden
学 長	立石 博高
理事・副学長(人事、研究、機関連携等担当)	岩崎 稔
理事(財務、施設、IR、情報マネジメント等担当)・事務局長	匂坂 克久
大学院総合国際学研究院長	青山 亨
大学院国際日本学研究院長	早津恵美子
国際社会学部長	吉田ゆり子
アジア・アフリカ言語文化研究所長	飯塚 正人

▶ 教育研究評議会

学 長	立石 博高
理事・副学長(総括、教育、広報等担当)	林 佳世子
理事・副学長(人事、研究、機関連携等担当)	岩崎 稔
理事(財務、施設、IR、情報マネジメント等担当)・事務局長	匂坂 克久
副学長(国際交流等担当)、附属図書館長	伊東 祐郎
副学長(学生支援、アラムナイ、社会貢献等担当)	武田 千香
大学院総合国際学研究院長	青山 亨
大学院国際日本学研究院長	早津恵美子
言語文化学部長	八木久美子
国際社会学部長	吉田ゆり子
アジア・アフリカ言語文化研究所長	飯塚 正人
留学生日本語教育センター長	藤村 知子
総合情報コラボレーションセンター長	栗田 博之
大学院総合国際学研究院副研究院長	吉本 秀之
大学院国際日本学研究院副研究院長	藤森 弘子
言語文化学部副学部長	浦田 和幸
国際社会学部副学部長	篠原 琢
アジア・アフリカ言語文化研究所副所長	中山 俊秀
留学生日本語教育センター副センター長	鈴木 智美

▶ 言語文化学部

言語文化学部長	八木久美子
副学部長	浦田 和幸
言語・情報コース長	黒澤 直俊
グローバルコミュニケーションコース長	根岸 雅史
総合文化コース長	土佐 桂子

▶ 国際社会学部

国際社会学部長	吉田ゆり子
副学部長	篠原 琢
地域社会研究コース長	丹羽 泉
現代世界論コース長	大川 正彦
国際関係コース長	松隈 潤

▶ 外国語学部

外国語学部長	吉田ゆり子
外国語学部長代理	八木久美子
副学部長	浦田 和幸
副学部長	篠原 琢
言語・情報コース長	黒澤 直俊
総合文化コース長	土佐 桂子
地域・国際コース長	丹羽 泉

役職員（続き）

▶ 大学院総合国際学研究所	
研究科長	青山 亨
研究科長代理	早津恵美子
副研究科長	金 富子
副研究科長	藤森 弘子
▶ 大学院総合国際学研究院	
大学院総合国際学研究院長	青山 亨
大学院総合国際学研究院副研究院長	吉本 秀之
大学院総合国際学研究院副研究院長	金 富子
▶ 大学院国際日本学研究院	
大学院国際日本学研究院長	早津恵美子
大学院国際日本学研究院副研究院長	藤森 弘子
大学院国際日本学研究院副研究院長	藤村 知子
▶ アジア・アフリカ言語文化研究所	
アジア・アフリカ言語文化研究所長	飯塚 正人
アジア・アフリカ言語文化研究所副所長	中山 俊秀
情報資源利用研究センター長	星 泉
フィールドサイエンス研究企画センター長	近藤 信彰
▶ 留学生日本語教育センター	
留学生日本語教育センター長	藤村 知子
留学生日本語教育センター副センター長	鈴木 智美
▶ 附属図書館	
附属図書館長	伊東 祐郎
▶ その他学内の附属教育・研究施設	
保健管理センター所長	山本 勇
グローバル・キャリア・センター長	武田 千香
留学支援共同利用センター長	萩尾 生
総合情報コラボレーションセンター長	栗田 博之

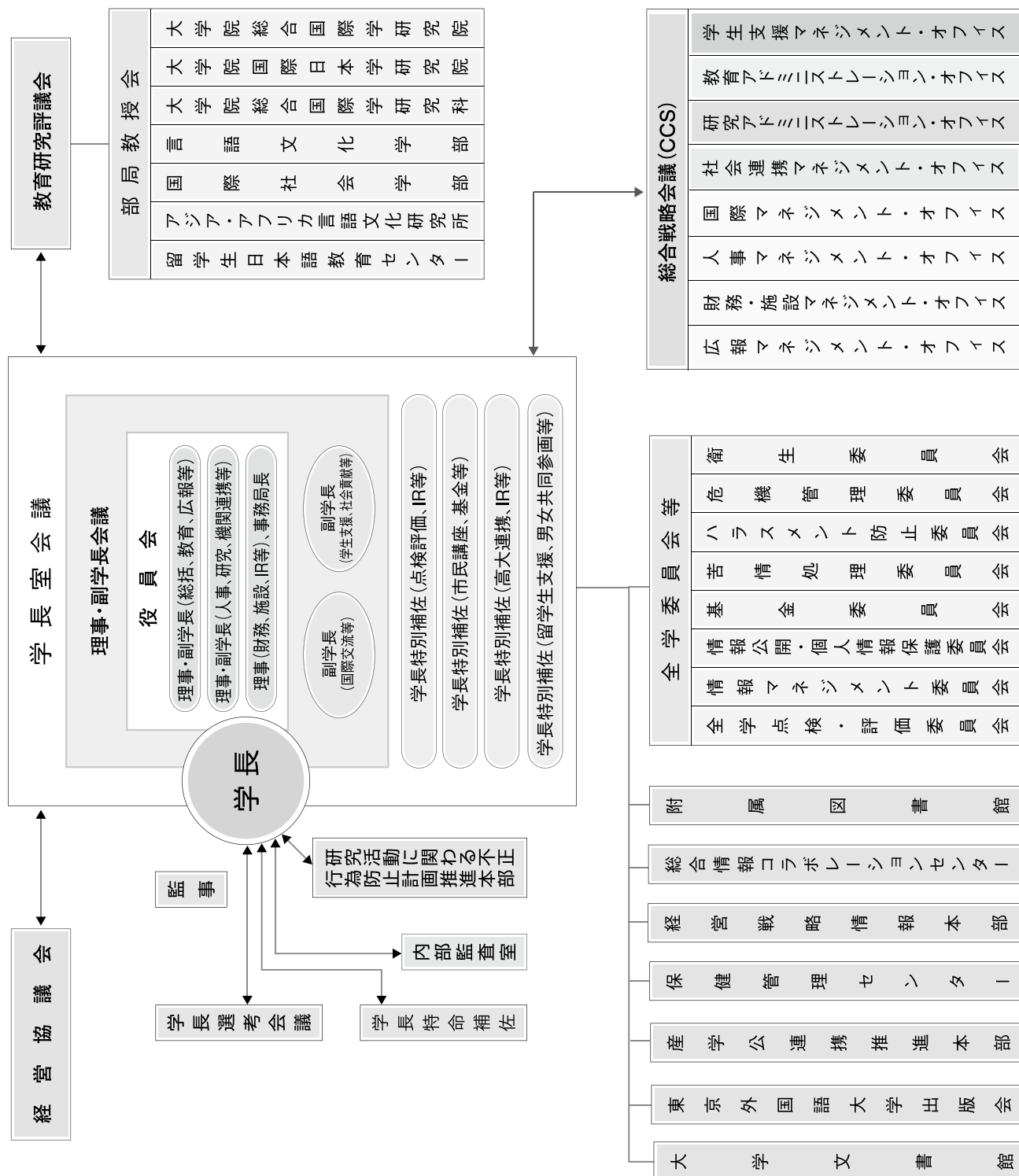
教育情報化支援センター長	林 佳世子
ワールド・ランゲージ・センター長	投野由紀夫
世界言語社会教育センター長	林 佳世子
TUFSオープンアカデミー運営委員長	佐野 洋
社会・国際貢献情報センター長	長崎 輝章
多言語・多文化教育研究センター長	武田 千香
国際日本研究センター長	坂本 恵
海外事情研究所長	大川 正彦
語学研究所長	成田 節
総合文化研究所長	山口 裕之
国際関係研究所長	鈴木 義一
大学文書館長	吉田ゆり子
南アジア研究センター長	栗屋 利江
現代アフリカ地域研究センター長	武内 進一
▶ 事務局	
事務局長	匂坂 克久
総務企画部長	大内あづさ
学務部長	君塚 剛
総務企画課長	大野 智子
社会連携主幹	木村 晴茂
人事労務課長	水村 直人
会計課長	富田 章
施設企画課長	岩渕 靖志
研究協力課長	市川 雅一
学術情報課長	笠原 政宏
情報企画室長	今井 健二
国際化拠点室長	成瀬 智
教務課長	今坂 良明
学生課長	山口 登之
入試課長	佐伯 季之
留学生課長	福井 浩一
研究院事務課長	藤崎 英朗

教職員数

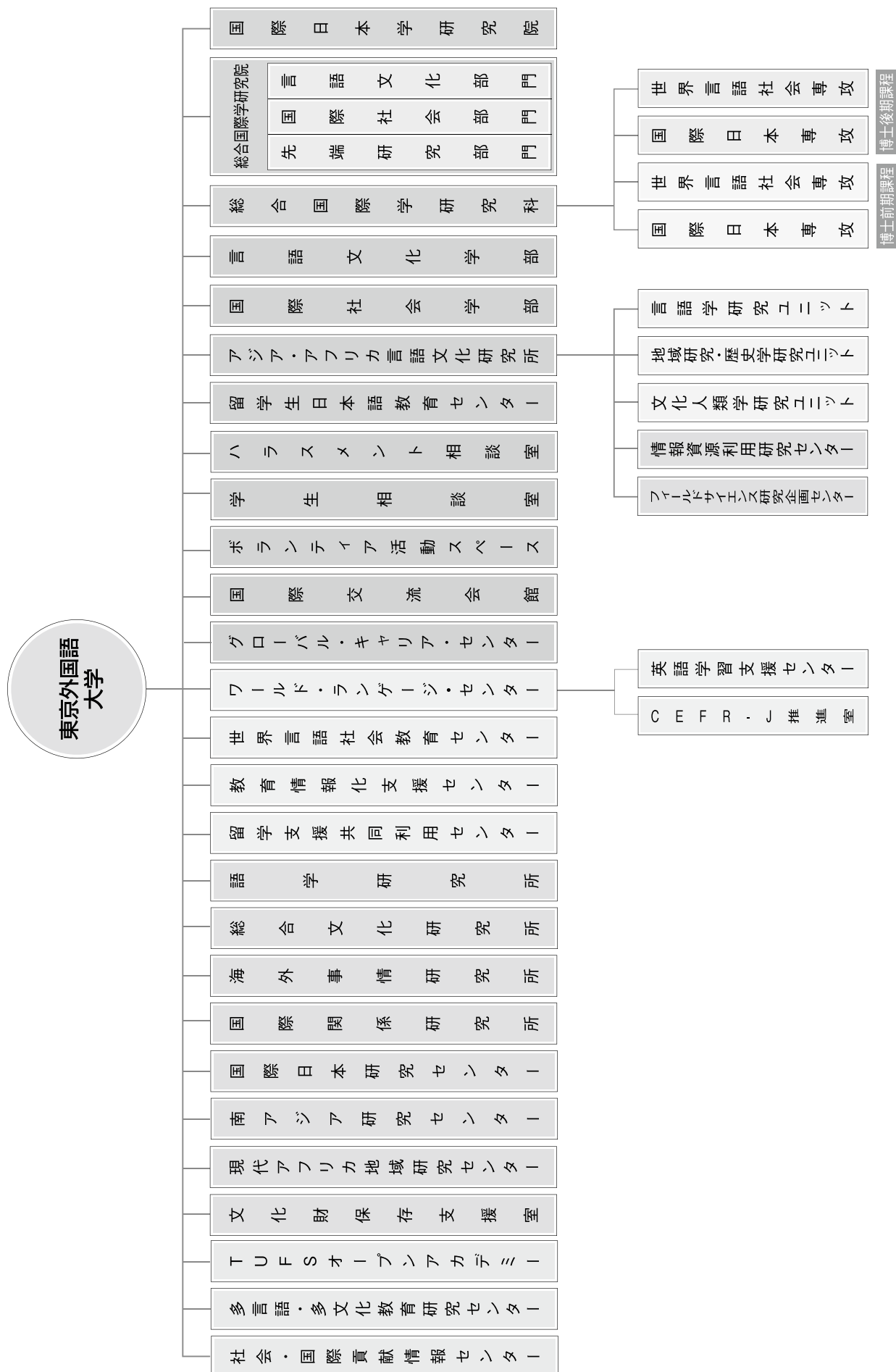
（2018年5月1日現在）

区分	学長	理事	副学長	監事	教授	准教授	講師	助教	助手	特定外国語教員	外国人研究員	事務・技術職員	特定有期雇用職員	計
役員等	1	3	2	2 (2)										8(2)
大学院総合国際学研究院					68 [2]	42	6							116[2]
大学院国際日本学研究院					18 [1]	12 [1]	4							34[2]
アジア・アフリカ言語文化研究所					18	12		6 [6]			3 [3]			39[9]
世界言語社会教育センター					1 [1]		17 [16]	11 [11]	1	33 [33]				63[61]
現代アフリカ地域研究センター					1		3 [3]							4[3]
特命事項担当室					2 [1]			1 [1]						3[2]
保健管理センター					1 [1]							1		2[1]
事務局												109		109
その他						1							26 [26]	27[26]
計	1	3	2	2 (2)	109 [6]	67 [1]	30 [19]	18 [18]	1	33 [33]	3 [3]	110	26 [26]	405 (2)[106]

（ ）は非常勤を内数で示す。[]は有期雇用教員を内数で示す。



教育研究組織



学生数

言語文化学部

(2018年5月1日現在)

専攻	1年			2年			3年			4年			総計
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
英語 / 北西ヨーロッパ地域	7	13	20	7	8	15	6	19	25	9	25	34	94
英語 / 北アメリカ地域	7	16	23	14	15	29	6	12(3)	18(3)	14(1)	24(2)	38(3)	108(6)
英語 / オセアニア地域								1	1	1	3	4	5
ドイツ語 / 中央ヨーロッパ地域	12	16	28	11	17	28	11	23	34	16(3)	25	41(3)	131(3)
ポーランド語 / 中央ヨーロッパ地域	2	6	8	1	8	9	4	11	15	2	5	7	39
チェコ語 / 中央ヨーロッパ地域	3	5	8	7	4	11	3	9	12	3	5	8	39
フランス語 / 西南ヨーロッパ地域	3	26	29	6	23	29	9	29(1)	38(1)	8(1)	40(2)	48(3)	144(4)
イタリア語 / 西南ヨーロッパ地域	3	12	15	3	10	13	6(1)	10(1)	16(2)	6	20	26	70(2)
スペイン語 / 西南ヨーロッパ地域	9	15	24	11	19	30	6	21(1)	27(1)	16(1)	30	46(1)	127(2)
スペイン語 / ラテンアメリカ地域	2	5	7	4	4	8	3	2	5	4	6	10	30
ポルトガル語 / 西南ヨーロッパ地域	1	8	9	3	6	9	3	8	11	3	15	18	47
ポルトガル語 / ラテンアメリカ地域	2	2	4	3	3	6	3		3	5(1)	3	8(1)	21(1)
ロシア語 / ロシア地域	13	14	27	11	15	26	13	14	27	17(1)	28(2)	45(3)	125(3)
ロシア語 / 中央アジア地域	4	4	8	1	5	6	3	5	8	3	8	11	33
モンゴル語 / 中央アジア地域	2	6	8	4	4	8	4	5	9	4	7	11	36
日本語(日本人) / 日本地域	3	8	11	2	9	11	3	11(1)	14(1)	6	13	19	55(1)
日本語(外国人) / 日本地域	7	14	21	10	12	22	9(1)	10	19(1)	7	9	16	78(1)
中国語 / 東アジア地域	10	20	30	8	26	34	13(2)	25(1)	38(3)	19	29(5)	48(5)	150(8)
朝鮮語 / 東アジア地域		15	15	1	15	16	1(1)	21(2)	22(3)		25(3)	25(3)	78(6)
インドネシア語 / 東南アジア地域	5	5	10	3	8	11	3	8	11	9	14	23	55
マレーシア語 / 東南アジア地域	1	4	5	2	4	6	1	7	8	3	2	5	24
フィリピン語 / 東南アジア地域		7	7	3	5	8	2	7	9	2	9	11	35
タイ語 / 東南アジア地域		7	7	1	7	8	2	9(1)	11(1)	2	10	12	38(1)
ラオス語 / 東南アジア地域	2	4	6	1	4	5	2	5	7	2	9	11	29
ベトナム語 / 東南アジア地域	2	6	8		5	5	1	8	9	5	6	11	33
カンボジア語 / 東南アジア地域		5	5	1	4	5	4	3	7	2	5	7	24
ビルマ語 / 東南アジア地域	3	2	5	3	3	6	1	7	8	1	8	9	28
ウルドゥー語 / 南アジア地域	2	7	9	4	3	7		6	6	6	6	12	34
ヒンディー語 / 南アジア地域	4	7	11	6	10	16	5	6	11	4	9	13	51
ベンガル語 / 南アジア地域	2	3	5	4	3	7	1	3	4	4	7(1)	11(1)	27(1)
アラビア語 / 西アジア・北アフリカ地域	5	10	15	6	10	16	8	12	20	5(1)	16	21(1)	72(1)
ペルシア語 / 西アジア・北アフリカ地域	1	6	7	4	5	9	3	4	7	1	12	13	36
トルコ語 / 西アジア・北アフリカ地域	1	7	8	2	5	7	5	5	10	2	10	12	37
合 計	118	285	403	147	279	426	144	326	470	191	443	634	1,933
収容定員	370			370			385			385			1,510

(注) * は3年次編入を含む

国際社会学部

(2018年5月1日現在)

専攻	1年			2年			3年			4年			総計
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
北西ヨーロッパ地域 /英語	3	10	13	8	8	16	5(1)	12	17(1)	14(2)	15(2)	29(4)	75(5)
中央ヨーロッパ地域 /ドイツ語	5	25	30	11	29	40	8	19	27	19	27	46	143
中央ヨーロッパ地域 /ポーランド語		8	8		6	6	3	8	11	2	6	8	33
中央ヨーロッパ地域 /チェコ語	4	4	8	5	2	7	2	5	7	1	7	8	30
西南ヨーロッパ地域 /フランス語	5	23	28	11	24	35	8(1)	25	33(1)	11	37(2)	48(2)	144(3)
西南ヨーロッパ地域 /イタリア語	5	8	13	4	8	12	6	9	15	5	14	19	59
西南ヨーロッパ地域 /スペイン語	5	7	12	2	13	15	4	13	17	9	19	28	72
西南ヨーロッパ地域 /ポルトガル語	2	2	4	1	3	4		2	2	1	6	7	17
ロシア地域 /ロシア語	10	16	26	15	14	29	17	15(1)	32(1)	20(1)	15	35(1)	122(2)
北アメリカ地域 /英語	13	8	21	6	9	15	19(2)	14(3)	33(5)	12(1)	8(1)	20(2)	89(7)
ラテンアメリカ地域 /スペイン語	5	15	20	10	16	26	5	14	19	18	19(1)	37(1)	102(1)
ラテンアメリカ地域 /ポルトガル語	3	5	8	2	4	6	5	2	7	7	5	12	33
日本地域 /日本語(日本人)		4	4	2	3	5	2	5(1)	7(1)	2	10(2)	12(2)	28(3)
日本地域 /日本語(外国人)	15	9	24	7	11	18	10	11	21	8(1)	13(1)	21(2)	84(2)
東アジア地域 /中国語	13	11	24	10	23	33	16(1)	20(1)	36(2)	20(2)	27(1)	47(3)	140(5)
東アジア地域 /朝鮮語	4	13	17	4	10	14	2	15	17	5	18(1)	23(1)	71(1)
中央アジア地域 /モンゴル語	3	3	6	5	3	8	4	6	10	2	7	9	33
中央アジア地域 /ロシア語	4	3	7	2	4	6	4	3	7	3	6	9	29
東南アジア地域 /インドネシア語	2	7	9	3	7	10	5	8	13	7	11	18	50
東南アジア地域 /マレーシア語	3	3	6	3	6	9	3	6	9	3	6	9	33
東南アジア地域 /フィリピン語	2	6	8	1	6	7	5	7	12	2	4	6	33
東南アジア地域 /タイ語	4	6	10	1	9	10	3	7	10	4	10	14	44
東南アジア地域 /ラオス語	1	4	5		5	5		5	5	3	3	6	21
東南アジア地域 /ベトナム語	5	2	7	3	6	9	3	7	10	8	9	17	43
東南アジア地域 /カンボジア語		4	4	2	1	3	4	4	8	1	4	5	20
東南アジア地域 /ビルマ語	3	2	5	3		3	3	4	7	2	6	8	23
南アジア地域 /ウルドゥー語	3	4	7		4	4	3	7	10	6	5	11	32
南アジア地域 /ヒンディー語	4	6	10	7	7	14	3	9	12	7	7	14	50
南アジア地域 /ベンガル語	2	3	5	1	3	4	1	7	8		7	7	24
西アジア・北アフリカ地域 /アラビア語	3	11	14	5	13	18	5	15	20	5	19	24	76
西アジア・北アフリカ地域 /ペルシア語	2	5	7	2	5	7	3	5	8	4	7	11	33
西アジア・北アフリカ地域 /トルコ語	4	4	8	3	6	9	1	7	8	4	4	8	33
アフリカ地域 /英語	3	14	17	8	10	18	5(1)	20(5)	25(6)	10(2)	20(4)	30(6)	90(12)
オセアニア地域 /英語	9	1	10	7	5	12	5	8	13	7	13(1)	20(1)	55(1)
合 計	149	256	405	154	283	437	172	324	496	232	394	626	1,964
収容定員			375			375			390			390	1,530

(注) * は3年次編入を含む

学生数 (続 き)

外国語学部

(2018年5月1日現在)

課 程	専 攻 語	4年			総 計
		男	女	計	
欧米第一課程	ドイツ語		2	2	2
欧米第二課程	スペイン語	1		1	1
ロシア・東欧課程	ロシア語		1	1	1
東アジア課程	中国語		1	1	1
	モンゴル語		1	1	1
東南アジア課程	カンボジア語	1		1	1
南・西アジア課程	アラビア語	1		1	1
	トルコ語	1		1	1
日本課程	日本語(日本人)		1	1	1
合 計 / Total		4	6	10	10

※2011年で募集停止

学部在籍者数 計

(2018年5月1日現在)

学部	1年			2年			3年			4年			総計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
言語文化学部	118	285	403	147	279	426	144	326	470	191	443	634	600	1,333	1,933
国際社会学部	149	256	405	154	283	437	172	324	496	232	394	626	707	1,257	1,964
外国語学部										4	6	10	4	6	10
計	267	541	808	301	562	863	316	650	966	427	843	1,270	1,311	2,596	3,907

大学院総合国際学研究科

(2018年5月1日現在)

課 程	専 攻	1年			2年			3年			総計		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
博士前期課程 ※1	言語文化専攻				1	2	3				1	2	3
	言語応用専攻				1		1				1	0	1
	地域・国際専攻				3	3	6				3	3	6
	合 計				5	5	10				5	5	10
博士前期課程	世界言語社会専攻	34	66	100	51	72	123				85	138	223
	国際日本専攻	8	36	44	14	35	49				22	71	93
	合 計	42	102	144	65	107	172				107	209	316
博士後期課程 ※2	言語文化専攻				9	14	23	30	36	66	39	50	89
	国際社会専攻	2	3	5	8	13	21	22	31	53	32	47	79
	合 計	2	3	5	17	27	44	52	67	119	71	97	168
博士後期課程	世界言語社会専攻	12	14	26							12	14	26
	国際日本専攻	5	4	9							5	4	9
	合 計	17	18	35							17	18	35

※1 2015年で募集停止

※2 2017年で募集停止

大学院在籍者数 計

(2018年5月1日現在)

研 究 科	課 程	1年			2年			3年			総計		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
総合国際学研究科	博士前期課程	42	102	144	70	112	182				112	214	326
	博士後期課程	19	21	40	17	27	44	52	67	119	88	115	203
計		61	123	184	87	139	226	52	67	119	200	329	529

入学者数・入学志願者数

言語文化学部

(2018年5月1日現在)

学 科	定 員	募集単位	募集人員	入学志願者数			入学者数		
				男	女	計	男	女	計
言語文化 学科	370	英語	41	60	108	168	14	29	43
		ドイツ語	27	29	46	75	12	16	28
		ポーランド語	7	5	8	13	2	6	8
		チェコ語	7	8	18	26	3	5	8
		フランス語	27	19	71	90	3	26	29
		イタリア語	14	6	26	32	3	12	15
		スペイン語	30	36	66	102	11	20	31
		ポルトガル語	13	13	29	42	3	10	13
		ロシア語	30	41	48	89	16	18	34
		モンゴル語	7	16	28	44	2	6	8
		日本語	10	12	27	39	3	8	11
			15	81	103	184	7	14	21
		中国語	28	37	77	114	10	20	30
		朝鮮語	14	7	59	66		15	15
		インドネシア語	10	12	12	24	5	5	10
		マレーシア語	5	6	17	23	1	4	5
		フィリピン語	7	7	19	26		7	7
		タイ語	7	10	24	34		7	7
		ラオス語	5	4	13	17	2	4	6
		ベトナム語	6	3	13	16	2	6	8
		カンボジア語	5	11	22	33		5	5
		ビルマ語	5	7	15	22	3	2	5
		ウルドゥー語	7	15	35	50	2	6	8
		ヒンディー語	10	28	42	70	4	7	11
		ベンガル語	5	8	6	14	2	3	5
		アラビア語	14	12	24	36	5	10	15
		ペルシア語	7	7	19	26	1	6	7
		トルコ語	7	5	21	26	1	7	8
合 計			370	505	996	1,501	117	284	401

(注) 入学志願者数及び入学者数には推薦入試、帰国子女特別入試、私費外国人留学生入試、国費外国人留学生入試等(学部留学生)及び日本語・日本地域留学生(渡日前選抜)を含む。
募集単位の日本語の欄は上段は日本人学生を、下段は外国人留学生を示す。

言語文化学部(推薦入試)

(2018年5月1日現在)

学 科	定 員	募集単位	募集人員	入学志願者数			入学者数		
				男	女	計	男	女	計
言語文化 学科	12	英語	2	3	17	20		2	2
		ドイツ語	2	3	10	13	1	1	2
		フランス語	2	4	16	20		2	2
		スペイン語	2	11	13	24	1	1	2
		ロシア語	2	1	10	11		2	2
		中国語	2	3	10	13	1	1	2
合 計			12	25	76	101	3	9	12

言語文化学部(3年次編入学)

(2018年5月1日現在)

学 科	定 員	募集単位	募集人員	入学志願者数			入学者数		
				男	女	計	男	女	計
言語文化 学科	15	言語・情報	15	8	10	18	3	3	6
		グローバルコミュニケーション		1	6	7		2	2
		総合文化		3	11	14	2	5	7
合 計			15	12	27	39	5	10	15

国際社会学部

(2018年5月1日現在)

学 科	定 員	募集単位	募集人員	入学志願者数			入学者数		
				男	女	計	男	女	計
国際社会 学科	375	北西ヨーロッパ	11	71	81	152	3	9	12
		中央ヨーロッパ	41	85	149	234	9	36	45
		西南ヨーロッパ第1	41	104	221	325	10	30	40
		西南ヨーロッパ第2	17	45	61	106	7	9	16
		ロシア	25	64	61	125	10	15	25
		北アメリカ	16	64	56	120	10	8	18
		ラテンアメリカ	27	72	84	156	8	20	28
		日本	5	27	37	64		4	4
			15	95	71	166	13	9	22
		東アジア	42	92	172	264	17	24	41
		中央アジア	13	22	24	46	7	5	12
		東南アジア第1	21	71	130	201	7	16	23
		東南アジア第2	28	71	133	204	13	18	31
		南アジア	21	41	71	112	9	13	22
		西アジア・北アフリカ	27	74	117	191	8	20	28
		アフリカ	15	26	56	82	3	14	17
		オセアニア	10	22	16	38	9	1	10
合 計			375	1,046	1,540	2,586	143	251	394

(注) 入学志願者数及び入学者数には帰国生等特別推薦入試、帰国子女特別入試、私費外国人留学生入試、国費外国人留学生入試等(学部留学生)及び日本語・日本地域留学生(渡日前選抜)を含む。
募集単位の日本の欄は上段は日本人学生を、下段は外国人留学生を示す。

国際社会学部(3年次編入学)

(2018年5月1日現在)

学 科	定 員	募集単位	募集人員	入学志願者数			入学者数		
				男	女	計	男	女	計
国際社会 学科	15	地域社会研究	15	6	4	10	2	4	6
		現代世界論		1	6	7		1	1
		国際関係		12	14	26	2	6	8
合 計			15	19	24	43	4	11	15

大学院総合国際学研究科

(2018年5月1日現在)

課 程	定 員	専 攻	入学志願者数			入学者数		
			男	女	計	男	女	計
博士前期課程	102	世界言語社会専攻	55	113	168	29	59	88
	46	国際日本専攻	24	104	128	7	32	39
合 計			79	217	296	36	91	127
博士後期課程	30	世界言語社会専攻	18	25	43	12	14	26
	10	国際日本専攻	8	9	17	5	4	9
合 計			26	34	60	17	18	35

(注) 博士前期課程の世界言語社会専攻PCSコースと国際日本専攻日本語教育リカレントコースは、10月入学であるため2018年5月1日現在の入学志願者数のみ計上している。
博士後期課程の国際社会専攻PCS分野は、10月入学であるため2018年5月1日現在の入学志願者数のみ計上している。

留学生数

(2018年5月1日現在)

所属・身分 国・地域		学部正規生				大学院正規生				研究生						日 研 生	交換留学生			留 日 所 属 研 究 生	教 員 研 修 留 学 生	合計		
		言語文化 学部		国際社会 学部		前期		後期		言語文化 学部		国際社会 学部		大学院		国	学 部		院	国	国	国	私	計
		国	私	国	私	国	私	国	私	国	私	国	私	国	私		私	私						
アジア	インド					1													1			2		2
	インドネシア	3				5		1	4	1							1					10	5	15
	カンボジア					1											2					1	2	3
	シンガポール	1			1												2					1	3	4
	スリランカ					2		1	1							1						4	1	5
	タイ	4		6		2								1			4		1			14	4	18
	フィリピン			1													1					1	1	2
	ブルネイ																1					1	1	
	ベトナム				1	2		1		1	1		1			3						7	3	10
	マレーシア		2			1										1	2					2	4	6
	ミャンマー					1			1					2			3					3	4	7
	モンゴル			1		2	1		1		7		1	1	1	1						5	11	16
	ラオス			1		1											3					2	3	5
	韓国		22		49		3		10					1	1	1	11			2		4	96	100
	香港	1	2		1		1										3					1	7	8
	台湾		2		3		1		1		1		1				7	1				17		17
	中国		29		18	2	78		37		48		17	1	4	2	7	10		1		6	248	254
中東	アフガニスタン					1																1		1
	イスラエル					1													1			2		2
	イラク					1																1	1	2
	イラン							1	3													1	3	4
	シリア						2							3								2	3	5
	トルコ						1			1							6		1			2	7	9
	レバノン								1													1		1
大洋洲	オーストラリア	3															2					3	2	5
	ニュージーランド					1																1		1
アフリカ	ウガンダ								1														1	1
	エジプト					2											4					2	4	6
	ガーナ						1	1									1					1	2	3
	コンゴ民主共和国																			1		1		1
	シエラレオネ					1		1														2		2
	チュニジア			1																		1		1
	ナイジェリア																			1		1		1
	マダガスカル																		1			1		1
	モザンビーク							1	1													1	1	2
	モロッコ								1													1		1
ヨーロッパ	アイルランド																6					6		6
	イギリス							1								1	12					2	12	14
	イタリア	1														1	10	1	1			3	11	14
	オーストリア																2					2		2
	オランダ								1								2					3		3
	ギリシャ			1					1													1	1	2
	スイス																4					4		4
	スペイン						1									1	4					1	5	6
	スロベニア																1					1		1
	セルビア								1							1	1					1	2	3
	チェコ															1	2					1	2	3
	ドイツ								1								7	1					9	9
	ハンガリー	1																				1		1
	フランス					1			1							1	14					2	15	17
	ブルガリア					1											1	1				1	2	3
	ベルギー			1																		1		1
	ポーランド																	1	1			1	1	2
	ボスニア・ヘルツェゴビナ																		1			1		1
	ポルトガル																1					1		1
	ラトビア																1					1		1
	リトアニア					1																1		1
	ルーマニア					1											2		1			2	2	4

(2018年5月1日現在)

所属・身分 国・地域		学部正規生				大学院正規生				研究生						日 研 生	交換留学生			留 所 属 研 究 生	教 員 研 修 留 学 生	合計			
		言語文化 学部		国際社会 学部		前期		後期		言語文化 学部		国際社会 学部		大学院			学 部	院	国						
国費(国)・私費(私)の別		国	私	国	私	国	私	国	私	国	私	国	私	国	私	国	私	私	国	国	国	私	計		
ロシア連邦及びNIS諸国	ウクライナ	1															1				2				2
	ウズベキスタン	1				4	1	1		2					1		1				8	4	12		
	カザフスタン					2					2						3				4	3	7		
	ジョージア	1																			1	1			
	タジキスタン					1				1										1	1	2			
	トルクメニスタン					1					1										2	2			
	ベラルーシ	1				1															2	2			
	ロシア					5	1		4	2		1		2	12	1		1	15	14	29				
北・南アメリカ	アメリカ合衆国	1	1			1		1								5		1		2	8	10			
	アルゼンチン					1													1		2	2			
	エクアドル					1																1	1		
	カナダ	1				1											1				1	2	3		
	キューバ	2																1		3	3				
	コロンビア	2															2				2	2	4		
	チリ	1								1										2	2				
	ブラジル	4	7			1	1		1					7	7				21	8	29				
	ベネズエラ	1																		1	1				
	メキシコ																4				4	4			
合 計		24	60	22	74	45	89	14	73	11	58	4	20	9	9	25	165	17	12	6	172	565	737		
		180				221				111							182				737				

前期……博士前期課程 後期……博士後期課程 日研生……日本語・日本文化研修留学生

留学生日本語教育センター 学部進学留学生

(2018年5月1日現在)

所属・身分 国・地域		学部進学留学生		
		文科系	理科系	計
アジア	インド		4	4
	インドネシア		1	1
	カンボジア		1	1
	シンガポール	2	1	3
	タイ		2	2
	パキスタン		1	1
	バングラデシュ		1	1
	フィリピン		1	1
	ベトナム	3	2	5
	マレーシア	1		1
	モンゴル	2	2	4
	韓国	5	2	7
	香港	1		1
	イラン		2	2
大洋州	オーストラリア	1		1
	バヌアツ		1	1

所属・身分 国・地域		学部進学留学生		
		文科系	理科系	計
アフリカ	アルジェリア		1	1
	エジプト		1	1
欧州 (NIS諸国を含む)	スウェーデン	1		1
	ハンガリー	2		2
	フィンランド	1		1
	ブルガリア	1		1
	ポーランド		1	1
	ルーマニア	1		1
	カザフスタン	1		1
	ベラルーシ	1		1
	ロシア	2		2
	エルサルバドル		1	1
北・南アメリカ	ブラジル	1	3	4
	ペルー		1	1
合 計		26	29	55

留学者数（2017年度実績）

入学年と留学者数

入学年	長期留学	短期留学	総計
2012	3	1	4
2013	44	7	51
2014	436	19	455
2015	336	44	380
2016	33	204	237
2017	3	417	420
総計	855	692	1,547

学部別留学者数

学部	長期留学	短期留学	合計
言語文化学部	416	329	745
国際社会学部	439	363	802
総計	855	692	1,547

長期留学：留学先地域・タイプ別留学者数

	交換留学	休学留学	自由留学	長期 インターンシップ	合計
アフリカ	9	5	11	10	35
オセアニア	12	6	9	2	29
ヨーロッパ	149	57	99	6	311
ロシア・中央アジア	41	24	4	3	72
中東	13	14	9		36
中南米	27	9	12	4	52
東アジア	41	31	9	1	82
東南アジア	46	34	29	24	133
南アジア		6	7	1	14
北米	24	14	49	4	91
総計	362	200	238	55	855

短期留学：留学先地域・タイプ別留学者数

	ショートビジット	スタディツアー	短期 インターンシップ	日本語教育 インターンシップ	計
アフリカ	18				18
オセアニア	51				51
ヨーロッパ	207		2		209
ロシア・中央アジア	24	15			39
中東	42				42
中南米	13				13
東アジア	61	5	2	3	71
東南アジア	95		17		112
南アジア	11	6			17
北米	84	36			120
総計	606	62	21	3	692

国際学術交流協定校数

(2018年5月1日現在)

国・地域		機 関 数
アジア	バングラデシュ	1
	ブータン	1
	ブルネイ	1
	カンボジア	1
	中国	12
	インド	5
	インドネシア	5
	ラオス	1
	マレーシア	3
	モンゴル	2
	ミャンマー	1
	パキスタン	3
	フィリピン	3
	韓国	11
	シンガポール	1
	タイ	5
	ベトナム	3
	台湾	6
	小計	18ヶ国・地域/65機関
オセアニア	オーストラリア	3
	ニュージーランド	2
	小計	2ヶ国/5機関
中東	イラン	3
	ヨルダン	1
	レバノン	3
	シリア	1
	トルコ	4
	パレスチナ	1
	小計	6ヶ国・地域/13機関
アフリカ	南アフリカ	1
	ガーナ	1
	ルワンダ	1
	カメルーン	2
	エジプト	2
	マリ	1
	モロッコ	1
	モザンビーク	2
	ザンビア	1
	ジンバブエ	1
	小計	10ヶ国/13機関

国・地域		機 関 数
ヨーロッパ	オーストリア	2
	ベルギー	1
	ブルガリア	1
	チェコ	3
	フィンランド	1
	フランス	10
	ドイツ	11
	ハンガリー	1
	アイルランド	1
	イタリア	7
	カザフスタン	1
	リトアニア	1
	オランダ	2
	ノルウェー	1
	ポーランド	4
	ポルトガル	4
	ルーマニア	2
	ロシア	7
	セルビア	1
	スロベニア	1
	スペイン	12
	スイス	2
	トルクメニスタン	1
	ウクライナ	1
	英国	4
	ウズベキスタン	1
	小計	27ヶ国/84機関
北アメリカ	カナダ	2
	米国	11
	小計	2ヶ国/13機関
米中央	アルゼンチン	1
	ブラジル	3
	コロンビア	1
	コスタリカ	1
	キューバ	1
	メキシコ	2
	ウルグアイ	1
	小計	7ヶ国/10機関
合 計	72ヶ国・地域 203機関	

その他、コンソーシアム

アジア・アフリカ研究・教育コンソーシアム (CAAS)

東アジア圏外国語大学コンソーシアム

アジア外国研究系大学コンソーシアム

外国語大学グローバルアライアンス(GAFSU)

シルクロード大学ネットワーク (SUN)

合計 5コンソーシアム

2017年度卒業・修了者数

外国語学部

課 程 / 専 攻		言語・情報 コ ー ス	総 合 文 化 コ ー ス	地 域・国際 コ ー ス	合 計
欧米第一課程	英語			1	1
	ドイツ語	2	1		3
欧米第二課程	フランス語			1	1
	イタリア語		2		2
	スペイン語		1		1
	ポルトガル語	1			1
ロシア・東欧課程	ロシア語	1		1	2
	ポーランド語	1			1
	チェコ語	1			1
東アジア課程	中国語			1	1
	朝鮮語		1		1
	モンゴル語	1			1
東南アジア課程	マレーシア語			1	1
	フィリピン語			1	1
	ラオス語		1		1
	カンボジア語			1	1
南・西アジア課程	ウルドゥー語			1	1
	ヒンディー語			1	1
日本課程	日本語(外国人)	1			1
総 計		8	6	9	23

2017年9月卒業を含む。

言語文化学部

専 攻		言語・情報 コ ー ス	グローバルコミュニケーション コース	総 合 文 化 コ ー ス	合 計
英語	北西ヨーロッパ地域	8	7	4	19
	北アメリカ地域	6	8	6	20
ドイツ語	中央ヨーロッパ地域	17	2	18	37
ポーランド語	中央ヨーロッパ地域	7		1	8
チェコ語	中央ヨーロッパ地域	4			4
フランス語	西南ヨーロッパ地域	9	3	10	22
イタリア語	西南ヨーロッパ地域	6	3	5	14
スペイン語	西南ヨーロッパ地域	3	6	11	20
ポルトガル語	ラテンアメリカ地域		2	5	7
	西南ヨーロッパ地域	1	3	4	8
ロシア語	ラテンアメリカ地域	4	1		5
	ロシア地域	4	3	19	26
モンゴル語	中央アジア地域			6	6
日本語	日本地域		2	5	7
		5			5
中国語	東アジア地域	7	2	4	13
朝鮮語	東アジア地域	6	5	13	24
インドネシア語	東南アジア地域	11	2	4	17
マレーシア語	東南アジア地域	1	1	4	6
フィリピン語	東南アジア地域	3	2	1	6
タイ語	東南アジア地域	5	2	2	9
ラオス語	東南アジア地域	4	1	4	9
ベトナム語	東南アジア地域	2		3	5
カンボジア語	東南アジア地域		3	3	6
ビルマ語	東南アジア地域	3	1	4	8
ウルドゥー語	南アジア地域	1		3	4
ヒンディー語	南アジア地域	2	1	7	10
ベンガル語	南アジア地域	1	1	10	12
アラビア語	西アジア・北アフリカ地域			4	4
ペルシア語	西アジア・北アフリカ地域	1	1	10	12
トルコ語	西アジア・北アフリカ地域			2	2
総 計		2	1	3	6
総 計		123	63	175	361

2017年9月卒業を含む。

国際社会学部

専 攻		地域社会 研究コース	現代世界 論 コー ス	国際関係 コ ー ス	合 計
北西ヨーロッパ地域	英語	2	1	3	6
	ドイツ語	12	8	8	28
中央ヨーロッパ地域	ポーランド語	1	1		2
	チェコ語	2		1	3
西南ヨーロッパ地域	フランス語	5	8	17	30
	イタリア語	4	4	4	12
	スペイン語	5	6	7	18
	ポルトガル語	1	1		2
ロシア地域	ロシア語	13	2	5	20
北アメリカ地域	英語	6	1	9	16
ラテンアメリカ地域	スペイン語	5	2	8	15
	ポルトガル語	2	2	4	8
日本地域	日本語(日本人)	1	1	4	6
	日本語(外国人)	5	1	1	7
東アジア地域	中国語	10	12	11	33
	朝鮮語	6	3	5	14
中央アジア地域	モンゴル語	2	3	3	8
	ロシア語	5	1	1	7
東南アジア地域	インドネシア語	3		2	5
	マレーシア語	1	1	2	4
	フィリピン語	5	1	2	8
	タイ語	5		1	6
	ラオス語	2	1	1	4
	ベトナム語	1		2	3
	カンボジア語	2	2	2	6
	ビルマ語	2		1	3
南アジア地域	ウルドゥー語	2	1		3
	ヒンディー語	2	5	2	9
	ベンガル語		1	4	5
西アジア・北アフリカ地域	アラビア語	7	3	2	12
	ペルシア語		3	2	5
アフリカ地域	トルコ語	5	3	3	11
	英語	2	6	6	14
オセアニア地域	英語	2	6	2	10
総 計		128	90	125	343

2017年9月卒業を含む。

大学院総合国際学研究科 (2018年5月1日現在)

課 程	専 攻	計
博士前期課程	言語文化専攻	10
	言語応用専攻	4
	地域・国際専攻	10
	国際協力専攻	10
	世界言語社会専攻	53
	国際日本専攻	40
	合 計	127
博士後期課程	言語文化専攻	4
	国際社会専攻	4
	合 計	8

2017年度卒業・修了者進路状況

(2018年5月1日現在)

区 分 学部・課程		卒業 者数	進学 者数	就職 者数	内 訳																		専修 学校・外国 の学校等入学者	一時的な 仕事について いた者	左記以外・不 詳・死亡の者
					農業・林業	漁業	鉱業・採石業・砂利採取業	建設業	製造業	電気・ガス・熱供給・水道業	情報通信業	運輸業・郵便業	卸売業・小売業	金融業・保険業	不動産業・物品賃貸業	学術研究・専門・技術サービス業	宿泊業・飲食サービス業	生活関連サービス業・娯楽業	教育、学習支援業	医療、福祉	サービス業	公務	左記以外		
総合	外国語学部	23		14					3		3		1		1	2	1		1		1	1		1	8
	言語文化学部	361	43	286		1		4	81	2	48	19	28	14	6	25	3	3	15	2	9	24	2	3	26
	国際社会学部	343	29	297	1		2	7	68	2	49	23	31	27	4	24	6	7	7		12	26	1	2	13
	小計	727	72	597	1	1	2	11	152	4	100	42	60	41	11	51	10	10	23	2	22	51	3	5	47
大 学	博士前期課程	127	27	55					6		11		7	1	1	10	1	1	9	2	3	2	1	1	44
	博士後期課程	36		15									1			1			12		1			6	15
	小計	163	27	70					6		11		8	1	1	11	1	1	21	2	4	2	1	1	59
合 計		890	99	667	1	1	2	11	158	4	111	42	68	42	12	62	11	11	44	4	26	53	4	6	106

(注) 大学院博士後期課程は、満期退学者を含む。

※ 男女数の内訳、具体的な企業名については、大学ウェブサイト「学生生活・就職 > グローバル・キャリア・センター」参照。

科学研究費補助金による研究プロジェクト一覧

(2018年5月1日現在)

種目	代表者氏名	代表者 所属部局	研究題目
新学域	松永泰行	院・総合国際	国家と制度：固定化された関係性
	床呂郁哉	AA 研	顔と身体表現の文化フィールドワーク研究
	P・ASEATON	院・国際日本	'contents tourism' を通じた文化の伝播と受容に関する国際比較研究
	小川英文	院・総合国際	批判的地域主義に向けた地域研究のダイアレクティック
	近藤信彰	AA 研	イスラーム国家の王権と正統性ー近世帝国を視座として
	篠原琢	院・総合国際	ヨーロッパ東部境界地域における他者概念の形成と空間的再構成
	岩崎絵	院・総合国際	記憶論的転回以後の集合的記憶論の学際的再検討
	中川裕	院・総合国際	稀少特徴と言語地域の音韻類型論：コイサン音韻論の貢献
	根岸雅史	院・総合国際	英語到達度指標 CEFR-J 準拠の CAN-DO 指導タスクおよびテスト開発と公開
	西井凉子	AA 研	人類学的フィールドワークを通じた情動研究の新展開：危機を中心に
	西井凉子	AA 研	グローバル化における権力編成の変動と新たなコミュニティ運動ー東南アジア大陸部から
	青山弘之	院・総合国際	東アラブ地域の非公的政治主体による国家機能の補完・篡奪に関する研究
	投野由紀夫	院・総合国際	CEFR 準拠の外国語教育資源整備用ワークベンチの開発と評価
	吉田ゆり子	院・総合国際	日本近世山里社会の存立条件に関する基盤的研究
	望月源	院・総合国際	大規模会話コーパスの F S 2 v e c 処理による CEFR Can-do 言語教材の開発
	高橋均	院・総合国際	トランスナショナルな紐帯を保持する移民のホスト社会への編入～三つの最新事例～
	高島英幸	院・総合国際	小中連携によるフォーカス・オン・フォーム指導を基盤とした英語学習状況の縦断的調査
	小田原琳	院・総合国際	近現代アルペンーアドリア・ボーダーランドにおける国境編成と住民論理のポリティクス
	風間伸次郎	院・総合国際	アルタイ諸言語の語彙の総合的集成
	呉人徳司	AA 研	北東ユーラシア諸言語の語形成に関する地域類型的研究
基盤 A	高岡豊	その他部局等	中東の紛争地に関係する越境移動の総合的研究：移民・難民と潜入者の移動に着目して
	金富子	院・総合国際	日本・朝鮮・中国東北からみた「満洲」の記憶と痕跡ー輻輳する民族・階級・ジェンダー
	水野善文	院・総合国際	南アジア多言語社会における複合文化のなかの文学伝承
	荒川慎太郎	AA 研	「方向接辞」からみたチベット・ビルマ語系言語の諸相
	井上史雄	院・総合国際	公用語の地域差・時代差に関する社会言語学的総合研究
	藤村知子	院・国際日本	大規模字幕コーパスを利用した Can-do リスト対応型 e ラーニング教材の研究
	伊東祐郎	院・国際日本	JSL 対話型アセスメント DLA の精緻化と外国人児童生徒のための教育的枠組みの構築
	川口裕司	院・総合国際	フランス語、ポルトガル語、日本語、トルコ語の対照中間言語分析
	中見立夫	その他部局等	" 帝国 " 周縁部における国勢調査・人口調査の比較研究
	金井光太郎	その他部局等	高大連携による歴史教育の実践的研究
	青山亨	院・総合国際	東南アジア史の統合的編年プラットフォームの構築：「長い 12・13 世紀」を中心に
	小田淳一	AA 研	インド洋フランス語系クレオール民話の口演の研究
	渡辺己	AA 研	語の統合度と文の相関関係に関する研究ー形態法の異なる言語の比較対照をととしてー
	若松邦弘	院・総合国際	自由主義伝統のなかのイギリス政治と 2000 年代後半以降の変化に関する政治史的研究
	武内進一	現代アフリカ	アフリカにおける紛争の性格変化の基層ー暴力噴出メカニズムの解明に向けて
	今井昭夫	院・総合国際	近現代ベトナムにおける中国プレゼンスの諸相ー連環人文的ベトナム地域研究
	峰岸真琴	AA 研	形態統語論と音声学からみた東南アジア諸語における情報構造の類型論
	望月圭子	院・総合国際	国際連携・高大連携による双方向英語・中国語・日本語学習者コーパスの研究
	高松洋一	AA 研	イスラーム圏における簿記史料の通時的・共時的研究
	立石博高	その他部局等	ヨーロッパにおける地霊論の系譜と記憶の積層化に関する宗教社会史的研究
基盤 B	篠田英朗	院・総合国際	国際立憲主義・安全保障から見たパートナーシップ平和活動の意義
	錦田愛子	AA 研	中東・ヨーロッパ諸国間の国際政策協調と移民／難民の移動に関する研究
	倉部慶太	その他部局等	ビルマの危機言語に関する緊急調査研究
	土佐桂子	院・総合国際	ポスト軍政期ミャンマーにおける宗教 N G O の人類学的研究
	伊東剛史	院・総合国際	グローバル化と「共感の共同体」ー 19 世紀後半から 20 世紀後半を中心にー
	高尾賢一郎	その他部局等	現代ムスリム社会における風紀・暴力・統治に関する地域横断的研究
	中山智香子	院・総合国際	世界システムとオイコノミア：大戦間期の貨幣論の生態的・人類学的考察
	沼野恭子	院・総合国際	ロシア・ウクライナ・ベラルーシの交錯——東スラヴ文化圏の領域横断的研究
	Sen Raj Lakhi	その他部局等	文学と法のグラマトロジー：日本語文学と法・制度の境界横断を中心に
	新谷忠彦	その他部局等	タイ文化圏に関する言語事典の編纂に向けて
	藤縄康弘	院・総合国際	複合判断・単独判断に基づく「主語」相対化の文法理論構築に向けた経験的基盤研究
	吉富朝子	院・総合国際	CEFR-J に準拠した入学から卒業までの英語スピーキング能力の指導・評価システム
	富盛伸夫	その他部局等	アジア諸語の言語類型と社会・文化的多様性を考慮した CEFR 能力記述方法の開発研究
	武内進一	現代アフリカ	アフリカ農村部における資源管理と政治権力
	黒木英充	AA 研	シリア内戦の比較研究ーレバノン・旧ユーゴスラビアの内戦と戦後和解
	床呂郁哉	AA 研	スルー海域世界を中心とする真珠のグローバリゼーションに関する文化人類学的研究
	久野量一	院・総合国際	宗主国の交代と植民地ー20 世紀スペイン語圏カリブ地域文学における共同体意識の研究
	左右田直規	院・総合国際	多元国家マレーシアにおける歴史教科書問題ー歴史観・論争・影響
	李孝徳	院・総合国際	日本における批判的人種主義理論の構築
	宇戸清治	その他部局等	「クンチャーン・クンペーン物語」の総合的研究
基盤 C	塩原朝子	AA 研	Malayo-Sumbawan 言語における定性標示と文構造との関係に関わる研究
	野田仁	AA 研	露清帝国の西方境界における紛争と秩序形成
	河合香史	AA 研	共鳴する「五感」：東アフリカ牧畜民における知覚の共同性に関する人類学的研究
	福島康博	その他部局等	イスラームに基づく商品・サービスの規格化と地域・産業間比較研究：東南アジアの例
	勝畑冬実	その他部局等	エジプト映画における「イスラーム」表象の変遷とその分析
	八木久美子	院・総合国際	グローバル化時代のイスラム言説生成過程に関する研究：ファトゥワを中心に
	外川昌彦	AA 研	岡倉天心とタゴールの反響するアジアへのまなざしー植民地主義をめぐる日印の比較研究
	品川大輔	AA 研	言語ドキュメンテーションに基づくバントウ諸語のミクロな類型的多様性の探究
	渡辺己	AA 研	スライアモン・セイリッシュ語の焦点構文に関する研究
	谷口龍子	院・国際日本	多言語社会台湾の日本語人ナラティブに見られる言語混用と日本語人フレーム調査の試み
	川村大	院・国際日本	ラレル文の史的展開に関する基礎的研究
	中井陽子	院・国際日本	会話データ分析の手法を用いたインターアクション能力育成のための教材開発
	小林幸江	その他部局等	日本を超えた日本語教育ー海外の大学との遠隔授業を通じた共通日本語の可能性を探るー
	長渡暁一	その他部局等	アラビア語の会話体と文章体の統合的使用語彙調査と学習者用語彙目録作成
	木村曉	その他部局等	中央アジア・イスラーム王権の正統性と宗派問題に関する歴史学的研究
	太田信宏	AA 研	植民地インドのマイスール藩王国における文芸と王権
	伊東剛史	院・総合国際	近代イギリスにおける動物福祉の歴史的生成ー実践・制度・理念の総合的研究
	宮城徹	院・国際日本	紛争地域を抱える複数の大学間オンライン授業プログラムーその改善に向けた評価ー
	渡邊啓貴	院・総合国際	グローバルプレイヤーとしてのフランスの「影響力外交」の考察
	椎野若菜	AA 研	東アフリカ都市におけるエリート・シングルとハウスガールの「同居家族」の研究
基盤 D	高島淳	AA 研	インドにおける仏教の終焉の解明
	鈴木聡	院・総合国際	2 0 世紀後半以降における間テクスト的読解方法の展開に立脚した物語理論の構築
	林佳世子	院・総合国際	オスマン碑文詩の研究
	伊藤智ゆき	AA 研	朝鮮語諸方言における複合語・派生語のアクセント研究
	益子幸江	院・総合国際	声調言語と非声調言語のリズムに関する研究
	秋廣尚恵	院・総合国際	コーパスに基づくフランス語の接続表現の共時的・通時的的研究
	丸山由紀子	その他部局等	15 世紀ロシアにおける言語文化と南スラヴの影響
	山越康裕	AA 研	シネヘン・ブリヤート語をはじめとしたモンゴル諸語の「文」の完結性に関する研究
	上田広美	院・総合国際	クメール語の複数動詞文における動詞の下位分類に関する記述的研究
	花園悟	院・国際日本	危機言語教育に対する日本語教育の方法の適用 (2)ー沖縄語基礎語辞典の開発ー
	鈴木智美	院・国際日本	日本語学習者の学習ツール使用状況の解明と教師の教育支援リテラシーを結び総合的研究

種目	代表者氏名	代表者 所属部局	研究題目
基礎 C	内藤稔	院・総合国際	子育て支援相談に携わるコミュニティ通訳者養成教材の研究
	吉村貴之	その他部局等	ソヴィエト体制を容容させた二つのアルメニア・ナショナリズム
	千葉敏之	院・総合国際	「悦楽の園」にみる12世紀ヨーロッパのダイアグラムの思考術とその波及
	山内由理子	院・総合国際	移民と先住民のルーツを生きるー北西部オーストラリアの日本人移民と先住民
	上村明	その他部局等	モンゴル牧畜社会におけるプリコラージュの研究
	吉田ゆかり	AA 研	ジャカルタにおけるバリ芸能の民族誌ー宗教間・民族間の交渉と相互理解を焦点に
	若松邦弘	院・総合国際	摩擦の回避から社会統合へー「コミュニティ関係」モデルの変容に関する研究
	久米順子	院・総合国際	中世イベリア半島のキリスト教美術とその集会的記憶：マイノリティの役割の（再）評価
	丹羽京子	院・総合国際	ベンガル語ベンガル文学の総合的研究
	佐々木あや乃	院・総合国際	ペルシア語神秘主義詩人ルーミーのマスナヴィー（叙事詩）に関する基礎的研究
	匹田剛	院・総合国際	ロシア語の非典型的な名詞句としての数量詞句の記述的・理論的研究
	中山久美子	その他部局等	ヌートカ語アハウザット方言の自然談話データベース構築およびテキスト集の作成
	野元裕樹	院・総合国際	マレー語地域変種における受動文のミクロ変異研究とコーパス・語彙資源開発
	呉人徳司	AA 研	動詞の他動性に関するチュクチ語とモンゴル語の比較対照研究
	伊集院郁子	院・国際日本	評価者・学習者・意見文の分析に基づく評価の検証：作文の自律学習支援を目指して
	本田ゆかり	その他部局等	日本語教育語彙リストの開発ー読解語彙 6000 語の選定ー
	大津友美	院・国際日本	ASEAN 日系企業における異文化間コミュニケーションの研究
	ロジャデソウザルシオマヌエル	その他部局等	The first Asian/Japanese communities in Europe and the Americas in the sixteenth and seventeenth centuries.
	ビシテリエリゼウ	その他部局等	The first Japanese community in the State of Para (North of Brazil)
	二木博史	その他部局等	内外モンゴルの外邦国の歴史学的研究
	芹生尚子	院・総合国際	近世フランスの軍隊社会に関する基礎的研究
	深澤秀夫	AA 研	マダガスカルにおける損失の回復をめぐる観念の歴史的過程と共時的生成の統合的研究
	若松邦弘	院・総合国際	イギリス政治における「疎外」の複層性と争点変化ーローカルレベルの政党支持の分析
	田島充士	院・総合国際	多文化社会を創造的に生き抜くためのリーダーシップ養成：「異文化跳躍力」の提案
	萩尾生	特命事項	フランコ体制下におけるバスク語復興の再検討ーバスク語教育の越境性の観点からー
	栗原浩英	AA 研	「同志性」からみたベトナム・中国関係の変容と展望に関する研究
若手 B	坂井真紀子	院・総合国際	カメルーンにおける定期市ネットワークの社会学的研究
	友常勉	院・国際日本	ケガレ・キヨメ体制の地域間比較とその今日的展開に関する基礎的研究
	平野宏子	院・国際日本	QJAD と総合日本語教科書を用いた体系的な音声指導法の確立
	大津友美	院・国際日本	日本語を第二言語とする話者同士のコミュニケーションの研究
	佐久間寛	AA 研	人類学的手法を取り入れた黒人文化総合誌「プレザンス・アフリケヌ」の複合的研究
	佐久間寛	AA 研	サハラ南縁地域をめぐるモラル・エコノミー論的土地制度研究を通じた所有概念の再構築
	野元裕樹	院・総合国際	数の仕組みとその文法・情報構造との連関の通言語的研究
	海老原志穂	その他部局等	東西方言から見たチベット語の基層の研究
	刈谷康太	AA 研	18-19 世紀の西アフリカ・ハウサランドにおけるムスリムと非ムスリムの境界
	池田昭光	その他部局等	レバノン高齢社会の人類学的研究ー親族・国外移民・家事労働者
	鈴木真弥	その他部局等	現代インド・英国のカーストとダリト運動をめぐるグローバル化の重層的展開
	石澤徹	院・国際日本	語彙学習における学習者特性の影響
	鈴木健太	その他部局等	社会主義ユーゴスラヴィアにおける多民族空間の形成および崩壊とナショナリズム
	須永恵美子	その他部局等	20 世紀の南アジア・イスラーム思想の再構築に向けた基礎的研究
	日本尚徳	その他部局等	ベンガル湾沿岸地域における災害脆弱性とレジリエンスに関する比較研究
	三代川寛子	その他部局等	エジプトのナショナリズムにおける民族概念と宗教的アイデンティティ
	熊倉和歌子	AA 研	中東・北アフリカ地域における黒死病前後の環境変動と疫病流行
	岩本佳子	その他部局等	オスマン朝とクルド、チュルク系遊牧民の交流と対立の史的研究
	渡辺周	その他部局等	撤退の意思決定に役員構成が与える影響を規定する要因に関する実証研究
	内山直子	その他部局等	メキシコ経済発展のパラドックス：日系自動車産業を事例に
	逆井聡人	その他部局等	冷戦期日本における文化と移動：在日朝鮮人文学を中心に
	安達真弓	その他部局等	ベトナム系移民の言語使用から見るコードスイッチング生起の言語的要因と社会的要因
	児倉徳和	AA 研	人稱標示・人稱標識に注目したアルタイ諸言語の機能的類型論
	小山内優子	その他部局等	日本語史・朝鮮語史研究のための日朝対訳資料研究
	長屋尚典	院・総合国際	多角的なデータから明らかにするタガログ語の文末助詞の機能と音調
	飯倉江里衣	その他部局等	満洲国軍出身日本人による満洲経験と自己をめぐる記憶・認識
	上原こずえ	その他部局等	個人史から見る環太平洋地域を越境する社会運動のネットワーク
若手 A	小倉智史	AA 研	ムガル宮廷における翻訳活動ー「ヨーガヴァーシシュタ」ペルシア語訳の研究
	小森真樹	その他部局等	20 世紀後半アメリカ合衆国におけるミュージアムの文化史と近代的芸術観の形成
	松波康男	現代アフリカ	苦悩に対処する社会装置としての儀礼に関する人類学的研究：エチオピアの事例から
	柏崎正憲	その他部局等	シティズンシップの政治思想史に向けて ジョン・ロックにおける政治的成員資格の概念
	大槻忠史	その他部局等	旧制高商における経済調査活動にかんする包括的研究
	出町一恵	現代アフリカ	天然資源依存経済におけるマクロ経済と産業の推移に関する分析
	丸山空大	その他部局等	近現代のユダヤ人にとって宗教法（律法）の遵守は何を意味するのか？
	青井隼人	その他部局等	声門化子音の音響特性の記述と音韻論的解釈：北琉球沖縄語伊江方言の事例研究
	布川あゆみ	その他部局等	ドイツにおける移民の統合問題：移民の親の教育期待に着目して
	荒原邦博	院・総合国際	ブルースにおけるヴェルヌ受容の生成論的・歴史分析的研究ー文学・美術・進歩主義
	河合香史	AA 研	Others: The Evolution of Human Sociality
	丸山空大	その他部局等	フランツ・ローゼンツヴァイク
	海老原志穂	その他部局等	アムド・チベット語文法
	岩本佳子	その他部局等	帝国と遊牧民
	巽由樹子	院・総合国際	ツァーリと大衆
	熊倉和歌子	AA 研	中世エジプトの土地制度とナイル灌漑
	竹村和朗	その他部局等	現代エジプトの沙漠開発
	斎藤藤子	その他部局等	18-19 世紀ビルマにおける借金証文の研究ー東南アジアの一つの近世ー
	若狭基道	その他部局等	A Descriptive Study of the Modern Wolaytta Language
	板野みずえ	その他部局等	中世和歌における叙景表現の研究
	高尾賢一郎	その他部局等	イスラームと社会統治に関する研究 ヒスバ制度を事例に
	杉江あい	その他部局等	イスラームのトランスナショナル・ネットワークとバングラデシュ村落社会の変動
	篠田英朗	その他部局等	イラク紛争における人民動員隊の役割と非国家主体としての影響
	澤田ゆかり	その他部局等	グローバル化と労働ガバナンス：中国と日本における労働と社会運動に関する研究
	岩田啓介	その他部局等	清朝のアムド支配からみたチベット仏教世界再編
	竹村和朗	その他部局等	現代エジプトのワクフに関する人類学的研究
	大竹昌巳	その他部局等	契丹語文法の記述的研究
	土肥麗	その他部局等	ドロミテ・ラディン語における疑問の小辞
	宮内拓也	その他部局等	顕在的な冠詞がない言語における名詞句の統語構造と意味解釈の研究
国際共同研究助成	新里喜宣	その他部局等	韓国シャーマニズム言説の形成過程に関する宗教学研究：1960-80 年代を中心に
	貞包和寛	その他部局等	言語呼称の分裂の社会言語学的研究 ポーランドのマイノリティ言語を例として
	川本渚凡	その他部局等	英語習得段階・目的を考慮した教授・学習用例文の満たすべき条件とは
	須永恵美子	その他部局等	現代南アジアにおけるイスラーム復興思想の均衡と社会運動
	伊藤智ゆき	AA 研	韓国語慶尚道方言のアクセント研究（国際共同研究強化）
	錦田愛子	AA 研	ドイツのアラブ系移民・難民の移動と受け入れに関する学際的研究（国際共同研究強化）
	伊東剛史	院・総合国際	近現代イギリスにおける「人と動物の関係史」ー領域設定による総合的理解モデルの構築

附属図書館蔵書数 / 出版物数

(2018年5月1日現在)

[附属図書館蔵書数 ※アジア・アフリカ言語文化研究所を含む全蔵書冊数]

和漢書	洋書	製本雑誌等	計
302,115	467,428	93,807	863,350

[言語別図書内訳 ※アジア・アフリカ言語文化研究所を除く]

区 分	図書の冊数	区 分	図書の冊数	区 分	図書の冊数	
英語	129,753	日本語	217,726	ビルマ語	3,638	
ドイツ語	26,025	中国語	57,437	ウルドゥー語	8,554	
ポーランド語	7,312	朝鮮語	11,483	ヒンディー語	19,662	
チェコ語	2,311	インドネシア語	4,956	ベンガル語	3,386	
フランス語	25,356	マレーシア語(マライ語)	4,439	アラビア語	5,675	
イタリア語	10,310	フィリピン語(タガログ語)	372	ペルシア語	3,337	
スペイン語	23,471	タイ語	5,535	トルコ語	4,202	
ポルトガル語	10,440	ラオス語(ラオ語)	2,506	その他	オランダ語	2,789
ロシア語	42,602	ベトナム語	3,477		インド諸語	7,621
モンゴル語	7,178	カンボジア語(クメール語)	1,406		その他	76,030
				合計	728,989	

[雑誌タイトル数]

和漢雑誌	洋雑誌	計
6,204	3,565	9,769

出版会出版点数(総数)

学術・教養	翻訳	教材	計
22	12	15	49

アジア・アフリカ言語文化研究所出版物(2017年度刊行)

タイトル	計
アジア・アフリカ言語文化研究	2
アジア・アフリカの言語と言語学	1
NUSA: Linguistic studies of Languages in and around Indonesia	1
地域・文化研究	18
言語研修テキスト	2
アジア・アフリカ基礎語彙集	0
フィールドプラス	2
電子出版物	9
計	35

アカデミー講座

		期 間	開講講座数	受講者数
春期間	語学講座	4月～7月	78	998
	教養講座		13	170
夏期間	語学講座	7月～9月	43	523
	教養講座		6	73
秋期間	語学講座	10月～2月	72	987
	教養講座		8	105
合 計			220	2,856

一般聴講生制度

	期 間	開講科目数	受講者数
春学期	4月～7月	150	283
夏学期	7月～9月	14	29
秋学期	10月～1月	125	205
冬学期	1月～3月	14	31
合 計		303	548

大学の財政状況

予算(2018年度)

(単位:百万円)

収入		支出	
区分	金額	区分	金額
運営費交付金	3,106	業務費	5,634
補助金等収入	208	教育研究経費	5,634
大学改革支援・学位授与機構施設費交付金	15	施設整備費	15
自己収入	2,468	補助金等	148
授業料、入学科及び検定料収入	2,154	産学連携等研究経費及び寄附金事業等	103
雑収入	314	合 計	5,900
産学連携等研究収入及び寄附金収入等	103		
合 計	5,900		

科学研究費助成事業交付状況(2018年度)

(単位:千円)

研究種目	交付件数 (件)	交付総額 (千円)	部 局							
			大学院総合国際学研究院		大学院国際日本学研究院		アジア・アフリカ 言語文化研究所		その他	
新学術領域研究 (研究領域提案型)	2	34,580	1	20,020			1	14,560		
基盤研究	A	11	98,540	7	61,230	1	5,460	3	31,850	
	B	42	177,190	20	79,950	2	7,410	8	35,620	12
	C	64	75,400	24	30,680	9	10,920	16	16,510	15
挑戦的萌芽研究	2	1,170				2	1,170			
挑戦的研究(萌芽)	1	2,730					1	2,730		
若手研究	A	1	1,300				1	1,300		
	B	14	12,480	1		1	1,040	2	1,690	10
		13	15,080	1	1,170		2	2,990	10	10,920
研究活動スタート支援	4	4,420	1	1,430					3	2,990
研究成果公開促進費	9	15,100	1	1,100			2	4,000	6	10,000
特別研究員奨励費	14	15,000							14	15,000
国際共同研究加速基金	3	15,340	1	15,340			2			
計	180	468,330	57	210,920	16	26,000	38	111,250	70	120,160

※金額は直接経費と間接経費の合計金額

外部資金受入状況(2017年度)

(単位:千円)

区 分	受入件数 (件)	受入総額 (千円)	部局							
			大学院総合国際学研究院		大学院国際日本学研究院		アジア・アフリカ 言語文化研究所		その他	
共同研究	1	1,080							1	1,080
受託研究	7	19,905	3	6,331			4	13,574		
受託事業	4	6,012							4	6,012
寄附金	14	14,862	2	1,505					12	13,357
著作権収入	5	194							5	194
計	31	42,053	5	7,836			4	13,574	22	20,643

大学の財政状況／土地・建物

進行中の主な補助金事業

(2018年5月1日現在)

事業名	プロジェクト名
スーパーグローバル大学創成支援事業 (タイプB: グローバル化牽引大学)	人と知が循環を支えるネットワーク中核大学 ―世界から日本へ、日本から世界へ―
国立大学の機能強化事業	国際日本研究の推進 ―日本の発信力強化―
大学の世界展開力強化事業(中南米)	日本と中南米が取組む地球的課題を解決する文理協働型人材育成プログラム (東京外国語大学・東京農工大学・電気通信大学の3大学連携事業)
大学の世界展開力強化事業(ASEAN)	日本発信力強化に貢献するミャンマー・ラオス・カンボジア 知日人材養成プログラム
大学の世界展開力強化事業(ロシア)	日露人的交流の飛躍的拡大に貢献する TUFS 日露ビジネス人材育成プログラム
大学教育再生加速プログラム(AP)	高大接続改革推進事業～卒業時における質保証の取組の強化～
ダイバーシティ研究環境実現	女性研究者の活躍推進を実現する“関東プラットフォーム”の創成と全国展開

土地面積

(単位:㎡)

地区	校舎等敷地	屋外運動場	研修施設敷地	外国人教師宿舍敷地	職員宿舍敷地	合計
府中地区	102,443	27,557				130,000
戸田地区			1,671			1,671
田沢湖地区			4,488			4,488
吉祥寺地区				1,224		1,224
保谷地区					2,805	2,805
滝野川地区					2,029	2,029
本郷地区	95					95
合計	102,538	27,557	6,159	1,224	4,834	142,312

建物面積

(単位:㎡)

地区	校舎	図書館	体育館	福利施設	研修施設	国際交流会館	寄宿舍	その他管理部	外国人教師宿舍	研究所	職員宿舍	合計
府中地区	36,876	6,930	6,167	3,902		7,839	3,288	7,525		8,149		80,676
戸田地区					779							779
田沢湖地区					584							584
吉祥寺地区									764			764
保谷地区											1,732	1,732
滝野川地											1,920	1,920
本郷地区	724											724
合計	37,600	6,930	6,167	3,902	1,363	7,839	3,288	7,525	764	8,149	3,652	87,179

国際化のための多様性

単位:人(割合)

区 分	実績(年度)		目標(年度)
	2013	2018.5.1	2023
外国教員等 ※1	197 (80.7)	194 (74.3)	239 (94.0)
外国人職員等 ※2	12 (9.0)	22 (16.1)	22 (15.7)
外国人留学生	558 (12.2)	751 (15.9)	809 (17.3)
外国人留学生 (通年数)	698 (15.3)	1,021 (21.7) ※3	1,216 (26.0)

※1…外国の大学で学位を取得した日本人教員等を含む

※2…外国の大学で学位を取得した日本人職員等を含む

※3…2017 年度実績

国際化のための流動性(通年)

単位:人(割合)

区 分	実績(年度)		目標(年度)
	2013	2017	2023
海外留学経験者数 (学部生)	119 (3.2)	825 (22.5)	1,460 (41.7)
海外留学経験者数 (院生)	0 (0.0)	20 (6.3)	26 (7.7)
3 か月以上研究派遣された大学院生数	32 (10.3)	41 (12.9)	52 (15.4)
協定に基づく派遣日本人学生数	310 (6.8)	950 (20.2)	1,672 (35.7)
協定に基づく受入外国人留学生数	196 (4.3)	452 (9.6)	595 (12.7)

留学の全世界的展開(通年)

単位:人(割合)

区 分	実績(年度)		目標(年度)
	2013	2017	2023
本学学生の全世界的展開	447	1,613	1,740
北米へ	44 (9.8)	216 (13.3)	147 (8.4)
欧州へ	183 (40.9)	536 (33.2)	462 (26.5)
ロシア・中央アジアへ	66 (14.7)	119 (7.3)	178 (10.2)
アフリカへ	1 (0.2)	55 (3.4)	50 (2.8)
中近東へ	20 (4.4)	81 (5.0)	145 (8.3)
東南アジアへ	45 (10.0)	256 (15.8)	205 (11.7)
南アジアへ	1 (0.2)	32 (1.9)	113 (6.4)
東アジアへ	69 (15.4)	168 (10.4)	256 (14.7)
中南米へ	11 (2.4)	70 (4.3)	134 (7.7)
オセアニアへ	7 (1.5)	80 (4.9)	50 (2.8)

国際化のための語学力(通年)

単位:人(割合)

区 分	実績(年度)		目標(年度)
	2013	2017	2023
外国語による授業科目数	144 (6.0)	272 (11.6)	252 (11.3)
英語による授業科目数	104 (4.4)	192 (8.2)	218 (9.8)
外国語のみで卒業できるコース数	1 (5.6)	1 (5.0)	7 (30.4)
外国語力基準(TOEIC800点相当)を満たす学生数	1,077 (23.6)	1,718 (36.6) ※2	3,907 (83.6)
チャレンジ目標達成者[チャレンジ目標: TOEIC900、英語以外でCEFR-J/C1、 英語を含め3つ以上の言語でB2](%)	0 %	14.2 %	60.0 %
Joint Education Program 実施数(件)	3 (実数)	32 (実数)	50 (実数)

※2…2018 年 5 月 1 日実績

国際化のための国際開放度

区 分	実績(年度)		目標(年度)
	2013	2017	2023
海外拠点 Global Japan Office 数	0 (実数)	15 (実数)	38 (実数)

女性の活躍の現状

(2018年5月1日現在)

管理職に占める女性教職員等の割合

区 分	割合
副学長	50%
学長補佐	33%
部局長等	47%
部長	50%
課長	14%
全体	34%

男女比

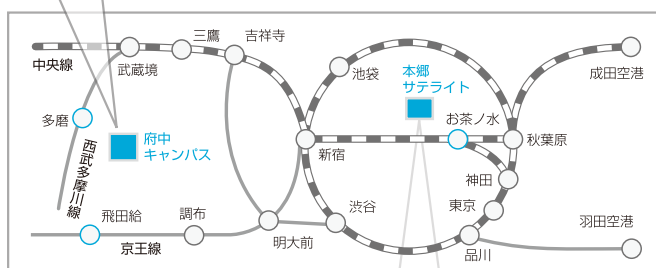
区 分	男性	女性
教員	63.6%	36.3%
事務職員	62.5%	37.5%
学部生	33.6%	66.4%
大学院生	37.8%	67.9%

東京外国語大学 府中キャンパス

- JR中央線「武蔵境」駅のりかえ
西武多摩川線
「多磨」駅下車
徒歩5分
(JR新宿駅から約40分)
- 京王電鉄「飛田給」駅北口より
多磨駅行き京王バスにて
約10分
「東京外国語大学前」下車

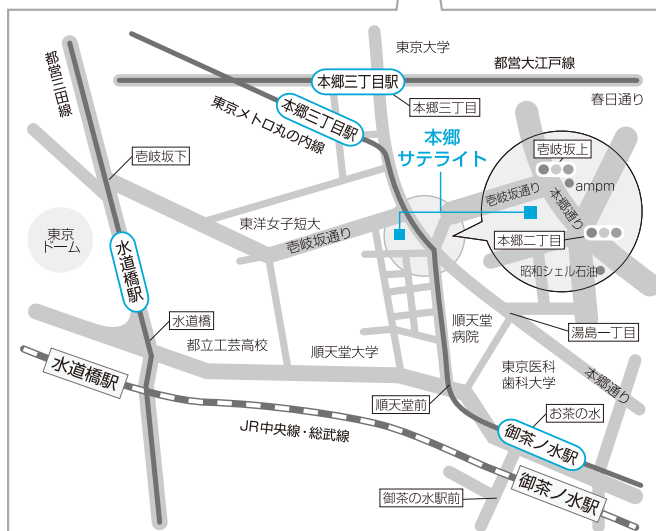


【路線図】



東京外国語大学 本郷サテライト

- 地下鉄(丸ノ内線・大江戸線)
「本郷三丁目」駅下車
徒歩5分
- JR中央線・総武線
「御茶ノ水」駅下車
徒歩10分



お問合せ先

府中キャンパス

〒183-8534 東京都府中市朝日町 3-11-1

Tel : 042-330-5111

本郷サテライト

〒113-0033 東京都文京区本郷 2-14-10

Tel : 03-5805-3254